

東京

丸善株式會社

三谷獨逸文典 卷一

三谷金女三著

增補再版

Witani

Deutsche Grammatik



Schul- und Privatgebrauch

verfasst

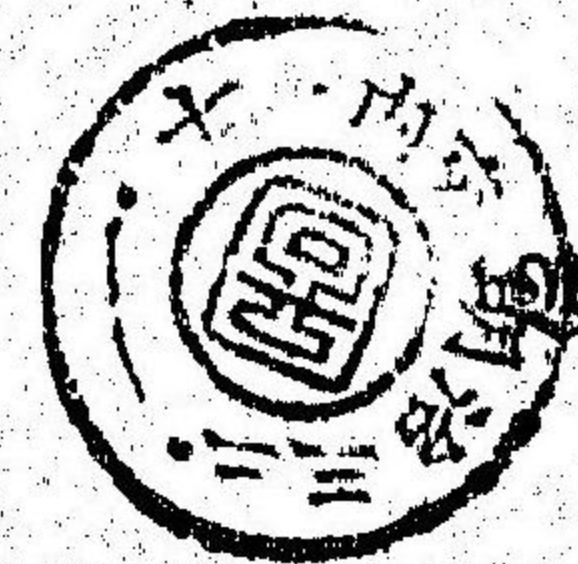
von

H. M. S. Witani.

Erster Teil.

Zweite und vermehrte Auflage.

TOKYO.



Verlag von Z. P. MARUYA & Co.
(Maruzen Kabushiki Kaisha.)

1899.

序 文

波濤萬里を隔離し西洋の文明を輸入せんとするには洋書を讀むにわらずんば能はず洋學の必要茲に其大なるを知るべし大凡洋學を學ばんとするに際し吾人の就中重するものは譯解なりとす譯解の力なくんば縱令數百の欲くべからざる良書ありと雖も解すること能はず解すること能はざれば書籍を媒介して文明を輸入すること能はざるべし亦僅々なる解釋力あるとすれば容易なる文章は理會することを得るといへども少しく難意なる文章にありては毫も解すること能はざるのみならず甚だしきに至りては雲泥萬里の誤譯を爲して其迷雲をはらすあたはず折角必要貴重なる文明的新志想を掲載せる文章も讀者其者の學識の足らざる故をもつて毫も價值なきものとなるにいたらむ豈に慨歎の極ならずや斯くの如き弊害を防せがんとするには文典を讀まざるべからず文典は實に譯解と親密なる關係を有し文典を知らざれば文意を解釋することを得ず解釋力の有無は文典を知ると知らざるとに基因す文典の必要唯これに止まらず實に文典は語學の基礎にまて語學を學ばんと欲するものには一日も必要欲くべからざるものなり是に依りて余は初學者の爲に一文典を著さんと欲し茲に出版するに至りぬ此文典は初學者の爲に特

に便利を與へんと欲し諸般の規則は皆な日本文にて記載し其文意に亦た解し難からむと思はるゝものに限り更に註解を加ねたり此文法書は上下二卷に分かれ上編には詞學を論し下編には文章學を論す下篇は本年の末に至らざれば脱稿するにいたらざるべし下篇には讀者に約して卷尾に新正字學の用語目録を掲げ本邦に於ける獨逸語學上に一大改良を與へんことを期す何となれば本邦に於て二三の學者をのぞき皆な古正字學を保守し爲に古正字學未だすたれず世に陳腐の獨逸語流行しつゝあるを以てなり故に余は此流行しつゝある惡習慣を後篇の出版と共に一蹴して悉皆其跡をたゞむとす文典の必要を論し後篇に新正字學用語目録を掲げること約する文を卷の首のべて序のかはりとなすと爾云

明治卅年七月

熊本に於て

編者識

目 録

詞 學

(其一) 言語及綴.....	1	(其五) 冠詞に就きて.....	11
(其二) 音及文字.....	1	(其六) 名詞の變化.....	14
1. 母音の文字.....	2	I. 強變化.....	14
2. 子音の文字.....	2	II. 弱變化.....	15
(其三) 初音, 中音, 止音.....	3	III. 混合變化.....	15
(其四) 原綴, 前綴, 後綴.....	3	(其七) 固有名の變化.....	21
(注意)	4	[[第貳章]] 形容詞.....	25-38
(其五) 根音.....	4	(其一) 形容の變化.....	27
(其六) 單言語と複合言語.....	4	I. 強變化.....	27
(其七) 詞の種類.....	4	II. 弱變化.....	29
1. 有變化詞.....	5	III. 混合變化.....	31
2. 無變化詞.....	5	(其二) 形容詞の比較變化.....	33
		(其三) 形容詞の支配.....	35
		[[第參章]] 動詞.....	38-80
		(其一) 動詞の種類.....	38
		(其二) 動詞の變化.....	42
[[第壹章]] 名詞.....	6-25	I. 動詞の人稱及數の關係.....	42
(其一) 名詞の種類.....	6	II. 動詞の時.....	42
I. 有形名詞.....	6	III. 動詞の説話法.....	45
II. 無形名詞.....	7	IV. 分離動詞と非分離動詞.....	49
(其二) 性.....	7	B. 動詞の變化組織.....	51
(其三) 數.....	9	助動詞の變化.....	54
(其四) 格.....	10		

hart, schön, steil, gut, schwarz, Schmuck, Fleiß, kraus, schlecht, Dorf, Freund.

1. 母音の文字 (Selbstlauter oder Vokale.)

a, c, i, o, u.
A, C, I, O, U.

母音と母音と重なりたるものを重韻と謂ふ則ち

ai, ei, vi, ui, au, eu.
Ai, Ei, Vi, Ui, Au, Eu.

其他變母音を附したるもの即ち

ä, ö, ü, äü.
Ä, Ö, Ü, ÄÜ.

2. 子音の文字 (Mittlauter oder Konsonanten.)

b, c, d, f, g, h, i, k, l, m, n,
B, C, D, F, G, H, I, K, L, M, N,
p, q, r, s, t, v, w, x, y.
P, Q, R, S, T, V, W, X, Y.

其外各段なる音を顧す所の子音の結合あり即ち

ch, sch, ph, sp, st, pb, pf.
Ch, Sch, —, Sp, St, Ph, Pf.

其外同子音の互に結合したるものあり即ち

bb, dd, ff, gg, ff, ll, mm, nn,
pp, rr, ss, ss, tt.

(其 三) 初音, 中音, 止音, (Anlaut, Inlaut, Auslaut.)

或言語に於て其初に顯るゝ所の音を初音と謂ひ其言語を閉る所の音を止音と謂ひ初音と止音との中間にある音を中音と謂ふ例せば bei なる言語に於て b なる子音は初音にして taub なる言語に於て b なる子音は止音なり去れど Taube なる言語に於ては b なる子音は中音なり斯の如き例を列記せば即ち

bei, taub, Taube; zu, Reiz, Reize; los, mal, hole; jo, los, lose; Neh, er, Ehre.

以上列記したる例は悉皆子音のみに付て其例を擧げられど母音にも初音中音止音の三ッあり例せば

an, da, man; und, du, Hund; aus, blau, Maus.

(其 四) 原綴, 前綴, 後綴

(Stammfiben, Vor- und Nachfiben.)

或綴にして自ら意味を保つものを原綴と謂ふ例せば Haus なる綴に於ては家と謂ふ意味を有し Baum なる綴に於ては樹木と謂ふ意味を有し groß なる綴に於ては大なりと謂ふ意味を有す故に Haus, Baum, groß の如きは原綴なり若し綴の自ら意味を有する事なければ其位置に依りて前綴或は後綴と謂ふ例せば

後綴のもの: Häuf=er, Baum=chen, groß=er, Klein=ste, schreib=end.

前綴のもの: Ge=fang, be=such=en, ent=flieh=en, er=zähl=en.

(注意) 或語尾が或母音(er, en)と共に結合したる時には文書或は談話に於ては語尾に顯れたる前綴の子音を後綴の初に引取るを常とす此を文書綴或は談話綴と謂ふ

例せば: Häu=fer, (Häu=er とはならず)
schrei=ben, (schreib=en とはならず)

(其五) 根音 (Hauptton.)

多綴の言語に於ては其中の或綴が強音を有す其強音を有する綴を根音を有する綴と謂ふ此強音を有する綴は大概原綴なり併し ant=, erz=, un=, ur 等の前綴及び ei, なる後綴は根音を有するものなり

例せば Ant=lib, Erz=bischof, Un=art, Ur=sprung, Abt=ei.

(其六) 單言語と複合言語

(Einfache und zusammengesetzte Wörter.)

只一個の原綴を有する言語を單言語と謂ひ數個の原綴を有する言語を複合言語と謂ふ

複合言語にありては原詞、定詞の二個あり例せば Haus=hund なる複合言語にありて Hund は原詞にして Haus は定詞なり

(其七) 詞の種類 (Wortarten.)

獨逸語にありては其詞の種類を大別して二種とす即ち有變化詞及無變化詞是なり

1) 有變化詞 (Flexierbare Wörter.)

有變化詞は更に別れて五種となる其五種の詞は下の如し即ち

1. 名詞 (das Hauptwort oder Substantiv.)

例せば Ein Hund, welcher schläft, fängt keinen Hasen.

2. 形容詞 (das Eigenschaftswort oder Adjektiv.)

例せば Die Hoffnung eines ewigen Lebens ist sehr tröstlich.

3. 動詞 (das Zeitwort oder Verbum.)

例せば Kinder gehen in die Schule, damit sie etwas lernen.

4. 代名詞 (das Fürwort oder Pronomen.)

例せば Der Freund, mit welchem ich gestern spazieren ging, ist heute abgereist.

5. 數詞 (das Zahlwort oder Numerales.)

例せば Adam hatte zwei Söhne; der eine war ein Ackersmann, der andere (zweite) ein Schäfer.

2) 無變化詞 (Unflexierbare Wörter.)

無變化詞は更に別れて四種となる其四種の詞は下の如し即ち

1. 副詞 (das Umstandswort oder Adverbium.)

例せば Der arme Mann verdient wöchentlich nur 36 Groschen.

2. 前置詞 (das Verhältnisswort oder die Präposition.)

例せば Am Grabe der Eltern weint das böse Kind Thränen der bittersten Reue.

3. 接續詞 (das Bindewort oder die Konjunktion.)

例せば Der Hund und die Katze sind Säugetiere.

4. 間投詞 (das Empfindungswort oder die Interjektion.)

例せば *O*, wie angenehm ist der Morgen!

有變化詞 (Flektierbare Wörter.)

(第 壹 章)

名詞 (Das Substantivum.)

(其 一) 名詞の種類 (Arten der Substantive.)

名詞は其種類を大別して二種とす第一を有形名詞といひ第二を無形名詞といふ

I. 有形名詞 (Die Concreta.)

有形名詞は眞の物體の名稱なり有形名詞の中に固有名と普通名との二ツを區別す

1) 固有名 (Eigennamen.) 固有名は單一なる物體に向ての名なり人名、地名、國名或は山海湖沼等に附したる名稱是なり

例せば Mitani, Tokyo, Japan, Sumida, Fuji.

2) 普通名 (Gemeinnamen.) 普通名は同種類の物體の種族、量、或は物質を現すものなり普通名は故に種族名、集合名、物質名の三ツに分離す

a) 種族名 (Gattungsnamen.) 種族名は物體の全き種族に向ての名稱なり

例せば Vater, Haus, Taube, Mensch, Tier.

b) 集合名 (Sammelnamen.) 集合名は同種類の單一なるもの集合して一體と見做されたるもの、名稱なり

例せば Volk, Heer, Wald, Vieh, Gebirge.

c) 物質名 (Stoffnamen.) 物質名は分解して毫も其名を變更せざる物質の名稱なり

例せば Gold, Milch, Mehl, Wein, Wasser.

II. 無形名詞 (Die Abstracta.)

無形名詞は獨立の物體として考へられたる想像の名稱なり無形名詞の中に三種の區別あり

1) 性質の名稱 (Namen für Eigenschaften.)

例せば Jugend, Alter, Fleiß, Größe, Schönheit.

2) 状態の名稱 (Namen für Zustände.)

例せば Zufriedenheit, Seligkeit, Teuring.

3) 動作の名稱 (Namen für Handlungen.)

例せば Gang, Lauf; Geheul, Bettelei.

(注意) 動作の名稱は別れて二となる第一一回的動作第二反復的動作是なり Gang Lauf の如きは一回的動作なれども Geheul, Bettelei の如きは反復的動作なり

(其 二) 性 (Geschlecht oder Genus.)

I. 名詞には三個の性あり其性は男性、女性、中性と謂ふ其男、女、中の性は冠詞 (Artikel) に依りて知る事を得冠詞とは der, die, das 即ち是なり

Der は男性 (männliche Geschlecht oder genus masculinum) を現し

Die は女性 (das weibliche Geschlecht oder genus femininum) を現し

Das は中性 (das sächliche Geschlecht oder genus neutrum) を現す

Der Tisch (机) は男性を有し

Die Thür (戸) は女性を有し

Das Holz (木材) は中性を有す

II. 動詞より導れたる單綴名詞は皆な男性なり而して el, er, en, ing, ling の後綴を有するものは大概男性名詞なり (die Mutter, die Tochter; das Ferkel, Füllen; das Wasser, Eisen, Messing 及び其他の取除あり)

例せば der Gang, Himmel, Finger.

III. in, ei, ung, heit, leit, schaft の後綴を有するものは女性名詞なり (das Betschaft は取り除けなり)

例せば die Königin, Malerei, Wissenschaft.

IV. chen, lein の後綴を有するものは中性名詞なり

例せば das Männchen, Knäblein.

其他 tum, sal の後綴を有するものは中性なり

例せば das Eigentum, Schicksal. (der Irrtum, Reichtum; die Drangsal, Mißsal, Trübsal は取除けなり)

V. 多くの名詞は其性の差異に依りて其意味を異にするものあり

例せば der Band. 冊 das Band. 紐
 der Bauer. 農夫 das Bauer. 鳥籠

der Buckel.	脊儂 ^{セウ}	die Buckel.	扣鈕 ^{セウ}
der Bund.	同盟	das Bund.	把 ^{セウ}
der Chor.	合奏	das Chor.	奏樂所
der Erbe.	相續人	das Erbe.	遺産
der Hut.	帽子	die Hut.	用心
der Kunde.	花主	die Kunde.	報知
der Leiter.	案内者	die Leiter.	梯子
der Messer.	測量家	das Messer.	小刀
der Thor.	愚人	das Thor.	門

(其 三) 數 (Zahl oder Numerus.)

I. 名詞は單數 (Einzahl oder Singularis) 或は複數 (Mehrzahl oder Pluralis) に立つ

單數に於て名詞の立つ場合は其名詞が一箇の事物を現す時に依り

複數に於て名詞の立つ場合は其名詞が二箇以上の事物を現す時に依る

單數 (Einzahl.)	複數 (Mehrzahl.)
der Tisch.	die Tische.
die Thür.	die Thüren.
das Holz.	die Hölzer.

男性, 女性, 中性 の三性共に複數に於ては同一なる冠詞を有す

II. 多くの名詞は單數に於ては u, o, n, au なる母音を有し複數に於ては ü, ö, ü, ön なる變母音を有す

例せば (單數) die Nacht. (複數) die Nächte.
 " der Saal. " die Säle.

例せば (單數) der Knopf. (複數) die Knöpfe.
 " der Busch. " die Büsche.
 " die Maus. " die Mäuse.

III. 多くの名詞は複數に於て e なる語尾を有す

例せば (單數) der Tag. (複數) die Tage.

亦た複數に於て er なる語尾を保つものあり

例せば (單數) das Loch. (複數) die Löcher.

亦た複數に於て en なる語尾を保つものあり

例せば (單數) der Narr. (複數) die Narren.

IV. 複數に於て全く語尾を取らぬ名詞あり

例せば (單數) der Käfer. (複數) die Käfer.
 " der Wagen. " die Wagen.
 " das Tierchen. " die Tierchen.
 " das Kindlein. " die Kindlein.

V. 複數に用ゐられず只單數のみに用ゐらるゝ多くの名詞あり例せば

Atem, Honig, Sahne, Mahm, Stahl, Scham, u. f. w.

VI. 亦た複數のみに用ゐらるゝ名詞あり例せば

Eltern, Ferien, u. f. w.

(其 四) 格 (Fall oder Kasus.)

I. 名詞及び冠詞は單數, 複數に於て種々の形を有す其例として der Sohn (子息) なる言語の變化を下に列記すべし即ち

Jener Herr ist der Sohn. }
 Der Vater gedenkt des Sohnes. } 單
 Der Vater hilft dem Sohne. } 數
 Der Vater liebt den Sohn. }
 Seine Herren sind die Söhne. }
 Der Vater gedenkt der Söhne. } 複
 Der Vater hilft den Söhnen. } 數
 Der Vater liebt die Söhne. }

是なり而して Sohn なる名詞の此種々の形を名詞の格と謂ふ。單複兩數共に四箇の格を有す是を

- 1) 第一格 (Nominativ.) « « ガ
- 2) 第二格 (Genitiv.) « « ノ
- 3) 第三格 (Dativ.) « « ニ
- 4) 第四格 (Accusativ.) « « フ

と謂ふ而して單數第一格に名詞の來るときには毫も其名詞變ずる事なし故に名詞が單數の第一格に於て顯す所の形を原形 (Stamm) と名稱す

(其 五) 冠詞につきて (Von Geischtswort.)

從來ありふれたる文法書には冠詞をば十種の詞の中に入れ來りぬ是は大なる誤にして冠詞は獨立なる或一種の詞類にあらず定冠詞といへるものは指示代名詞の der, die, das より來りたるものにして不定冠詞といへるものは數詞の ein より來りたるものなり* 故に一種固有の詞とし

*(註) 定冠詞と指示代名詞と及び不定冠詞と數詞と互に區別する事を得。そは定冠詞 der, die, das の音は指示代名詞 der, die, das より低く不定冠詞 ein は數詞の ein よりも其の音低き故に其音の高低に依りて指示代名詞と定冠詞とを區別し數詞と不定冠詞とを區別す

て見做こど能はざるものなり去れば冠詞を説明するに際しても冠詞の爲に新一章を設けるが如き愚を爲さずして名詞の中に入れて説明する方宜しきを得たるものなり

I. 冠詞は名詞を通常導く形詞 (Formwort) にして名詞の不完全に且つ欠乏多き數と格との變化を完全に補ふ所のものなり

II. 冠詞には二箇の別あり

1) 定冠詞 (der bestimmte Artikel.)

2) 不定冠詞 (der unbestimmte Artikel.)

a) 定冠詞の變化 (Declination des bestimmten Artikels.)

	男性 (männlich.)	女性 (weiblich.)	中性 (sächlich.)
Nom.	der	die	das
Gen.	des	der	des
Dat.	dem	der	dem
Acc.	den	die	das

定冠詞の複數は男性、女性、中性の三性に通するものなり

即ち

	男性 (männlich.)	女性 (weiblich.)	中性 (sächlich.)
Nom.		die	
Gen.		der	
Dat.		den	
Acc.		die	

b) 不定冠詞の變化 (Declination des unbestimmten Artikels.)

	男性 (männlich.)	女性 (weiblich.)	中性 (sächlich.)
Nom.	ein	eine	ein
Gen.	eines	einer	eines
Dat.	einem	einer	einem
Acc.	einen	eine	ein

不定冠詞は複數を有せず故に不定冠詞を有せし名詞の複數に来る時には無冠詞に立つ

III. 定冠詞は或種族より拔擢したる單一なる物體を綿密に現し不定冠詞は其種族中或一個の單一なる物體を現す故に der, die, das は この その といふ意味を有し ein, eine, ein は 或る といふ意味を有す

IV. Karl, Bertha, Cicero, Goethe の如き固有名は冠詞を有せざれど若し此等の人名が種族名として用ゐらるる時には冠詞を有す

例せば Er ist der (oder ein) Cicero unserer Zeit.

(此場合には Cicero のやうな演説者で彼があると謂ふ意なり)

Sie ist eine wahre Xanthippe.

(此場合には彼女は眞の Xanthippe のやうな喧嘩好な婦人であると謂ふ意なり)

V. Brot, Wasser の如き物質名及び Tugend, Not の如き無形名に於て其意味狭からず廣く一般を指す折は冠詞を有する事なし

例せば Brot backen, Wein trinken, Fleisch kaufen.

Geduld haben, Not leiden, Not bricht Eisen.

1. 併し廣き意味を有せず限られたる意味を有する場合即ち此水とか其のパンとか謂ふが如き場合には冠詞を有す

例せば Gib mir ein (das) Brot; das Wasser des Rheins. (ライン河)

VI. 同性同数の数多の名詞連続する時には通常最初の名詞のみ冠詞を有し他は無冠詞に立つ

例せば der Löwe, Tiger, Luchs und Wolf sind reisende Tiere. Der Freund und Nachbar dieses Mannes.

- 1. 併し異性異数の名詞連続する時には皆な冠詞を付るものなり

例せば Der Wolf und die Hyäne sind grausam. (Der Wolf und Hyäne とは謂ず) Die Mutter und die Schwestern sind ausgegangen. (Die Mutter und Schwestern とは謂ず)

(其六) 名詞の變化 (Declination der Substantive.)

- 1. 名詞の變化に三種の別あり第一を強變化と謂ひ第二を弱變化と謂ひ第三を混合變化と謂ふ 強變化に屬する名詞に三式あり 1) (第一式) 複數の一格に於て變化を有せざるもの 2) (第二式) 複數の一格に於て e なる語尾を取るもの 3) (第三式) 複數の一格に於て er なる語尾を取るもの 2. 弱變化に屬する名詞は複數の一格に於て n 或は en なる語尾を取る名詞なり 3. 混合變化に屬する名詞は單數は強變化に従ひ複數は弱變化に従ふ名詞なり 4. 今下に強, 弱, 混合の三變化の表を示さん

1.) 強變化

Table with 4 columns: (單數), (1), (2), (3) and 4 rows: Nom., Gen., Dat., Acc. showing declension patterns for strong declension.

2.) 弱變化

Table with 2 columns: (單數), (複數) and 4 rows: Nom., Gen., Dat., Acc. showing declension patterns for weak declension.

3.) 混合變化

Table with 2 columns: (單數), (複數) and 4 rows: Nom., Gen., Dat., Acc. showing declension patterns for mixed declension.

(注意) 女性名詞は單數に於ては變化せざるものなり 故に強, 弱, 混合, の三變化の單數に於て變化する語尾は 男性中性の名詞に應用するなり但し中性名詞には弱變化なし

I. 強變化 (Starke Declination.)

Table with 3 columns: (單數), (第一式), (複數) and 4 rows: Nom., Gen., Dat., Acc. showing declension patterns for strong declension with examples.

(單數) (第二式) (複數)

Table with 3 columns: (單數), (第二式), (複數) and 4 rows: Nom., Gen., Dat., Acc. showing declension patterns for strong declension with examples.

(單數)	(第三式)	(複數)
Nom. das Buch, der Mann.	-er	die Bücher, Männer.
Gen. -es des Buches, des Mannes.	-er	der Bücher, Männer.
Dat. -e dem Buche, dem Manne.	-ern	den Büchern, Männern.
Acc. das Buch, den Mann.	-er	die Bücher, Männer.

1. 強變化を有するものは男性中性の或る名詞にして女性の或名詞も強變化を複數のみに於て有す
2. 複數の一格を語尾に依りて單數の一格より區別せざる第一式強變化には女性なる Mutter, Tochter の外に el, en, er なる語尾を有する男性及び中性名詞の大部分が屬す而して此男性名詞は大概是變母音を複數に於て有し中性名詞は das Kloster (複數 Klöster) の外複數に於て變母音を有せず
例せば der Schlüssel, Spiegel, Garten, Graben, Wagen; das Siegel, Feuer, Fenster, Wasser etc.
3. 其他 der Käse 及び Ge なる前綴と e なる語詞とを有する中性名詞は第一式強變化に従ふ
例せば das Gebäude, Gebirge, Gewebe etc.
4. 亦た -en 及び -lein なる語尾を有する單縮言は第一式強變化に従ふ
例せば Mädchen, Blümchen, Fräulein, Kindlein etc.
5. 第二式強變化には男, 女, 中, 三性の或る名詞が屬す第二式強變化に屬する女性名詞は一般に變母音を複數に於て有す
例せば die Aht (Ähte), Braut (Bräute), Brust (Brüste), Faust (Fäuste), Frucht (Früchte), Gans (Gänse), Gruft (Grüste), Hand (Hände), Haut (Häute), Kraft (Kräfte) etc.

6. 第二式強變化に従ふ男性名詞は大概複數に於て變母音を有す
例せば der Arzt (Ärzte), Mal (Male oder Alle), Baum (Bäume), Blitz (Blitze), Eid (Eide), Fisch (Fische), Hahn (Hähne), Hirsch (Hirsche), Hund (Hunde), Knecht (Knechte) etc.
7. 第二式強變化に従ふ中性名詞は只 Floß のみ複數に於て變母音を有す
例せば das Beil (Beile), Bein (Beine), Loos (Lose), Maß (Masse), Schiff (Schiffe), Thor (Thore), Gewicht (Gewichte) etc.
8. 第二式強變化に屬する名詞は -nis, -sal なる語尾を有する名詞なりとす
例せば die Kenntnis (Kenntnisse), das Hindernis (Hindernisse), das Schicksal (Schicksale) etc.
9. 第二式強變化に屬する名詞は -and, -at, -icht, -ig, -ing, -ling, -rich なる語尾を有する男性及び中性名詞なり
例せば Heiland (Heilande), Monat (Monate), König (Könige), Jüngling (Jünglinge), Fähnrich (Fähnriche) etc.
10. 其他 der Abt, Altar, District, General, Patron etc.; das Konzert, Epigramm etc. の他國名詞は第二式強變化に従ふ
11. 第三式強變化に屬する名詞は只中性名詞のみ然れども亦た二三の男性名詞も第三式強變化に従ふ事あるべし。而して第三式強變化に屬する名詞は單數に於て a, u, o なる母音を有せば複數に於て其母音變母音に變ずるを常とす

例せば der Geist (Geister), Gott (Götter), Leib (Leiber), Mann (Männer), Rand (Ränder), Wald (Wälder), Wurm (Würmer), Vormund (Vormünder); das Nas (Naser), Amt (Ämter), Bad (Bäder), Blatt (Blätter), Buch (Bücher), Dach (Dächer), Dorf (Dörfer), Ei (Eier), Faß (Fässer), Feld (Felder), Geld (Gelder), Glas (Gläser), Glied (Glieder), Grab (Gräber), Gras (Gräser), Gut (Güter), Haupt (Häupter), Haus (Häuser), Huhn (Hühner), Kalb (Kälber), Kind (Kinder), Kleid (Kleider), Korn (Körner), Kraut (Kräuter), Lamm (Lämmer), Lied (Lieder), Loch (Löcher), Maul (Mäuler), Nest (Nester), Pfand (Pfänder), Rad (Räder), Reis (Reiser), Rind (Rinder), Schloß (Schlösser), Schwert (Schwörter), Volk (Völker), Weib (Weiber), Gemüt (Gemüter), Geschlecht (Geschlechter), Gespenst (Gespenster).

12. 第三式強變化に屬する名詞は tum なる語尾を有する名詞なりとす

例せば Reichthum (die Reichtümer) etc.

13. 其他僅々なる他國名詞にして第三式強變化に屬するものあり

例せば das Regiment (Regimenter), Hospital (Hospitaler) etc.

II. 弱變化 (Schwache Deklination.)

	(單數)	(複數)
Nom.	der Mensch, Löwe.	-en, n die Menschen, Löwen.
Gen.	-en, n des Menschen, Löwen.	-en, n der Menschen, Löwen.
Dat.	-en, n dem Menschen, Löwen.	-en, n den Menschen, Löwen.
Acc.	-en, n den Menschen, Löwen.	-en, n die Menschen, Löwen.

(注意) 複數の三格に於ては強變化の三式共に n なる語尾を有す

1. 此弱變化に屬するものは只男性及び女性の名詞なりとす (但し女性名詞は皆な單數に於て變化なければ茲では復數に於て弱變化に従ふを謂ふなり)
2. 弱變化に従ふ名詞は男性の單綴名詞の一部
例せば der Bär, Christ, Fink, Fürst, Graf, Feld, Herr, Sirt, Mohr, Narr, Ochs, Thor etc.
3. 弱變化に従ふ名詞は e なる語尾を有する多綴男性名詞 (der Mäje は除く)
例せば Affe, Bote, Bube, Bürge, Erbe, Gatte, Gase, Junge, Knabe, Nefte, Nabe, Niese; Franke, Grieche, Russe, Schwabe etc.
4. 弱變化に従ふ名詞は ge なる前綴を有する男性の人名
例せば Gefährte, Gehülfe, Gefelle oder Gefell etc.
5. 及び er なる語尾を有する二三の名詞は弱變化に従ふ
例せば der Bauer (百姓), Better, Gevatter.
6. 亦 der Nachbar も弱變化に従ふ名詞にして其他 der Baier, Pommer, Paffer, Ungar, Bulgar, Tatar, Barbar oder Berber, Kosak, Wallach 等の國民の名は弱變化に従ふものなり
7. 弱變化に従ふ名詞は多分の女性名詞なり即ち
例せば a) 單綴のもの: die Art, Bahn, Burg, Flur, Flut, Jagd, Kost, Last, Pflicht, Dual, Saat, Schar, Schlacht, Schlucht, Schrift, Schuld, Spur, That, Thür, Uhr, Welt, Zahl, Zeit etc.

例せば *b) e, el, er* (Mutter 及び Tochter を除く) *nt, ei, end, heit, keit, in, schaft, ung* なる語尾を有する多綴のもの: *die Rede, Angel, Feder, Schwester, Heirat, Arznei, Tugend, Wahrheit, Flüssigkeit, Freundin, Leidenschaft, Erfindung* etc.

8. 其他弱變化に従ふものは多くの男性及び女性の他國語なり

例せば *der Advocat, Candidat, Monarch, Präsident; die Regel, Oper, Person, Melodie, Facultät* etc.

9. 弱變化に従ふ名詞は皆な復數に於て變母音を有する事なし

III. 混合變化 (Gemischte Declination.)

	(單數)	(復數)
Nom.	der Staat, das Auge.	-en, n die Staaten, Augen.
Gen.	-es, s des Staates, des Auges.	-en, n der Staaten, Augen.
Dat.	-e, - dem Staate, dem Auge.	-en, n den Staaten, Augen.
Acc.	den Staat, das Auge.	-en, n die Staaten, Augen.

1. 混合變化は常に復數に於て變母音を有せず而して此混合變化には僅少なる男性名詞と中性名詞とが屬するものなり

例せば *der Maaß, Schmerz, See, Staat, Strahl; das Auge, Ende, Ohr, Hemd* etc.

2. 其他此混合變化に *Insect, Statut* の如き他國名及び *or* なる語尾を有する他國名屬せり

(注意) *in* なる語尾を有する女性名詞は復數に於て *nen* なる語尾を有するものなり

例せば *Doctor, Pastor* etc. (*Castor, Elektrophor, Mandator, Meteor* の如きは第二式強變化に屬するを以て此の四名詞を除く)

3. *das Herz* なる名詞は混合變化に屬する名詞なれども其變化一種特別なり即ち

	(單數)	(復數)
Nom.	das Herz	die Herzen.
Gen.	des Herzens	der Herzen.
Dat.	dem Herzen	den Herzen.
Acc.	das Herz.	die Herzen.

(其七) 固有名詞の變化 (Declination der Eigennamen.)

定冠詞を要する固有名は河、湖、山、森、等の名稱並に男性女性の國名及び國民の名稱なり是等の固有名は全く普通名詞の變化に従ふものなり

通常冠詞なく用ゐらるゝ固有名は人名、地名及び中性の國名なり而して其變化は即ち下の如し

I. 中性の國名及び地名にして *s, o, t* なる語尾を有せざるものは二格に於て *s* なる語尾を保つ而して一格三格四格に於ては毫も變化する事なし

例せば *die Flüsse Deutschlands, Preussens König.*

(注意) *s, o, t* なる語尾に終る所の中性の國名及び地名は二格に於て其格を明亮ならしめんが爲に *von* なる前置詞を用ゆ或は二格に立つ所の都、村等の言葉を其固有名の前に置きて其二格なるを明亮に知らしむる事あり

例せば (von を用ゐたる場合) die Volksmenge von Paris.

(都、村の如き名詞の二格を用ゐたる場合) die Volksmenge der Stadt Paris.

II. 人名は單數に於て種々に取扱はるゝものなり即ち或時は冠詞と結合する事あり亦或時は冠詞なく用ゐらるゝ事あり

1. der 或は ein なる冠詞と結合する場合に於ては人名は單數に於ては如何なる格に於ても變化する事なし

例せば

Nom. der Cicero, der Ludwig, der geistvolle Lessing.

Gen. des Cicero, des Ludwig, des geistvollen Lessing.

Dat. dem Cicero, dem Ludwig, dem geistvollen Lessing.

Acc. den Cicero, den Ludwig, den geistvollen Lessing.

2. 冠詞なく用ゐらるゝ時には人名の固有名は單數の二格に於て s 或 's を保つ而して男性の人名の固有名にして s, is, ß, ich, u, u なる語尾を有するもの及び女性の名の固有名にして e なる語尾を有するものは en なる語尾を二格に於て保つ

例せば Karls, Friedrichs, Luthers, Virgils, Otto's, Cato's etc. Hansens, Franzens; Sophiens, Juliens.

(注意) 苗字にして其語尾 s, ß, u, u 等に終るものは二格に於て 's 或は單に略語符 (') を附する事あるべし

例せば Bob's 或は Bob' Gedichte; Jacobs's 或は Jacobs' griechisches Elementarbuch etc.

3. 人名の固有名は三格及び四格に於ては全く變化する事なし

例せば ich habe das Buch Franz und Caroline gegeben;
ich habe Franz und Caroline gebeten;
wir haben Lessing viel zu verdanken etc.

(注意) 語尾の缺乏に依て格の不明を來す時には冠詞を用ゐて其格を明亮に爲す事あり

例せば Ich habe Adolph dem Karl empfohlen.
Er zieht Goethe dem Schiller vor etc.

4. 下には人名の固有名の複數に就きて説明を爲すべし

- 1) 男性の人名は (有冠詞或は無冠詞にて) 複數に用ゐらるゝ事あり獨逸人名並に on, am, なる語尾を有する他國人名は複數に於て e を保ち o なる語尾を有する人名の固有名は複數に於て ne を保つ

例せば die Ludwige, Adolphe, Salzmann, Wielandthone, Cicerone, Scipione Ottone.

- 2) n, e, i, el, en 及び er の語尾を有する男性の人名及び chen なる語尾を有する中性の人名は複數に於て毫も變化する事なし

例せば die Seneca, die Goethe, die Nicolai, die Schlegel, die Luther, die Hannchen.

- 3) 人名の固有名は複數の三格に於ては總て n を有す

例せば den Ludwigen, Ottonen, Luthern, den Hannchen.

- 4) 女性の人名は複数に於ては常に en, n なる語尾を有す併し女性人名にして n, ri に終るものは 'n を有す

例せば Adelheiden, Sophien, Wilhelminen, Ida'n, Minna'n etc.

- 5) 人名的固有名を複数に用ゐる場合を挙げれば即ち下の如し

- a) 同名の人多くある折は其人名的固有名は複数に於て用ゐらるゝものなり

例せば Unter den alten Deutschen finden wir besonders viele Runze und Ginge, Hermann, Rudolphe, Bertha'n etc.

- b) 人名的固有名が普通名の如き意味を有する場合には複数を有す

例せば die *Schiller sind selten.

- 6) 無冠詞にて複数に立つ人名的固有名は ein なる不定冠詞を単數に於て有したるものなり

例せば ein Cicero, (複数) Cicerone.

(1. 注意) 只複數の二格に於ては固有名詞は無冠詞には用ゐられず

(2. 注意) 固有名詞は複數に於て決して變母音を有する事なし

5. 人名的固有名が種族名或は他の固有名と連續する場合に於ては人名の變化は下の如し

- 1) 一個若しくは數個の無冠詞なる名詞が人名の前に來る時は終に來る人名が變化するゝものなり

* Schiller の如き文章家と謂ふ意にして普通名の如き意味を有す

例せば Kaiser Josephs Leben war kurz. Christian Fürchtegott Gellert's Fabeln. Friedrich von Schiller's Werke.

- 2) 尊稱、官位を現す有冠詞なる種族名或は der Herr (君) なる言語が人名的固有名の前に來る時には其固有名詞は變化するゝ事なし。

例せば die Thaten des Königs Friedrich des Zweiten der Tod des großen Kanzelredners Reinhard. Der Garten des Herrn Commerzienrats Niemann. Das Haus des Herrn Rosenthal.

第貳章

形容詞 (Das Adjektivum.)

I. 形容詞は事物の性質をあらはす詞なり

例せば Er ist fleißig; der Baum ist grün.

II. 形容詞は文章中に於て客言的になるところあり亦た附加言的になることあり客言的になりたる形容詞を客言的形容詞と謂ひ附加言的になりたる形容詞を附加言的形容詞と謂ふ

1. 客言的形容詞 (prädikatives Adjektiv.)

1. 客言的形容詞とは獨立して文章の客言¹⁾となる形容詞を謂ふ

例せば das Tuch ist neu; die Tochter ist klug.

1.) 主言 (Subjekt) に伴はれ且つ主言に依りて言ひ現さるゝ詞を客言 (Prädikat) と云ふ、主言とは文章中の主にして第一格に立ち或事を謂ひ出す詞なり

2. sein, werden, bleiben, scheinen, dünken, heißen 等の動詞に依りて名詞と結合する、形容形を客言的形容詞と謂ふ

例せば der Baum ist, wird, bleibt grün; die Bäume sind, werden, bleiben grün.

3. 客言的形容詞は常に變化することなし

2. 附加言的形容詞 (attributives Adjektiv.)

1. 名詞の前に直接に附加されたる形容形を附加言的形容詞と謂ふ

例せば Ein kaltes Wetter; der fleißige Schüler wird gelobt.

2. 附加言的形容詞は變化するものなり

III. 數多の形容詞は客言的と附加言的とになるものなり

例せば a) (客言的) der Schüler ist fleißig.

b) (附加言的) der fleißige Schüler.

併し客言的のみに用ゐらるゝ形容詞と附加言的のみに用ゐらるゝ形容詞とあり即ち

1. 客言的のみに用ゐらるゝ形容詞

angst, brach, feind, gram, irre, kund, leid, not, müß, quer, quitt; abhold, abspenstig, abwendig, anheischig, ansichtig, ausfindig, eingedenk, getrost, gewahr, habhaft, handgemein, teilhaft, unpaß, verlustig.

2. 附加言的のみに用ゐらるゝ形容詞

dortig, heutig, hiesig, gestrig, morgend etc.; nächtllich, täglich, stündlich, jährlich, anfänglich, endlich, mündlich, wörtlich, schriftlich etc.

(其 一) 形容詞の變化 (Declination der Adjektive.)

形容詞に三種の變化あり是を強變化 (starke Declination) 弱變化 (schwache Declination) 混合變化 (gemischte Declination) と謂ふ

I. 強變化 (Starke Declination.)

1. 形容詞の前に冠詞, 代名詞, 數詞の如き定詞なき時^(a) 或は etwas, genug, allerlei, lauter, viel, wenig の如き變化を有せざる定詞のみが形容詞の前にある時^(b) は其形容詞は強變化に従ふ
2. 強變化に従ふ形容詞の變化は定冠詞の變化に同じ

a. (單 數)

	男 性	女 性	中 性
Nom.	treuer Freund,	kleine Tasse,	schwaches Kind,
Gen.	treues Freundes, (en)	kleiner Tasse,	schwaches Kindes, (en)
Dat.	treuem Freunde,	kleiner Tasse,	schwachem Kinde,
Acc.	treuen Freund,	kleine Tasse,	schwaches Kind.

a. (複 數)

	男 性	女 性	中 性
Nom.	treue Freunde,	kleine Tassen,	schwache Kinder,
Gen.	treuer Freunde,	kleiner Tassen,	schwacher Kinder,
Dat.	treuen Freunden,	kleinen Tassen,	schwachen Kindern,
Acc.	treue Freunde,	kleine Tassen,	schwache Kinder.

b. (單 數)

	男 性	女 性
Nom.	etwas guter Wein,	allerlei gute Speise,
Gen.	etwas gutes Weines, (en)	allerlei guter Speise,
Dat.	etwas gutem Weine,	allerlei guter Speise,
Acc.	etwas guten Wein,	allerlei gute Speise.

b. (複 數)

	男 性	女 性
Nom.	etwas gute Weine,	allerlei gute Speisen,
Gen.	etwas guter Weine,	allerlei guter Speisen,
Dat.	etwas guten Weinen.	allerlei guten Speisen,
Acc.	etwas gute Weine,	allerlei gute Speisen.

(注意) 男性及中性名詞にして單數の二格に於ても或は es なる語尾を有するものは二格に於ける附加言的形容詞の es なる變化の語尾を en なる變化の語尾になすものなり

例せば Gen. guten Weines (statt: gutes Weines.)

3. ich, du, wir, ihr, (Sie) なる人代名詞を名詞と結合されたる形容詞の前に付加する時には其形容詞は強變化を有す

例せば (單 數)

Nom.	du guter Mann,
Gen.	(此二格は普通に用ゐず併し若し用ゐるなれば deiner gutes Mannes の代りに寧ろ deiner, des guten Mannes と謂ふ方宜し)
Dat.	dir gutem Mann,
Acc.	dich guten Mann.

(複 數)

Nom.	Ihr gute Männer,
Gen.	(Euer guter Männer,) ((Euer, der guten Männerの方普通))
Dat.	Euch guten Männern,
Acc.	Euch gute Männer.

(1. 注意) 以上の例は男性名詞に付て謂ひたれど女性中性の名詞も同じ規則に當嵌て爲すことを得

(2. 注意) 以上の場合に於ては普通男女中三性の複數の一格、四格及び單數の三格に於ては文法上の規則に反して形容詞の弱變化を用ゆ

例せば dir guten Manne, ihr guten Männer, Frauen, Kinder; euch guten Männer, Frauen, Kinder.

II. 弱變化 (Schwache Declination.)

- (a) der, die, das なる定冠詞或は (b) dieser, jener, derselbe, derjenige, solcher, aller, mancher 等の定詞が形容詞の前に來る時には此形容詞は弱變化を有す
- 弱變化に従ふ形容詞の變化に於ては單數の男女中三性の一格、及び女性中性の單數の四格に於て e なる語尾をとり其他の格は en なる語尾をとるものなり即ち下に其例を示さん

a. (單 數)

	男 性	女 性
Nom.	der treue Freund,	die kleine Tasse,
Gen.	des treuen Freundes,	der kleinen Tasse,
Dat.	dem treuen Freunde,	der kleinen Tasse,
Acc.	den treuen Freund,	die kleine Tasse.

	中性
Nom.	das schwache Kind,
Gen.	des schwachen Kindes,
Dat.	dem schwachen Kinde,
Acc.	das schwache Kind.

a. (複數)

	男性	女性
Nom.	die treuen Freunde,	die kleinen Tassen,
Gen.	der treuen Freunde,	der kleinen Tassen,
Dat.	den treuen Freunden,	den kleinen Tassen,
Acc.	die treuen Freunde,	die kleinen Tassen,

	中性
Nom.	die schwachen Kinder,
Gen.	der schwachen Kinder,
Dat.	den schwachen Kindern,
Acc.	die schwachen Kinder.

b. (單數)

	男性	女性
Nom.	dieser schöne Baum,	jede schöne Blume,
Gen.	dieses schönen Baumes,	jeder schönen Blume,
Dat.	diesem schönen Baume,	jeder schönen Blume,
Acc.	diesen schönen Baum,	jede schöne Blume.

b. (複數)

	男性	女性
Nom.	diese schönen Bäume,	jede schönen Blumen,
Gen.	dieser schönen Bäume,	jeder schönen Blumen,
Dat.	diesen schönen Bäumen,	jeden schönen Blumen,
Acc.	diese schönen Bäume,	jede schönen Blumen.

III. 混合變化 (Gemischte Declination.)

1. Ein, eine, ein なる不定冠詞或は mein, dein, sein, unser, euer, ihr, fein 等の定詞が形容詞の前に来る時は其形容詞は混合變化に従ふものなり
2. 混合變化に従ふ形容詞は男性中性の單數の一格と中性の單數の四格とに於て強變化に従ひ其他の格に於ては弱變化に従ふものなり即ち

A.

(單數)

	男性	女性
Nom.	ein treuer Freund,	eine kleine Tasse,
Gen.	eines treuen Freundes,	einer kleinen Tasse,
Dat.	einem treuen Freunde,	einer kleinen Tasse,
Acc.	einen treuen Freund,	eine kleine Tasse,

中性

Nom.	ein schwaches Kind,
Gen.	eines schwachen Kindes,
Dat.	einem schwachen Kinde,
Acc.	ein schwaches Kind.

(注意) ein treuer Freund, eine kleine Tasse, ein schwaches Kind の複數は treue Freunde, kleine Tassen, schwache Kinder, にして強變化に等し

B.

(單數)

	男性	女性
Nom.	sein früherer Vorsatz,	seine frühere Bitte,
Gen.	seines früheren Vorsatzes,	seiner früheren Bitte,
Dat.	seinem früheren Vorsatze,	seiner früheren Bitte,
Acc.	seinen früheren Vorsatz,	seine frühere Bitte,

	中 性		
Nom.	sein früheres Versprechen,		
Gen.	seines früheren Versprechens,		
Dat.	seinem früheren Versprechen,		
Acc.	sein früheres Versprechen.		

(複 數)

	男 性	女 性	中 性
Nom.	seine früheren Vorsätze,	Bitten,	Versprechen,
Gen.	seiner früheren Vorsätze,	Bitten,	Versprechen,
Dat.	seinen früheren Vorsätzen,	Bitten,	Versprechen,
Acc.	seine früheren Vorsätze,	Bitten,	Versprechen.

同様に mein treuer Freund (單數), meine treuen Freunde (複數) etc.; dein guter Vater, ihr artiges Kind, unser lieber Freund, euer neues Haus, sein braver Mann u. s. w.

(注意) el, er, en の語尾に終る形容詞及び比較級に於て er なる語尾を有せし形容詞は音調の爲め變化の折に e を省略するを常とす

例せば edel: edl-e, edl-er, edl-es, edl-em;
 heiter: heit-re, heitr-er, heitr-es, heitr-em;
 vollkommen: vollkommn-e, vollkommn-er, etc.;
 größer: größr-e, größr-er, größr-es, größr-em.

併し亦た er なる語尾を有する形容詞及び比較級に於て er なる語尾を有せし形容詞は(男, 中兩性の三格に於て) em なる變化の語尾に於ける e を再び省略する事あり

例せば heiter-m, größr-m, schöner-m.

(其二) 形容詞の比較變化 (Komparation der Adjektive.)

I. 形容詞が事物の性質を現すに際し他の事物と其性質の優劣を比較する事なく單に只其事物の性質のみを現す事あり亦た他の事物と其性質の優劣を比較する事あり此比較して其優劣を現す場合に於ては形容詞は或變化を爲す是を比較變化 (Komparation) といふ

1. 原級 (Positiv.)——事物の性質に付き或は同等なる數事物の性質に付き説話のある時には形容詞に毫も變化なし此の變化なき形容詞を原級の形容詞といふ

例せば der Baum ist hoch; der Tisch, der Stuhl, die Bank sind hölzern; die Tinte ist schwarz wie die Kohle.

(注意) 原級に於て事物を比較する事あり此場合に於ては其比較は等差優劣を現すものに非ずして其の同等なることを現すなり例せば Er ist fleißig, wie ich. (彼は私と同じやうに勉強なりと謂ふ事にして毫も優劣を表さず)

2. 比較級 (Komparativ.)——形容詞が一事物の性質を他の事物の性質と比較し其優劣を現す時には其形容詞は比較級に立つ

例せば Von beiden Tüchern ist dieses das schönere.

(1. 注意) 形容詞が比較級に於て立つ時は er 或は r なる語尾を原級の形容詞に付す (süß, süßer; weise, weiser.)

(2. 注意) 多くの形容詞は比較級に於て變母音を有す (kalt, kälter.)

3. 最上級 (Superativ.)——一事物が比較上他の事物中最も抽んでたる性質を現す折は其性質を現す形容詞は最上級に立つ

例せば *Fritz ist der fleißigste von allen Schülern.*

(1. 注意) 最上級に立つ形容詞は元級に立つ形容詞に *st* 亦は *est* なる語尾を附せられたるものなり而して通常は定冠詞を前に置く (*reich, reichst oder der reichste; groß, größt oder der größte.*)

(2. 注意) 多くの形容詞は最上級に於て亦變母音を有す (*der kälteste.*)

(3. 注意) 客言として用ゐられたる形容詞にして最上級に立つものは前に *am* を附し語尾に *sten* を付す (*am wärmsten.*)

II. *e* なる語尾を有する形容詞は比較級に於て只 *r* を取り *d, t, st, s, b, ich, j* なる語尾を有する形容詞は最上級に於て *est* を取る

III. 比較級或は最上級に立つ形容詞は客言的に用ゐらるゝと同時に亦た附加言的に用ゐらるゝものなり附加言的に用ゐられたる時の變化は原級の形容詞の變化と同じ

例せば *Er ist der reichste Kaufmann der Stadt; Die kleinere, kleinste Tasse; das schwächere, schwächste Kind.*

IV. 不規則なる比較變化を有する形容詞あり即ち

*gut, besser, best, oder der (die, das) beste.
viel, mehr, meist, oder der (die, das) meiste.*

wenig, minder (weniger), mindest (wenigst), oder der (die das) mindeste (wenigste.)

hoch höher, höchst, oder der (die, das) höchste.

nah, näher, nächst, oder der (die, das) nächste.

V. 比較變化を有せざる形容詞あり即ち

tot, recht, ganz, blind, golden, leer etc.

VI. 比較變化に於て原級の *a, o, u*, が變母音にならざるものあり即ち

*dunkel, dunkler, dunkelst; dankbar, dankbarer, dankbarst;
sparsam, sparsamer, sparsamst; boshast, boshaster,
boshastest; artig, artiger, artigst; klagend, klagender,
klagendest; blau, blauer, blaust; froh, froher, frohst
u. s. w.*

VII. 比較級を現す場合に際し *mehr* なる形詞を用ゐる事あり然る時には形容詞には變化なし

例せば *der Sessel ist mehr schön, als bequem.*

(其 三) 形容詞の支配 (Das Regieren der Adjektive.)

I. 多くの形容詞は獨立して完全なる意義を有す此形容詞を無關係的形容詞 (*unbezügliche Adjektive*) と謂ふ

例せば *der Schüler ist fleißig; die Stoffe ist schön.*

II. 多くの形容詞は獨立しては完全なる意義を表はす能はず他の事物と連合し其補充に依りて始めて完全なる意義を有するに至るものあり此形容詞を關係形容詞 (*bezügliche Adjektive*) と謂ふ

例せば *Bedürftig (der Arznei).*

III. 關係形容詞は其意義を完全にせんが爲に二格, 三格,

四格等に立つ事物を要し或は前置詞を要す (例せば er ist reich an Geld, schön von Gesicht, zufrieden mit seinem Loose) 而して二格, 三格, 四格等の格を要する事を形容詞の支配と云ふ故に形容詞には二格, 三格, 四格等を支配するものあり今下に列記すべし

1. 二格を支配する形容詞

Bedürftig, beflissen, befugt, benötigt, bewußt, eingebend, fähig, froh, gewiß, gewohnt, gewärtig, habhaft, kundig, los, mächtig, müde, satt, schuldig, teilhaft, überdrüssig, verdächtig, verlustig, voll, wert, würdig.

其他二格を支配する動詞の過去分詞も茲に屬す

(注意) 以上の形容詞の二三は亦た四格と結合する事あり或は補充の爲め von なる前置詞を用ゐることあり

例せば Er ist das Reisen gewohnt, müde. Dieses Zimmer ist voll von Gemälden.

2. 三格を支配する形容詞

Abgeneigt, abhold, abtrünnig, ähnlich, angeboren, angeerbt, angehörig, angelegen, angemessen, angenehm, angestammt, anhängig, anständig, anstößig, ärgerlich; bange, bedenklich, behaglich, behülflich, beliebig, bewußt; dankbar, dienlich, dienstbar; eigen, eigentümlich, einleuchtend, einträglich, entbehrlich, ergeben, erinnerlich, erwünscht; gehorsam, geläufig, gelegen, gemäß, gemein, getreu, gewachsen, gewogen, geziemend, gleich, gleichgültig; hinderlich, hold; lieb; nachteilig, nahe; recht; schädlich, schändlich, schätzbar, scheinbar, schimpflich, schmeichelhaft, schmerzhaft, schrecklich, schuldig; treu, treulos, tröstlich, trüglich, überflüssig, übrig, überlegen, unausstehlich, unbewußt,

unerträglich, unerwartet, unlieb, unterthänig, unvergeßlich, unverhofft, unwiderstehlich; verantwortlich, verbindlich, verwandt, vorteilhaft; widerspenstig, widerwärtig, widrig, willkommen, wohl; zugänglich, zugebacht, zugethan, zuträglich u. s. w.

其他三格を支配する動詞の過去分詞も茲に屬す

3. 四格を支配する形容詞

Alt, breit, dick, groß, hoch, lang, reich, schwer, teuer, tief, weit, wert.

(注意) 量, 重量, 年齢, 時, 價額を數詞 (Zahlwort) に依りて完全に定める時には其量, 重量, 年齢等の性質を現す形容詞は四格を支配するものなり

例せば das Buch ist einen Thaler wert. (併し das Buch ist Goldes wert.) Er ist zwölf Jahre, einen Monat und einen Tag alt.

4. 可能, 輕易, 難事, 緊要, 義務, 慾望等の諸性を表はす多くの形容詞は補充の爲め zu を伴ふ動詞を要す

例せば dies ist leicht zu bewerkstelligen. Es ist schwer zu unterscheiden.

5. 形容詞の支配に於ける例

1) 二格を支配する形容詞の例

Der Kranke ist der Arznei **bedürftig**.

Wer **des** Befehls **gewohnt** ist, wird schnell **des** Gehorchens **müde**. Die ganze Natur ist **voll des** Schönen und Erhabenen.

2) 三格を支配する形容詞の例

Dem Guten ist nur das Gute **angenehm**.

Was **dem** Gesunden **zuträglich** ist, kann dem Kran-

ken nachteilig sein. Der Maulwurf ist den Garten zwar schädlich, aber auch zugleich nützlich. Es ist uns so behaglich, im Winter nahe dem warmen Herde zu sitzen.

3) 四格を支配する形容詞の例

Diese Fläche ist drei Fuß lang und einen Fuß breit. Der Weg von Köln bis Mülheim ist eine Stunde weit.

(第 参 章)

動詞 (Das Verbum.)

動詞は事物の動作、状態、及び受動を現す詞なり

例せば (動作を現すもの)

Der Mann arbeitet, liebet, schreibt u. f. w.

(状態を現すもの)

Der Mann ruhet, schläft, wacht u. f. w.

(受動を現すもの)

Das Holz wird verarbeitet; das Buch wird gelesen; der fleißige Schüler wird gelobt.

(其 一) 動詞の種類 (Arten der Verba.)

- I. 動詞には獨立して完全なる意義を現すものあり(例せば ich lebe (私は生活する), leben の如きは獨立して其意義を明亮に現すを得る動詞なり)或は動作の關係する事物なくば其意義を完全に現はすを得ざるものあり(例せば ich schlage den Hund (私は犬を

打つ), schlagen の如きは其打つと謂ふ動作に關係する事物即ち犬といふ事物ありて始めて其意義完全するなり)第一のものを主言動詞 (subjektive Verba) と謂ひ第二のものを補足言動詞 (objektive Verba) と謂ふ

主言動詞及び補足言動詞は分れて下の如し

1. 他動詞 (verba transitiva.)
2. 自動詞 (verba intransitiva.)
3. 再歸動詞 (verba reflexiva.)
4. 非人動詞 (verba impersonalia.)

II. 他動詞は其動作を受ける事物なしには其意義明亮ならざる補足言動詞なり

例せば Schlagen, stoßen, schreiben, sehen kennen, glauben u. f. w.

(1. 注意) 他動詞は時々受動的補足言を有せずして用ゐらるゝ事あり

例せば Der Schüler schreibt schön.

(2. 注意) 四格の補足言を要する動詞は他動詞なり

III. 自動詞は主言動詞にして且つ他動詞にあらざる補足言動詞なり*

例せば Schlafen, leben, begegnen, fluchen, stehen u. f. w.

(注意) 自動詞は度々他動詞に用ゐらるゝ事あり

例せば Ein Leben leben. Er schläft einen guten Schlaf. Einen schweren Kampf kämpfen.

IV. 再歸動詞は主言と同一なる事物を補足言と爲す動詞

* (註) 他動詞にあらざる補足言動詞とは二格三格の補足言を要する動詞を謂ふ

にして動作を起したるもの (Subjekt) に其動作が再び
歸り來る動詞なり

例せば *Sich schämen, sich erinnern, sich bemächtigen.*

1. 二三の動詞にして常に再歸動詞になるものあり
是を純粹再歸動詞と謂ふ

例せば *Sich schämen, sich befeißigen, sich erkundigen.*

2. 他動詞が亦た再歸動詞に用ゐらるゝ事あり是を
假設的再歸動詞と謂ふ

例せば *Er liebt sich. Er straft sich. Sie loben sich.*

(注意) 純粹再歸動詞は四格の再歸代名詞を補足言と
して要し假設的再歸動詞は四格亦は二格或は三格の再歸
代名詞を其補足言に要するものなり

例せば (純粹再歸動詞)

Ich schäme mich. Ich freue mich.

(假設的再歸動詞)

Ich schmeichle mir. Ich gedenke meiner.

V. 非人動詞は其主言 *es* なる不定代名詞と結合されたる
動詞を謂ふ而して純粹の非人動詞は空中の現象を
謂ひ現す動詞を謂ふ

例ばせ *Es regnet, es hagelt, es schneit, es blizt, es
donnert u. f. w.*

(注意) 非人動詞と反對なる人稱動詞と謂ふものは一
人稱二人稱三人稱中の其一なる主言と結合したる動詞を
いふ

例せば *ich arbeite, du arbeitest u. f. w.*

VI. 其外に四格或は三格に立つ人稱 (*mir, mich; ihm, ihn
u. f. w.*) が付加さるゝ補足言的非人動詞といふもの
あり

例せば *Es grauet mir; es hungert mich.*

VII. 以上の動詞の外に亦た助動詞 (*die Hilfsverba*) とい
ふものあり此助動詞といふものは他の動詞と結合し
て其動詞の變化 (*Konjugation* *) 及び説話の方法を助
くるものなり

1. 動詞の時 (*Tempora*) の區別を謂ひ現はすを助け
る所の助動詞は *sein, haben, werden* なり而して
此の *werden* は亦た受働詞として用ゐらる而して
sein, haben, werden の三助動詞を時の助動詞
(*Hilfsverba der Zeit*) と謂ふ

例せば *Ich habe gehört.*

Ich hatte geschrieben.

Er ist gestorben.

Er war gegangen.

Er wird kommen.

Er wird gehört; das Buch wurde geschrieben (*werden* が
受働詞になりたる例)

2. 説話の助動詞 (*Hilfsverba des Modus*) 此の助動
詞は *können, dürfen, mögen, müssen, sollen, lassen*
にして他の動詞の不定法 (*Infinitiv*) と結合さ
るゝものなり

例せば *Die Vögel können fliegen; wir müssen lesen.*

* (註) 冠詞, 名詞, 形容詞, 代名詞, 數詞の變化を *Declination* と謂へど
も動詞に限りては其變化を *Konjugation* と謂ふ

(其二) 動詞の變化 (Konjugation der Verba).

A.

文章或は談話中に用ゐられたる各動詞に於ては人稱、數、時、説話等が表さるゝものなり人稱、數、時、及び説話等を表はす動詞の變化を Konjugation der Verba と謂ふ

I. 動詞の人稱及數の關係 (Person- und Zahlverhältnis des Zeitwortes.)

1. 動詞の變化に依りて其動詞が單複兩數一、二、三人稱中の如何なるものに付て謂フ出さるゝかを知ることを得べし
2. 動詞の人稱及び數の關係を現さんが爲に動詞に變化あり即ち下の如し

(單 數)	(複 數)
(一人稱) 1. Person: e,	en,
(二人稱) 2. Person: est, (it),	et, (it),
(三人稱) 3. Person: et, (it),	en.

例せば

1. Person: ich schreibe,	wir schreiben,
2. Person: du schreibst,	ihr schreibt,
3. Person: er schreibt,	sie schreiben.

II. 動詞の時 (Zeiten der Verba.)

1. 動作は説話者の談話の仕方に依て或は現在になることあり或は過去になることあり或は未來にな

ることあり此現在、過去、未來の時の關係は或形詞 (sein, haben, werden) に依り或は動詞其ものゝ變化に依りて謂ひ表すことを得

2. 動詞の種々なる時の關係を表はす爲に動詞が特に採る所の形を動詞の時 (Zeiten der Verba) と謂ふ
3. 動詞の時に區別あり即ち下の如し

1) 現在 (die Gegenwart oder das Präsens.)

例せば ich schreibe; ich stehe auf zwei Füßen.

2) 過去 (die Vergangenheit oder das Perfektum).

例せば ich las; ich stand auf zwei Füßen.

3) 未來 (die Zukunft oder das Futurum.)

例せば ich werde lesen; ich werde auf zwei Füßen stehen.

4. 現在、過去、未來の中に亦た各自に現在と過去とあり即ち

1) 現在 (die dauernde Gegenwart oder das Präsens.)

現在とは動作が現在に於て繼續するを謂ふなり

例せば ich schreibe. (今書いて居ると謂ふ意なり)

2) 現在過去 (die vollendete Gegenwart oder das Perfektum.)

現在過去とは現在に於て動作が結了したるを謂ふなり

例せば ich habe geschrieben. (たつた今書き了りたる意)

3) 半過去 (die dauernde Vergangenheit oder das Imperfektum.)

半過去とは過去に於て動作が繼續せしを謂ふなり

例せば ich schrieb, als er mich besuchte. (彼が私を訪問せし際に私は手紙を書いて居りし意)

- 4) 大過去 (die vollendete Vergangenheit oder das Plusquamperfektum.)

大過去とは過去に於て動作の終了したるを謂ふなり

例せば ich hatte geschrieben, als er mich besuchte. (彼が私を訪問せし際私は手紙を書き了つたの意)

- 5) 未來(現在未來¹⁾) (die dauernde Zukunft oder das Futurum.)

未來とは未來に於て動作の繼續するを謂ふなり

例せば ich werde schreiben, bis er kommt. (彼が来るまで私は書て居るならんの意)

- 6) 過去未來²⁾ (die vollendete Zukunft oder das Futurum exactum.)

過去未來とは未來に於て動作の終了するを謂ふなり

例せば ich werde geschrieben haben, ehe er zu uns kommen wird. (彼が来る前に私は書き了るならんの意)

5. 動詞の時に用法あり今其重なる用法を列記すべし

- 1) 現在 Präsens に用ゐらるゝ場合

a. 動作が現在に於て繼續し或は出来る場合

b. 動作が繼續する状態を顯す場合

例せば Im Garten wächst ein Baum.

c. 活潑なる物語を爲す場合(過去の代りに)

例せば Napoleon erkennt, daß hier eine große Ungerechtigkeit begangen worden ist.

d. 未來の意味を既に有する時の副詞 (morgen, spät, zukünftig u. s. w.) がある場合(未來の代りに)

例せば Ich gehe morgen in die Schule.

¹⁾を第一未來 ²⁾を第二未來とも云ふ

- 2) 半過去 (Imperfektum) に用ゐらるゝ場合

a. 過去に於て動作の繼續する場合

b. 物語を爲す場合

例せば Hannibal überstieg die Alpen.

- 3) 現在過去 (Perfektum) に用ゐらるゝ場合

a. 現在に於て動作が終了したる場合

b. 己か目撃せざる出來事を報知する場合

例せば Gestern ist ein kleines Kind ertrunken, das von der Brücke gefallen ist.

- 4) 大過去 (Plusquamperfektum) に用ゐらるゝ場合

a. 過去に於て動作の終了したる場合

- 5) 未來 (Futurum) に用ゐらるゝ場合

a. 未來に於て動作が繼續し或は出来る場合

- 6) 過去未來 (Futurum exactum) に用ゐらるゝ場合

a. 未來に於て動作の終了する場合

III. 動詞の説話法 (Ausdrucksweisen der Verba).

大凡説話に三種の別あり事實的, 想像的, 命令的是なり此等の説話は動詞及び助動詞の變化に依りて現さるゝものなり此の説話の法を動詞の説話法と謂ふ

1. 直接法 (der Indicativ oder Wirklichkeitsform.)

直接法とは確定したる事實を述ぶる事實的説話法を謂ふ

例せば Die Sonne scheint. Das Kind schläft fest.

2. 接續法 (der Konjunktiv oder Möglichkeitsform.)

接續法とは假定、想像等の想像的説話法を謂ふ而して其用ゐらるゝ場合に種々あり今是を下に記すべし

1) 假定の説話

例せば Wenn ich Zeit hätte, so läse ich gern.

2) 希望の説話

例せば Lang lebe der Kaiser in Japan.

3) 可能、推量、疑惑等の説話

例せば Er behauptete, du habest gelesen.

4) 間接に述べられたる説話

例せば Er sagte, er gehe heute nach Utsukussa.

(註) 此を直接に述べる説話と爲さば Er sagte: „Ich gehe heute nach Utsukussa.“

3. 命令法 (Der Imperativ oder Befehlsform.)

命令法とは命令の事柄を述ぶる命令的説話法を謂ふ

例せば Komm hier!

接續法の半過去及大過去に代用して用ゆる組立變化あり之を約束法と謂ふ約束法 (Konditionalis) は事實的にあらざるものを事實的として見倣さるゝ一種の説話法なり

接續法の半過去の代りに

Ich würde gehen = ich ginge.

接續法の大過去の代りに

Ich würde gegangen sein = ich wäre gegangen.

以上述べたる動詞の説話法の外に亦た兩個の動詞的副説話法 (Nebenmodi) あり是を不定法 (der Infinitiv) と分詞 (das Participle) と謂ふ

1. 不定法 (der Infinitiv.)

1) 動詞は主言 (Subjekt) として或は補足言 (Objekt) として用ゐらるゝことあり

例せば Irren ist menschlich. Das nenne ich brav handeln.

名詞の状態になりたる動詞を不定法 (Infinitiv) と謂ふ上例 irren 及び handeln の如きは名詞の状態になりたる動詞なり

2) 不定法に三ツの時あり即ち

a. 現在不定法 (Infinitiv der Gegenwart) = schlafen;

b. 過去不定法 (Infinitiv der Vergangenheit) = geschlafen haben;

c. 未來不定法 (Infinitiv der Zukunft) = schlafen werden.

3) 補足言或は名詞の附加言 (Attribut des Substantives) として不定法が zu なる前置詞 (Präposition) と共に結合せらるゝものなり

例せば der Hungerige verlangt zu essen (= Speise).

Der Müde wünscht zu ruhen (= Ruhe).

Die Pflicht zu strafen (= des Strafens).

2. 分詞 (das Participle).

形容詞的の状態を有する動詞を分詞と謂ふ

分詞には二種の區別あり現在分詞、過去分詞則ち是なり

1) 現在分詞 (das Participle der Gegenwart).

a. 現在分詞は常に加働的の意味を有するものなり

例せば Ein schlafendes Kind (ein Kind, welches schläft).

と謂ふ意味にして眠むる所の小供と謂ふ義なり

- b. 現在分詞は常に *end* 或は *nd* なる語尾を有するものなり

例せば *Lesend, schreibend, singend.*

- c. *zu* を以つたる他動詞の不定法より成立ちたる現在分詞は受働的の意味を有す

例せば *Ein zu lobender Student* (Ein Student, welcher gelobt werden soll oder kann と謂ふ意味にして愛せられる學生と謂ふ義なり)

(注意) 時々現在分詞が其語尾に有する *d* を失ふ事ありかゝる時には恰も其形不定法と等し

例せば *Er hat viele Pferde im Stalle stehen (= stehend.)*

2) 過去分詞 (das Particip der Vergangenheit.)

- a. 過去分詞は他動詞にありては常に受働的の意味を有し自動詞にありては加働的の意味を有す

例せば *die geliebte Mutter* (die Mutter, welche geliebt wird と謂ふ意味にして愛せらるゝ母といふ義なり)

der gestorbene Mann (der Mann, welcher gestorben ist と謂ふ意味にして死んだる男といふ義なり)

- b. 過去分詞は多分は *ge* なる前綴 (Das Augment) を有し *en* 或は *et* なる語尾を以つ

例せば *Gelesen, geredet, gefallen, gelobt, gesehen, geliebt u. s. w.*

(1. 注意) *ge* なる前綴を附することを得ざる動詞は下の動詞なり

- a. *er, ver, zer, be, emp, ent, ge* なる前綴を有する動詞

- b. *miß* なる前綴を有する動詞 (此は *ge* なる前綴を取りても宜しけれど文法上の正則に従へば *ge* なる前綴を取らぬ方宜し)

- c. 音を有せざる非分離動詞 (untrennbare Verba) の *durch, hinter, über, um, unter, voll, wider, wieder* なる前綴を有する動詞*

- d. *ieren* なる後綴を有する動詞

(2. 注意) 過去分詞は或る不定法と重りて現れる時には現在不定法の如くなるものなり而して過去分詞と重りて現るべき動詞に二種あり

- a. *dürfen, können, wollen, mögen, müssen, sollen, lassen* 等の助動詞

- b. *fühlen, heißen, helfen, hören, sehen* 等の動詞

例せば a. *Er hat den Vater begleiten dürfen (= gedurft.)*

b. *Man hat ihn gehen heißen (= geheissen.)*

IV. 分離動詞と非分離動詞 (Trennbare und untrennbare Verba.)

1. 名詞, 形容詞, 或は不變化詞 (前置詞, 副詞の如き變化を有せざる詞を謂ふ) と結合したる動詞あり是を組立動詞と謂ふ例せば *handhaben, lustwandern; groß thun, gut sagen; ankommen, aufstehen; hintergehen, hinunterfallen.*

* 音を有する分離動詞 (trennbare Verba) の *durch, hinter, über, um, unter, voll, wieder* なる前綴を有する動詞は *ge* (過去分詞に於てある) を前綴と後に來る動詞との中間に取る例せば *übersehen, übergesetzt.*

2. 組立動詞には分離的と非分離的との二つあり非分離的組立動詞は總ての動詞の變化に於て分離する事なく分離的組立動詞は命令法並に直說法, 接續法の現在及び半過去に於て若しも其文章が獨立的本文章にして正則の配語法 (regelmäßige Wortfolge) ならば必ず分離するものなり此場合に於ては結合したる名詞, 形容詞, 前置詞, 副詞等は分離し而て以前結合したる動詞の後に來るものなり

例せば aufstehen: steh auf! ich stehe auf, er stand auf, er stände auf etc.

3. 組立動詞には分離せらるゝものと分離せられざるものとあり其規則下の如し

1) 名詞或は形容詞と組立られたる動詞は規則上分離せざるものなり

例せば handhaben: ich handhabe, gehandhabt, zu handhaben; wahr sagen: er wahrsagt, gemahrsagt, zu wahrsagen.

2) 前置詞或は副詞の如き不變化詞と共に組立られたる動詞は音の高低に依りて分離的と非分離的となるものなり結合されたる不變化詞が高音を有せば其組立動詞は分離的にして過去分詞にありては ge を結合されたる不變化詞と結合したる動詞との中間に置き不定法にありては zu を結合されたる不變化詞と結合したる動詞との中間に置く

例せば aufstehen: aufgestanden, aufzustehen.

a. ab, an, auf, aus, bei, dar, ein, fort, her, hin, 及び her と hin とを以て組立られたる herab, heran, herauf; hinauf, hinaus, hinein; einher, umher, umhin

等與其他 mit, nach, nieder, ob, vor, weg, zu, zurück, zusammen 等と共に結合したる組立動詞は分離的なり

例せば abschreiben: ich schreibe ab, schrieb ab, abgeschrieben, abzuschreiben.

b. wider と結合したる組立動詞は非分離的なり

例せば Es widerfuhr mir, er widerspricht, widersteht sich.

c. durch, hinter, über, um, voll, wieder 等と結合されたる組立動詞は durch, hinter, über, um, voll, wieder 等の其音の強弱によりて分離的と非分離的となるものなり此場合に於ては其分離的と非分離的とに依りて其意義を異にするものなり

分離的

非分離的

durchreisen: Er reist hier durch. (彼は茲を通過する)

durchreisen: Er durchreist das Land. (彼は國を遊歴する)

übersehen: Ich sehe über. (私は越へる)

übersehen: Ich übersehe das Buch. (私は本を譯す)

d. er, ver, zer, be, emp, ent, ge の前綴を有する動詞は常に非分離的なり

e. miß なる前綴を有する動詞は非分離的なり併し miß に語勢ある時は其動詞は分離的となることあり

B.

動詞の變化組織 (System der Conjugations-Form.)

動詞の變化に單獨變化と組立變化との二つあり單獨變化とは現在, 半過去, 命令法, 現在不定法, 現在分詞及び過去分詞に於ける動詞の變化を謂ふ

組立變化とは過去分詞或は不定法と *haben, sein, werden* なる助動詞との組立變化を謂ふ

現在過去は *haben, sein* の現在と動詞の過去分詞とを以て成り立つものなり

大過去は *haben*, 或は *sein* の過去と動詞の過去分詞とを以て成り立つものなり

未來は *werden* の現在と動詞の現在不定法とを以て成り立つものなり

過去未來は *werden* の現在と動詞の過去不定法とを以て成り立つものなり

動詞の受働式變化は動詞の過去分詞と *werden* との組立變化より成るものにして此受働式變化も組立變化の中に屬す

haben, の用法下の如し:

- 1) 他動詞, 二格三格を支配する自動詞, 再歸動, 非人動詞及び *dürfen, können, lassen, mögen, müssen, sollen, wollen* 等の助動詞に於ては *haben* を用ゆ (但し *begegnen, folgen, weichen* 等には *haben* を用ゐず *sein* を用ゆ)

例せば *Ich bin begegnet—gefolgt—gewichen.*

- 2) 働作, 状態, 感情等を現す自動詞には *haben* を用ゆ

例せば *Er hat gearbeitet, gelebt, geweint;*

die Blume hat geblüht; der Wind hat geweht.

sein の用法下の如し:

- 1) 自動詞にして状態の變更或は運動を現すものには *sein* を用ゆ

例せば *genesen, sterben, wachsen, schmelzen u. s. w.*
ich bin genesen; er ist gestorben;
ich bin gekommen.

- 2) 運動を現す動詞にして *haben* 亦は *sein* を要するものあり *sein* を要するは場所變更の運動を現す時に依り *haben* を要するは保續的運動を現す時に依るものなり即ち

- a. (*sein* を要するもの) 或る場所より或る場所の方へ騎行したとか或は歩行したとかと謂ふやうな場所變更の運動を現す時には *sein* を要するものなり

例せば *Ich bin nach Sumida geritten; er ist angekommen etc.*

- b. (*haben* を要するもの) 保續する運動を現す時には *haben* を要するものなり此種の動詞は *eilen, fahren, flattern, hüpfen, klettern, laufen, reiten, schweben, wandern* 等にして此等の動詞は皆な保續的運動を有するものなり

例せば *Ich habe heute lange geritten*

此の例と *ich bin nach Sumida geritten* なる例と比較せば上者は今日長時間乗馬したと謂ふ事にて騎馬の運動を唯だ長時間保續したるを表せり故に *haben* を要せり下者は或る場所より隅田の方へ騎行したと謂ふ事にて場所變更の運動を現したるものにて *sein* を要せり

haben 及び *sein* を要する動詞は *eilen, fliegen, fließen, hinken, jagen, laufen, reifen, schwimmen, wandern, etc.* なり

助動詞の變化 (Konjugation der Hilfsverba.)

I. „haben.“

直接法 (Indikativ.)

接續法 (Konjunktiv.)

現在 (Präsens.)

ich habe, du hast, er (sie, es, man) hat.	ich habe, du habest, er (sie, es, man) habe.
wir haben, ihr habet (habt), sie haben.	wir haben, ihr habet, sie haben.

半過去 (Imperfektum.)

ich hatte, du hattest, er (sie, es, man) hatte.	ich hätte, du hättest, er (sie, es, man) hätte.
wir hatten, ihr hättet, sie hatten.	wir hätten, ihr hättet, sie hätten.

現在過去 (Perfektum.)

ich habe, du hast, er etc. hat	ich habe, du habest, er etc. habe	} gehabt.
wir haben, ihr habet (habt), sie haben	wir haben, ihr habet, sie haben	

大過去 (Plusquamperfektum.)

ich hatte, du hattest, er etc. hatte	ich hätte, du hättest, er etc. hätte	} gehabt.
wir hatten, ihr hättet, sie hatten	wir hätten, ihr hättet, sie hätten	

未來 (Futurum.)

ich werde, du wirst, er etc. wird	} haben.	ich werde, du werdest, er etc. werde	} haben.
wir werden, ihr werdet, sie werden		wir werden, ihr werdet, sie werden	

過去未來 (Futurum exactum.)

ich werde, du wirst, er etc. wird	} gehabt	ich werde, du werdest, er etc. werde	} gehabt
wir werden, ihr werdet, sie werden		wir werden, ihr werdet, sie werden	

命令法 (Imperativ.)

habe (du), (habe er, habe sie)
habet, habt (ihr); (haben sie, Sie).

不定法 (Infinitiv.)

現在 „haben.“
過去 „gehabt haben.“
未來 „haben werden.“

過去分詞 (Participium.)

„habend.“
„gehabt.“
—

II. „sein.“

直說法 (Indikativ.)

接續法 (Konjunktiv.)

現在 (Präsens.)

ich bin, du bist, er (sie, es, man) ist.	ich sei, du seiest (seist), er etc. sei.
wir sind, ihr seid, sie sind.	wir seien (sein), ihr seiet, sie seien (sein).

半過去 (Imperfektum.)

ich war, du warest (warst), er etc. war.	ich wäre, du wärest (wärest), er etc. wäre.
wir waren, ihr wäret (wärt), sie waren.	wir wären, ihr wäret (wärt), sie wären.

現在過去 (Perfektum.)

ich bin, du bist, er etc. ist	} gewesen.	ich sei, du seiest (seiest), er etc. sei	} gewesen.
wir sind, ihr seid, sie sind		wir seien (sein), ihr seiet, sie seien (sein)	

大過去 (Plusquamperfektum.)

ich war, du warest (warst), er etc. war	} gewesen.	ich wäre, du wärest (wärest), er etc. wäre	} gewesen.
wir waren, ihr wäret (wärt), sie waren		wir wären, ihr wäret (wärt), sie wären	

未來 (Futurum.)

ich werde, du wirst, er etc. wird	} sein.	ich werde, du werdest, er etc. werde	} sein.
wir werden, ihr werdet, sie werden		wir werden, ihr werdet, sie werden	

過去未來 (Futurum exactum.)

ich werde, du wirst, er etc. wird	} gewesen	ich werde, du werdest, er etc. werde	} gewesen
wir werden, ihr werdet, sie werden		wir werden, ihr werdet, sie werden	

命令法 (Imperativ.)

sei (du), (sei er, sei sie.)
 seid (ihr), (sein sie, Sie.)

不定法 (Infinitiv.)

現在 „sein.“
 過去 „gewesen sein.“
 未來 „sein werden.“

過去分詞 (Participium.)

„seiend (wesend).“
 „gewesen.“

III. „Werden.“

直說法 (Indikativ.)

接續法 (Konjunktiv.)

現在 (Präsens.)

ich werde, du wirst, er (sie, es, man) wird.	ich werde, du werdest, er etc. werde.
wir werden, ihr werdet, sie werden.	wir werden, ihr werdet, sie werden.

半過去 (Imperfektum.)

ich wurde (ward), du wurdest (wardst), er etc. wurde (ward).	ich würde, du würdest, er etc. würde.
wir wurden, ihr würdet, sie wurden.	wir würden, ihr würdet, sie würden.

現在過去 (Perfektum.)

ich bin, du bist, er etc. ist	} geworden	ich sei, du seiest, er etc. sei	} geworden
wir sind, ihr seid, sie sind		wir seien (worden), ihr seiet (worden), sie seien	

直説法 (Indikativ.)

接續法 (Konjunktiv.)

大過去 (Plusquamperfektum.)

ich war, du warst,
er etc. war } geworden
wir waren, ihr wäret,
sie waren } (worden).

ich wäre, du wärest,
er etc. wäre } geworden
wir wären, ihr wäret,
sie wären } (worden).

未來 (Futurum.)

ich werde, du wirst,
er etc. wird } werden.
wir werden, ihr werdet,
sie werden }

ich werde, du werdest,
er etc. werde } werden.
wir werden, ihr werdet,
sie werden }

過去未來 (Futurum exactum.)

ich werde, du wirst,
er etc. wird } geworden
wir werden, ihr werdet,
sie werden } sein.

ich werde, du werdest,
er etc. werde } geworden
wir werden, ihr werdet,
sie werden } sein.

命令法 (Imperativ.)

werde (du), (werde er, werde sie).
werdet (ihr), (werden sie, Sie).

不定法 (Infinitiv.)

現在 „werden.“
過去 „geworden sein.“
未來 „werden werden.“

過去分詞 (Participium.)

„werdend.“
„geworden,“ „worden.“

動詞の變化に三種あり強變化, 弱變化, 不規則變化是なり

強變化とは動詞の幹母音を變ずるものと謂ひ弱變化とは動詞の語尾を變ずるものと謂ひ不規則變化とは動詞の幹母音及び語尾を變ずるものを謂ふ

I. 強變化 (Starke Konjugation.)

動詞の強變化に六種あり, 即ち動詞が其幹母音を現在, 半過去, 過去分詞に於て變更する方法に六つの種類あり即ち

現在 (Präsens.)	半過去 (Imperfektum.)	過去分詞
1. i, e	u	u, o
2. e, (i)	a	e
3. a	u	u
4. a (au, u, o)	ie (i)	a (au, u, o)
5. ei	i (ie)	i (ie)
6. ie (e, ü, ö)	o	o

其他動詞の強變化に下の規則あり

- 1) a, o, u, が現在直説法の單數二人稱三人稱に於て ä, ö, ü, に變ず (例せば ich falle, du fällst, er fällt) 亦 a, o, u, を半過去の接續法に於て ä, ö, ü, に變更す (例せば ich fand, ich fände.)
- 2) e, が現在直説法の單數二人稱三人稱と命令法の單數とに於て i, に變ず (例せば ich spreche, du sprichst, er spricht; sprich!)

不定法及び現在分詞は常に現在の一人稱と同じ母音を有す (例せば sprechen, sprechend, ich spreche.)

今下に強變化の六種の變化を列記すべし

1. 第一變化

此變化に屬する動詞に三種類あり

a. 現在 i, 半過去 a (ä), 過去分詞 u.

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum, 3rd. u. Kenj.)	過去分詞 (Particp.)
binden	— —	binde	band, bände	gebunden
dringen	— —	dringe	drang, dränge	gedrungen

此變化に屬する動詞は finden, gelingen, klingen, ringen, schlingen, schwinden, schwingen, singen, sinken, springen, stinken, trinken, winden, zwingen.

b. 現在 i, 半過去 a (ä, ö), 過去分詞 o.

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum, 3rd. u. Kenj.)	過去分詞 (Particp.)
beginnen	— —	beginne	begann, begänne (begönne)	begonnen

此變化に屬する動詞は gewinnen, rinnen, schwimmen, sin-
nen, spinnen.

c. 現在 e (i, ie), 半過去 a (ä, ö), 過去分詞 o.

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum, 3rd. u. Kenj.)	過去分詞 (Particp.)
befehlen	befiehlt, befiehlt	befiehl	befahl, befähle	befohlen
bergen	birnst, birnt	birg	barq, bärge (börge)	geborgen
bersten	*(birstest), *birst	*birst	barst, bärste (borst, börste)	geborsten
brechen	brichst, bricht	brich	brach, bräche	gebrochen
dröseln	*dröselst, *dröselst	*drösel	*drösch, drösche (drösch, drösche)	gedröseln
empfehlen	empfiehlst, empfiehlt	empfiehl	empfaß, empfähle (empfähle)	empfohlen
gebären	*gebierst, *gebierst	*gebier	gebar, gebäre	geboren
gelten	giltst, gilt	gilt	galt, gälte (gölte)	gegolten

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum, 3rd. u. Kenj.)	過去分詞 (Particp.)
helfen	hilfst, hilft	hilf	half, hälfe (hilfe)	geholfen
nehmen	nimmst, nimmt	nimm	nahm, nähme	genommen
schelten	schiltst, schilt	schilt	schalt, schälte (schölte)	gescholten
schreden	schrießst, schrieht	schrieht	schraf, schräfe	geschreden
sprechen	sprichst, spricht	sprich	sprach, spräche	gesprochen
stechen	stichst, sticht	stich	stach, stäche	gestochen
stehlen	stiebst, stiehlt	stiehl	stahl, stähle (stöhle)	gestohlen
sterben	stirbst, stirbt	stirb	starb, (stärbe) stürbe	gestorben
treffen	triffst, trifft	triff	traf, träfe	getroffen
verderben	verdirbst, verdirbt	verdirb	verdarb, (verdärbe) verdürbe	verdorben
werben	wirbst, wirbt	wirb	warb, (wärbe) würbe	geworben
werden	wirst, wird	werde	ward, würde	geworden
werfen	wirfst, wirft	wirf	warf, (wärfe) würfe	geworfen
kommen	kommst, kommt	komm	kam, käme	gekommen

(注意) (*) の印あるものは弱變化にもなるものなり

2. 第二變化

現在 e (i, ie), 半過去 a (ä), 過去分詞 e.

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum, 3rd. u. Kenj.)	過去分詞 (Particp.)
essen	ißest, ißt	iß	aß, äße	gegessen
fressen	frisest, frisst	friss	fraß, fräße	gefressen
geben	giebst, giebt	gieb	gab, gäbe	gegeben
genesen	— —	genese	*genas, genäse	genesen
geschehen	(geschiebst), geschiet	(geschieh)	geschah, geschähe	geschehen
lesen	liestest, ließt	lies	las, läse	gelesen
messen	mißest, mißt	miß	maß, mäße	gemessen

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接続法 (Imperfectum.) (3rd. u. Conj.)	過去分詞 (Particip.)
sehen	siehst, sieht	sieh	sah, sähe	gesehen
treten	trittst, tritt	tritt	trat, träte	getreten
vergessen	vergissest, vergisst	vergiss	vergah, vergähe	vergessen
bitten	— —	bitte	bat, bäte	gebeten
liegen	— —	liege	lag, läge	gelegen
sitzen	— —	sitze	sah, sähe	gesessen

3. 第三變化

現在 a (ä), 半過去 u (ü), 過去分詞 a.

baden	*bädst, bädt	bade	*bat, büte	gebaden
fahren	fährst, fährt	fahre	fuhr, führe	gefahren
graben	gräbst, gräbt	grabe	grub, grübe	gegraben
laden	*(lädst, lädt)	lade	*lud, lüde	geladen
mahlen	*(mählst, mählt)	mähle	* * *	gemahlen
schaffen	— —	schaffe	schuf, schüfe	geschaffen
schlagen	schlägst, schlägt	schlage	schlug, schlug	geschlagen
tragen	trägst, trägt	trage	trug, trüge	getragen
wachsen	wächstest, wächst	wachse	wuchs, wüchse	gewachsen
waschen	wäschest, wäscht	wasche	wusch, wüsch	gewaschen

4. 第四變化

現在 a (ä), au, u, o, 半過去 ie, i, 過去分詞 a, au, u, o.

blasen	bläsest, bläst	blase	blies, bliese	geblasen
braten	*brätst, brät	brate	*briet, bricte	gebraten
fallen	fällst, fällt	falle	fiel, fielle	gefallen
falten	— —	falte	* * *	gefalten
fangen	fängst, fängt	fange	fang, finge	gefangen
halten	hältst, hält	halte	hielt, hielt	gehalten
hängen	hängst, hängt	hänge	hing, hänge	gehangen
lassen	lässest, läßt	laß	ließ, ließe	gelassen

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接続法 (Imperfectum.) (3rd. u. Conj.)	過去分詞 (Particip.)
raten	rätst, rät	rate	riet, riete	geraten
salzen	— —	salze	* * *	gesalzen
schlafen	schläfst, schläft	schlafe	schliefe, schlief	geschlafen
spalten	— —	spalte	* * *	gespalten
hauen	— —	hau	*hieb, hiehe	gehauen
laufen	läufst, läuft	laufe	lief, liefe	gelaufen
rufen	— —	rufe	rief, rief	gerufen
schroten	— —	schrote	* * *	geschroten
stoßen	stößt, stößt	stoße	stieß, stieße	gestoßen

(注意) (* *) の印は弱變化になると謂ふ印なり

5. 第五變化

現在 ei, 半過去及過去分詞 i, ir.

第五變化に屬する動詞は二種に區別せらる

a. 半過去及過去分詞に於て銳き i を有するもの

befleihen	— —	befleie	befliß, beflisse	beflissen
beißen	— —	beiße	biß, bisse	gebissen
bleichen	— —	bleiche	blieh, bliehe	gebleichen
gleichen	— —	gleich	glich, gliehe	geglichen
gleiten	— —	gleite	glitt, glitte	geglitten
greifen	— —	greife	griff, griffe	gegriffen
*Leifen	— —	leife	liff, lisse	geleifen
*kneifen	— —	kneie	kniff, knisse	gekneifen
*kneipen	— —	kneipe	knipp, knippe	gekneipen
leiden	— —	leide	litt, litte	gelitten
pfeifen	— —	pfeife	pfiff, pfisse	gepfiffen
reißen	— —	reife	riß, risse	gerissen
reiten	— —	reite	ritt, ritte	geritten
schleichen	— —	schleiche	schlich, schliche	geschlichen
schleifen	— —	schleife	schliff, schliffe	geschliffen
schleißen	— —	schleisse	schliß, schlisse	geschleißen
schmeißen	— —	schmeiße	schmiß, schmiss	geschmissen

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱、 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法、 接続法 (Imperfectum.) (Ind. u. Konj.)	過去分詞 (Particip.)
schneiden	— —	schneide	schnitt, schnitte	geschnitten
schreiten	— —	schreite	schrift, schritte	geschritten
spfeifen	— —	spfeife	spieß, spiffe	gespiffen
streichen	— —	streiche	strich, striche	gestrichen
streiten	— —	streite	stritt, stritte	gestritten
weichen	— —	weiche	wich, wiche	gewichen

6. 半過去及過去分詞に於て ie を有するもの

bleiben	— —	bleibe	blieb, bliebe	geblieben
gedeihen	— —	gedeihe	gedieh, gediehe	gediehen

其他上の變化に屬する動詞は即ち leihen, meiden, preisen, reiben, scheiden, scheinen, schreiben, schreien, (schrie, schrie), schweigen, speien, steigen, treiben, weisen, zeihen.

唯た獨り heißen は其取除けとす即ち

beißen	— —	beiße	biß, biße	gebeissen
--------	-----	-------	-----------	-----------

6. 第六變化

現在 ie, au; e, ä, ö; 半過去及過去分詞 o.

第六變化に屬する動詞は四種に區別せらる

a. 現在に於て ie を有するもの (例外として u を有するもの)¹⁾

biegen	— —	biege	bog, böge	gebogen
bieten	(beutst, beut)	biete (beut)	bot, böte	geboten

¹⁾ 羅句字にて活版されたるものは古風に且つ詩文的に用ゐらるゝものにて u を有す

例せば beutst, beut (bietet, bietet の代りに)

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱、 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法、 接続法 (Imperfectum.) (Ind. u. Konj.)	過去分詞 (Particip.)
fliegen	(fliegst, fliegt)	fliege (flieg)	flog, flöge	geflogen
fliehen	(flüchst, flücht)	fliehe (fluech)	floh, flöhe	geflohen
fließen	(fließest, fließt)	fließe (fliesz)	floss, flösse	geflossen
frieren	— —	friere	fror, fröre	gefroren
genießen	(genießest, genießt)	genieße (geniesz)	genoss, genösse	genossen
gießen	(gieszest, gieszst)	gieße (giesz)	goss, gösse	gegossen
kriechen	(kriechst, kriecht)	krieche (kreich)	kroch, kröche	gekrochen
küren	— —	küre	kur, köre	gekuren
lügen	(lengst, leugt)	lüge (leug)	lag, löge	gelogen
riechen	— —	rieche	roch, röche	gerochen
schieben	— —	schiebe	schob, schöbe	geschoben
schießen	— —	schieße	schoss, schöße	geschossen
schließen	(schließest, schließst)	schließe (schniebe)	schloß, schlösse	geschlossen
schmecken	— —	schmecke	schmoch, schmöbe	geschmecken
*sieden	— —	siede	sott, fötte	gesotten
sprießen	(spreuzest, spreuzst)	sprieße (spreusz)	spuroß, sprösse	gesprossen
stieben	— —	stiebe	stob, stöbe	gestoben
*triefen	(treufst, treuft)	triefe (treuf)	troff, tröffe	getroffen
trügen	— —	trüge	trog, tröge	getrogen
verdrücken	(verdreszt)	verdrücke (verdresz)	verdroß, verdrösse	verdröffen
verlieren	— —	verliere	verlor, verlöre	verloren
wiegen	— —	wiege	wog, wöge	gewogen
ziehen	(zeuchst, zeucht)	ziehe (zeuch)	zog, zöge	gezogen

b. 現在に於て *uu* を有するもの

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接續法 (Imperfectum.) (3rd. u. 4th.)	過去分詞 (Particp.)
faufen	fäufft, fäuft	faufe	foff, föffe	gefossen
faugen	—	fauge	foq, föqe	gefogen
*schrauben	—	schraube	schrob, schröbe	geschoben
*schrauben	—	schraube	schrob, schröbe	geschoben

c. 現在に於て *i, e, ä, ö, a* を有するもの

*glimmen	—	glimme	glomm, glömme	geglommen
*klimmen	—	klimme	klomm, klömme	geklommen
bewegen	—	bewege	bewog, bewöge	bewogen
fechten	*fichtst, ficht	ficht	focht, föchte	gefochten
flechten	*flichtst, flicht	flicht	flocht, flöchte	geflochten
heben	—	hebe	hob, höbe	gehoben
*melken	—	melke	molt, mölke	gemolken
pflegen	—	pflege	pflog, pflöge	gepflogen
quellen	quillst, quillt	quill	quoll, quölle	gequollen
scheren	*(schierst, schiert)	schere	schor, schöre	geschoren
schmelzen	schmilzest, schmilzt	schmilz	schmolz, schmölze	geschmolzen
schwellen	schwillst, schwillt	schwill	schwoll, schwölle	geschwollen
*weben	—	webe	wob, wöbe	gewoben
gähren	—	gähe	*gohr, göhre	gegohren
schwären	—	schwäre	schwor, schwöre	geschworen
*wägen	—	wäge	wog, wöge	gewogen
schwören	—	schwöre	schwor, schwöre 又 (schwur, schwüre)	geschworen
löfchen	*lischest, lischt	*lisch	lofch, löfche	gelofchen
*schallen	—	schalle	scholl, schölle	geschollen

d. 半過去と過去分詞に於て *o*, の代りに *u*, を有するもの

dingen	—	dinge	*bung, bünge	gedungen
schinden	—	schinde	schund, schünde	geschunden

總ての強變化に屬する動詞に於ては變母音を付する事を得るものにおいて現在直説法の單數二人稱, 三人稱及び半過去の接續法に於て變母音を付す故に du fallst, er fällt, du hangst, er hängt とは謂はず du fällst, er fällt etc. と謂ふ併しなから schaffen, rufen, hauen, saugen, schrauben, schrauben, laden, mahlen, falten, falzen, spalten は變母音を取らず. 弱變化に従ふ動詞も亦變母音を有することなし故に du fragst, er fragt, du kauft, er kauft etc. とは謂はず du fragst, er fragt, etc. と謂ふ

前綴を附加されたる動詞並に組立られたる動詞の變化は其原動詞の變化に依る故に Befinden, empfinden, erfinden, etc. は finden の變化に依り erfahren は fahren の變化に依り gefallen, missfallen は fallen の變化に依り vergleichen は gleichen の變化に依り gebieten, verbieten は bieten の變化に依り betriegen は trügen の變化に依る

強變化の語尾の變化につきて

現在 (Präsens.)		半過去 (Imperfectum.)		命令法 (Imperativ.)
(直説法)	(接續法)	(直説法)	(接續法)	(單數二人稱) -, -e
(單數)一人稱 -e	-e	-	-e	(複數二人稱) -et, t
二人稱 -est, st	-est	-st, est	-est (st)	不定法 (Infinitiv.)
三人稱 -et, t	-e	-	-e	-en
(複數)一人稱 -en	-en	-en	-en	分詞 (Participien.)
二人稱 -et, t	-et	-st, t	-et (t)	(現在分詞) -end
三人稱 -en	-en	-en	-en	(過去分詞) ge-en

(問題) finden, geben, tragen, raten, reiten, schießen を上の表にあてはめて變化せよ

II. 弱變化 (Schwache Konjugation.)

弱變化に屬する動詞は其幹母音を變化する事なく唯た其語尾を變化するものなり

弱變化の語尾の變化につきて

現在 (Präsens.)		半過去 (Imperfektum.)		命令法 (Imperativ.)
(直説法)	(接続法)	(直説法)	(接続法)	(單數二人稱) -e
(單數)一人稱 -e	-e	-te, etc.	-ete, te	(複數二人稱) -et, t
二人稱 -est, si	-est	-test, etest	-etest, test	不定法 (Infinitiv.)
三人稱 -et, t	-e	-te, etc.	-ete, te	-en, n
(複數)一人稱 -en, n	-en	-ten, eten	-eten, ten	分詞 (Participien.)
二人稱 -et, t	-et	-tet, etet	-etet, tet	(現在分詞) -end, nd
三人稱 -en, n	-en	-ten, eten	-eten, ten	(過去分詞) ge-et, t

(問題) reden, hören, reisen, tadeln, wandern を上の表にあてはめて變化せよ

III. 不規則變化 (Unregelmäßige Konjugation.)

不規則變化に屬する動詞は其幹母音, 變化するのみならず其語尾にも變化あり

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接続法 (Imperfektum.) (Ind. u. Konj.)	過去分詞 (Particp.)
dürfen	darfst, darf	—	durfte, dürfte	gedurft
können	kannst, kann	könne	könnte, könnte	gekönnt
mögen	magst, mag	(möge)	mochte, möchte	gemocht
müssen	mußt, muß	—	mußte, müßte	gemußt
wollen	willst, will	(wolle)	wollte, wollte	gewollt
sein	bist, ist	sei	war, wäre	gewesen
haben	hast, hat	habe	hatte, hätte	gehabt

其他の動詞につきて

不定法 (Infinitiv.)	現在の二人稱, 三人稱 (Präsens 2. und 3. Person.)	命令法 (Imperativ.)	半過去の直説法, 接続法 (Imperfektum.) (Ind. u. Konj.)	過去分詞 (Particp.)
brennen	—	brenne	brannte, brennete	gebrannt
bringen	—	bringe	brachte, brächte	gebracht
denken	—	denke	dachte, dächte	gedacht
kennen	—	kenne	kante, kennete	gekant
nennen	—	nenne	nannte, nennete	genannt
rennen	—	renne	rannte, rennete	gerannt
senden	—	sende	sandte, sendete	gesandt
wenden	—	wende	wandte, wendete	gewandt
wissen	weist weiß	wisse	wusste, wüßte	gewußt

(其 三) 加働式の組立

加働式 (Aktiv) とは主言が他の事物へ働作を加へる式を謂ふ例せば Ich habe den Hund geschlagen 余は犬を撃てりと謂ふ意にして主言 (ich) が他の事物 (Hund) に (schlagen) なる動作を加へたるなり

加働式は下の組立によりて成立つ即ち

1) 未來に於ては „werden“ の現在と或動詞の現在不定法との組立によりて成り立ち

例せば ich werde schreiben.

2) 現在過去に於ては „haben“ 或は „sein“ の現在と或動詞の過去分詞との組立によりて成り立ち

例せば ich habe geschrieben; er ist gestorben.

3) 大過去に於ては „haben“ 或は „sein“ の半過去と或動詞の過去分詞との組立より成り立ち

例せば ich hatte geschrieben; Er war gestorben.

4) 過去未來に於ては „werden“ の現在と或動詞の過去不定法との組立より成り立つ

例せば ich werde geschrieben haben, er wird gestorben sein.

加働式動詞變化の例

(直説法) 現在 (接續法)

Ich lobe.
du lobst.
er lobt.
wir loben.
ihr lobet
sie loben.

Ich lobe.
du lobest.
er lobe.
wir loben.
ihr lobet.
sie loben.

半過去

Ich lobte.
du lobtest.
er lobte.
wir lobten.
ihr lobtet.
sie lobten.

Ich lobte.
du lobtest.
er lobte.
wir lobten.
ihr lobten.
sie lobten.

現在過去

Ich habe
du hast
er hat
wir haben
ihr habet
sie haben } gelobt.

Ich habe
du habest
er habe
wir haben
ihr habet
sie haben } gelobt.

(直説法)

(接續法)

大過去

Ich hatte
du hattest
er hatte
wir hatten
ihr hättet
sie hatten } gelobt.

Ich hätte
du hättest
er hätte
wir hätten
ihr hättet
sie hätten } gelobt.

未來

Ich werde
du wirst
er wird
wir werden
ihr werdet
sie werden } loben.

Ich werde
du werdest
er werde
wir werden
ihr werdet
sie werden } loben.

過去未來

Ich werde
du wirst
er wird
wir werden
ihr werdet
sie werden } gelobt haben.

Ich werde
du werdest
er werde
wir werden
ihr werdet
sie werden } gelobt haben.

(其四) 受働式の組立

受働式 (Passiv) とは主言が他の事物より働を受ける式を謂ふ受働式は „werden“ なる助動詞と或動詞の過去分

詞との組立より成るものにして時の関係によりて其組立に法あり即ち

1) 現在に於ては „werden“ の現在と或動詞の過去分詞との組立によりて成立ち

例せば ich werde geschlagen.

2) 半過去に於ては „werden“ の半過去と或動詞の過去分詞との組立によりて成立ち

例せば ich wurde geschlagen.

3) 未來に於ては „werden“ の未來と或動詞の過去分詞との組立によりて成立ち

例せば ich werde geschlagen werden.

4) 現在過去に於ては „werden“ の現在過去と或動詞の過去分詞との組立によりて成り立ち

例せば ich bin geschlagen worden.

(注意) 過去分詞の後に geworden の現れる時には音調を佳良になす爲め geworden とは謂はず worden と謂ふ故に ich bin geschlagen geworden とは謂はず ich bin geschlagen worden と謂ふ

5) 大過去に於ては „werden“ の大過去と或動詞の過去分詞との組立によりて成り立ち

例せば ich war geschlagen worden.

6) 過去未來に於ては „werden“ の過去未來と或動詞の過去分詞との組立によりて成り立つ

例せば ich werde geschlagen worden sein.

(注意) 受動式の過去未來に於ては worden が省略せらるゝことあるべし即ち ich werde geschlagen worden sein の代りに ich werden geschlagen sein と謂ふ

受働式動詞變化の例

(直説法)

(接續法)

現在

ich werde
du wirst
er wird
wir werden
ihr werdet
sie werden } gelobt.

ich werde
du werdest
er werde
wir werden
ihr werdet
sie werden } gelobt.

半過去

Ich wurde
du wurdest
er wurde
wir wurden
ihr wurdet
sie wurden } gelobt.

Ich würde
du würdest
er würde
wir würden
ihr würdet
sie würden } gelobt.

現在過去

Ich bin
du bist
er ist
wir sind
ihr seid
sie sind } gelobt worden.

Ich sei
du seist
er sei
wir seien
ihr seiet
sie seien. } gelobt worden.

(直説法)

(接續法)

大過去

Ich war
du warst
er war
wir waren
ihr waret
sie waren

} gelobt worden.

Ich wäre
du wärest
er wäre
wir wären
ihr wäret
sie wären

} gelobt worden.

未來

ich werde
du wirst
er wird
wir werden
ihr werdet
sie werden

} gelobt werden.

Ich werde
du werdest
er werde
wir werden
ihr werdet
sie werden

} gelobt werden.

過在未來

Ich werde
du wirst
er wird
wir werden
ihr werdet
sie werden

} gelobt worden
sein.

Ich werde
du werdest
er werde
wir werden
ihr werdet
sie werden

} gelobt worden
sein.

(其五) 動詞の支配 (Das Regieren der Verba.)

補足言を要する動詞は常に補足言 (Objekt) を伴ふものなり動詞の補足言は其動詞の支配により四格 (Accusativ.) に立つものあり四格、三格 (Accusativ u. Dativ) に立つものあり四格二格 (Accusativ u. Genitiv) に立つものあり三格 (Dativ) に立つものあり二格 (Genitiv) に立つものあり一格 (Nominativ) に立つものあり

I. 他動詞

1. 四格 (Accusativ). — 補足言を要する動詞の大部分は他動詞なり他動詞は其動作を加へ且つ動作を受けける人稱或は事物なしには完全なる意義を現す能はず此人稱或は事物が直接に動作を加へられ或は動作を受けるときには此人稱或は事物を直接補足言といふ此直接補足言は常に四格 (Accusativ) に立つ
2. 多くの他動詞にして直接補足言の外に亦第二の補足言を要するものあり此第二の補足言を間接補足言といふ

例せば Einen Hund schlagen; einen Schüler bestrafen.
den Schüler (間接補足言) ein Buch (直接補足言) schenken; den Mann (直接補足言) des Diebstahles (間接補足言) anklagen.

今直接、間接の兩補足言を要する他動詞に就きて下に其規則を記載すべし

- 1) 四格と三格 (Accusativ und Dativ). — 他動詞が其意義 „Geben“ (何かを或るものに與へるといふ

やうな意義) „Nehmen“ (何かを或るものより取るといふやうな意義)を有せば或るものを與へられ亦取られる人稱は間接補足言となる此場合に於ては直接補足言は事物なり

例せば Geben, leihen, schenken, erzählen, erzeugen, mitteilen, sagen, überreichen; nehmen, rauben, stehlen u. f. w.

Ich schenke dir dieses Buch. Er erzeigt ihm große Aufmerksamkeit.

(注意) „Geben“なる意義は人^に何々を與へるといふ義にして自ら三格(Dativ)を現すものなり故に他動詞„Geben“の意義を有せば其間接補足言なる人稱は必しも三格(Gebe-Fall oder casus dativus)に立つものなり

2) 四格と二格(Accusativ und Genitiv).—或る事物によりて動作が呼出され、誘導され或は起こされる他動詞は間接補足言を呼出の格即ち二格(Hervorruף-Fall oder casus genitivus)に於てもつ而して直接補足言は人稱なり

例せば Beschuldigen, bezichtigen, entlassen, entsetzen, überführen, überheben, überzeugen, verweisen (必ず Land といふ字と結合す: einen des Landes verweisen), würdigen.

Man beschuldigte ihn eines Verbrechens (beschuldigen (告訴する) といふ他動詞は Verbrechen (犯罪) といふ事物によりて其動作を呼び出だされたるなり)

3. 兩個の四格(Doppelter Accusativ).—二三の他動

詞は直接補足言の外に尙客言的四格(Prädikats-Accusativ)を要す

例せば heißen, nennen, schelten, schimpfen, taufen.
Ich heiße ihn einen Nichtswürdigen.
Er nannte ihn einen Dieb.

II. 再歸動詞

再歸動詞は(sich)なる人稱的補足言の外に多分は尙は事物的補足言を有す

1. 四格、三格(Accusativ und Dativ).—再歸動詞が„Geben“ (與へる)の意義を有せば(sich)なる補足言は三格になり事物的補足言は四格になる

例せば Du bildest dir manches ein, was nicht ist.

此四格、三格の補足言を要する再歸動詞は其數僅々にして Sich anmaßen, ausbedingen, einbilden, getrauen, vornehmen 等なり

2. 四格、二格(Accusativ und Genitiv).—多くの再歸動詞に於ては(sich)なる人稱的補足言が直接補足言(Accusativ)にして事物的、間接的補足言が動作の誘導、起因を現し故に二格に立つ

例せば Sich besinnen, bedienen, befehlen, bemächtigen, bemestern, entäußern, enthalten, entledigen, entsinnen, entschlagen, entwöhnen, erbarmen, erinnern, erwehren, freuen, getrösten, rühmen, schämen, versehen, weigern u. f. w.

III. 他動詞にあらざる補足言動詞 (自動詞)

1. 三格 (Dativ).

名詞より導れたる動詞の多數は元の名詞を恰も直接補足言として有す例せば lohnen (報ゆる) なる動詞を分解するに是は Lohn (報酬) といふ名詞より導れたる動詞にして lohnen は Lohn geben (報酬を與へる) と謂ふ意義なり而して Lohn geben 中の Lohn は直接補足言として見る事を得而して „geben“ なる意義ある故に間接補足言は三格を要するものなり而して lohnen なる動詞の意味中には既に Lohn geben の Lohn なる直接補足言を含有すれば lohnen なる動詞は只三格の補足言のみを有するなり

例せば Ich lohne ihm (Ich gebe ihm Lohn の代りに) „Geben“ の意義を有し例せば 愉快, 要用, 一致, 反對等を與へるの意味を有する動詞は皆な三格 (Gebe=Fall) を支配する動詞なり即ち下の如し

Ähneln; danken, dienen, drohen; erscheinen; fehlen, fehlschlagen, fluchen, folgen; gefallen, gehorchen, gehören, gelingen, genügen, gleichen, glücken, helfen, hulbigen; kosten (Kosten verursachen); lächeln, leuchten, lohnen; mangeln, missfallen, misglücken, misslingen; müssen; obliegen; passen; schaden, scheinen, schmeicheln; trauen, trocken; verunglücken u. s. w.

(1. 注意) ab, an, auf, bei, entgegen, in (ein), nach, unter, vor, wider, zu と組立られたる動詞にして意味上自から直接補足言を自身に有するものは三格を支配す

例せば Abhelfen, angehören, anhangen, anstehen; auffallen, aufauern, aufstoßen, aufwarten; ausbelfen, ausweichen; beifallen, beikommen, beipslichten; beistehen, beistimmen; einfallen, einleuchten; nachahmen, nacheifern, nachgehen, nachstellen; vorarbeiten, vorbeugen, vorkommen; widerfahren, widersprechen, widerstehen; zufallen, zufließen, zugehören, zuhören, zuzurufen, zusehen u. s. w.

(2. 注意) „ent“ と組立られたる動詞にして „ent“ なる綴が „分離“ の意味を含有せば補足言に三格を要す

例せば Entfahren, entfallen, entfliehen, entgehen, entkommen, entlaufen, entsagen, entsprechen, entspringen, entweichen.

2. 二格 (Genitiv).

二格を支配するものは自動詞にして其動詞の數甚だ僅々にして動作の誘導, 動作の起因となる補足言を有す

例せば Achten, bedürfen, entbehren, denken, gedenken, genießen, harren, höhnen, pflegen, schonen, spotten, vergessen, warten.

Der Notleidende bedarf der Unterstützung. Wir denken (gedenken) der Jugendzeit mit Freuden.

(注意) „sein“ が時々二格と結び付けらるゝことあり

例せば Ich bin willens; ich bin der Meinung.

3. 一格 (Nominativ).

1. 或る動詞にして客言的一格 (Prädikats-Nominativ) を支配するものあり

客言的一格を要するものは

sein, werden, bleiben, heißen, scheinen.

例せば Er ist Lehrer. Er wird Kaiser. Er heißt Peter. Er bleibt ein Faulenzer. Er scheint mein Gegner.

2. 説明的に或は比較的に „als“ 或は „wie“ が動詞につづく折は客言的一格か成り立つ

例せば Er starb als Held. Er trat als Renner auf.

第四章

代名詞 (Pronomina.)

名詞及び形容詞を普通に „Nomina“ と謂ふ „Pro“ とは „代り“ (für) と謂ふ義にて „Nomina“ を代理する所のものを代名詞 (Pronomina oder Fürwörter) といふ

例せば „Eine gefürchtete Spinne lebt in Italien, sie ist unter dem Namen Tarantel bekannt. Diese soll den Menschen beißen und durch den giftigen Biß krank machen.“—sie 及び diese は die Spinne なる名詞の代りに立つ此 sie 及び diese は „die Spinne“ の代名詞なり—„Es giebt auch gefährliche Spinne; eine solche ist die Tarantel.“ なる文章に於て solche は代名詞 (Pronomen) なり而して此の solche は Spinne なる名詞と同時に gefährlich なる形容詞とを代理するものなり

名詞(或は形容詞と連合したる名詞)の數回の反復をさけ以て言語に佳調と簡約とを興へんが爲に代名詞は用ひらるゝものなり

代名詞に六種の種類あり即ち

1) 人代名詞 (Persönliche Fürwörter oder pronomina personalia.)

例せば ich, du, er.

2) 物主代名詞 (besitzanzeigende Fürwörter oder pronomina possessiva.)

例せば mein, dein, sein.

3) 指示代名詞 (hinweisende Fürwörter oder pronomina demonstrativa.)

例せば dieser, jener, solcher.

4) 關係代名詞 (beziehende Fürwörter oder pronomina relativa.)

例せば der, welcher.

5) 疑問代名詞 (fragende Fürwörter oder pronomina interrogativa.)

例せば wer? welcher?

6) 不定代名詞 (unbestimmte Fürwörter oder pronomina indefinita.)

例せば man, etwas.

(其 一) 人代名詞 Persönliche Fürwörter.

人代名詞は談話に於て屢々現出する事物の名を反復する代りに三種の異なりたる關係に依りて其名を代理する詞なり

此の三種の異なりたる關係とは人稱にして人稱に則ち三種あり一人稱、二人稱、三人稱則ち是なり

- 1) 第一人稱 (die erste Person oder redende Person).
- 2) 第二人稱 (die zweite Person oder angeredete Person).
- 3) 第三人稱 (die dritte Person oder besprochene Person).

I. 第一人稱 (Die redende Person).

若しも説話者が自ら談話を爲す折は説話者は己が姓名を謂ふ代りに單數に於ては *ich* (私) と謂ひ複數に於ては *wir* (我々) と謂ふ

例せば *Ich* habe dich nicht gerufen. *Ich* bin sehr krank gewesen. Heute habe *ich* einen angenehmen Tag verlobt. — *Wir* alle sind sterblich. *Wir* werden noch manches erleben. *Wir* sind Brüder.

II. 第二人稱 (Die angeredete Person.)

若し他人に向て直接に談話をしかける折には其人の姓名を呼ぶ代りに單數に於ては *du* (汝) と呼び複數に於ては *ihr* (汝等) と呼ぶ(叮嚀に恭敬の意を現して呼ぶ時には *Sie* (貴君) を用ひ而して此場合には „*Sie*“ の *S* の字は大文字なり)

例せば *Du* siehst nicht freundlich aus. *Du* hast fleißig gearbeitet. — *Ihr* habt schöne Gemälde. *Ihr* müßt aufmerken. — *Sie* wollen mich gütigst darüber benachrichtigen. *Erwarten Sie* Besuch?

III. 第三人稱 (Die besprochene Person.)

若しも説話者が間接に他人に付て説話し或は他の物に就きて説話する折は其姓名或は他物の名を名稱へる代り

に單數にありては *er, sie, es* (彼) と謂ひ複數にありては *sie* (彼等) といふ

例せば *Deinen Vater* habe *ich* gestern gesehen; *er* sieht gesund aus.

(1. 注意) „*er*“ は男性名詞の代名詞に用ゐる „*sie*“ は女性名詞の代名詞に用ゐる „*es*“ は中性名詞の代名詞に用ひ而して *er, sie, es* は複數に於て皆な *sie* となる

例せば *Die Sonne* ist noch nicht zu sehen; *sie* scheint heute nicht sichtbar werden zu wollen.

(2. 注意) 人代名詞は主言 (Subjekt) のみに用ゐらるゝものにあらず亦た補足言 (Objekt) として用ゐらるゝものなり

例せば *Er* ist fleißig. (主言の例) *Er* hat *mich* geschlagen. (補足言の例)

人代名詞の變化

(單 數)

	1. Person.	2. Person.
Nom.	<i>ich</i> , (ガ)	<i>du</i> , (<i>Sie</i>) (ガ)
Gen.	<i>meiner</i> , (ノ)	<i>deiner</i> , (<i>Ihrer</i>) (ノ)
Dat.	<i>mir</i> , (ニ)	<i>dir</i> , (<i>Ihnen</i>) (ニ)
Acc.	<i>mich</i> , (ヲ)	<i>dich</i> , (<i>Sie</i>) (ヲ)

3. Person.

	(男 性)	(女 性)	(中 性)
Nom.	<i>er</i> , (ガ)	<i>sie</i> , (ガ)	<i>es</i> , (ガ)
Gen.	<i>seiner</i> , (ノ)	<i>ihrer</i> , (ノ)	<i>seiner</i> , (ノ)
Dat.	<i>ihm</i> , (ニ)	<i>ih</i> , (ニ)	<i>ihm</i> , (ニ)
Acc.	<i>ihn</i> , (ヲ)	<i>ie</i> , (ヲ)	<i>es</i> , (ヲ)

(複 數)

	1. Person.	2. Person.	3. Person. (男, 女, 中性)
Nom.	wir, (ガ)	ihr, (Sie) (ガ)	sie, (ガ)
Gen.	unser, (ノ)	euer, (Ihrer) (ノ)	ihrer, (ノ)
Dat.	uns, (ニ)	euch, (Ihnen) (ニ)	ihnen, (ニ)
Acc.	uns, (ヲ)	euch, (Sie) (ヲ)	sie, (ヲ)

(1. 注意) 主言 (Subject) が三人稱に依りて言ひ現はされ動詞の動作が再び主言に戻り來る時には再歸代名詞と名稱へる *sich* なる詞を用ゆ

例せば *Er freut sich. Er schlägt sich.*

(2. 注意) 人代名詞が *haben, wegen, um.....wollen* と結合する時は „*meinet,*“ „*deinet,*“ „*seinet (ihret),*“ „*unseret,*“ „*euret,*“ „*ihret*“ となる而して *haben, wegen, um.....wollen* なる前置詞 (Präpositionen) と合して組立てられたる詞をなす

例せば *Meinetwegen stürze dich nicht in Gefahr! Wir haben um deinetwillen schon zu viel ausgestanden.*

(其 二) 物主代名詞 (Besitzanzeigende Fürwörter.)

1. 物主代名詞は人代名詞の二格 (Genitiv) より來りたるものにして其意味及び形は形容詞的なり

物主代名詞は其名稱の如く事物の所有者たることを現はす代名詞なり

2. 物主代名詞とは下の如きものを謂ふ

	(單 數)			(複 數)		
	男性	女性	中性	男性	女性	中性
1. Person.	mein, meine, mein;			unser, unsere, unser.		
2. Person.	dein, deine, dein;			euer, euer, euer.		
3. Person.	(男女中三性共に)					
男性	} sein, seine, sein					
女性		} ihr, ihre, ihr				
中性						

恭敬の意を現す時には男性に於ては *Sie* を用ひ女性に於ては *Ihre* を用ひ中性に於ては *Sie* を用ゆ

3. 物主代名詞は形容詞の如く名詞と結合して其性其數及び其格に従ひ單數に於ては不定冠詞の如く變化し複數に於ては定冠詞の如く變化す

例せば

	(單 數)		
	男性	女性	中性
Nom.	mein, unser,	meine, unsere,	mein, unser,
Gen.	meines, unseres,	meiner, unserer,	meines, unseres,
Dat.	meinem, unserem,	meiner, unserer,	meinem, unserem,
Acc.	meinen, unseren,	meine, unsere,	mein, unser.

(注意) 男性, 中性の二格に於ては „*unseres*“ の代に單縮されたる „*unses*“ 或は „*unfers*“ を用ゆる事あり亦男性, 中性の三格に於ては „*unserem*“ の代に單縮されたる „*unfrem*“ 或は „*unferm*“ を用ゆる事あり其他男性の四格に於て „*unseren*“ の代に „*unfren*“ 或は „*unfern*“ を用ひ

女性の一格四格に於て „unfere“ の代に „unfre“ を用ひ
女性二格三格に於て „unferer“ の代に „unfrer“ を用ひ

(複 數)

		男, 女, 中, 三 性
Nom.	meine,	unfere (unfre),
Gen.	meiner,	unferer (unfrer),
Dat.	meinen,	unferen (unfren 或は unfern),
Acc.	meine,	unfere (unfre).

4. 物主代名詞は客言 (Prädikat) として用ゐらるゝ時は
毫も變化する事なし

例せば Dieses Buch ist **mein**. Diese Bücher sind **mein**.

5. 男中兩性の物主代名詞は *sein* にして女性の物主代
名詞は *ihr* なり而して男, 女, 中, 三性の名詞と *sein*
及び *ihr* が附加される時には其名詞の性によりて
物主代名詞に變化あり其名詞男性なれば *sein, ihr*
(Mann) となり其名詞女性なれば *seine, ihre* (Toch-
ter) となり其名詞中性なれば *sein, ihr* (Kind) とな
る一體物主代名詞には固有の性あり亦物主代名詞
と結合する名詞にも固有の性あり故に物主代名詞
の固有の性と名詞の固有の性と混合せざるやう注
意せざるべからず今下に例を擧げて其混合を防か
んとす

例せば Der Vater liebt *seine* Tochter.
Die Mutter liebt *ihren* Sohn.

Tochter は女性名詞なれども *ihre Tochter* とはならず何
となれば *Tochter* を所有する所の Vater (父) は其性男性
なれば彼の娘 (即ち父の娘) といふ時は *sein* を用ゐざる

べからず而して *Tochter* は女性故に *sein* は變化して
seine となる此と同じ理由にして母が彼の (即ち母の) 子
息を愛するといふ場合も *Sohn* は男性なりとて *die*
Mutter liebt seinen Sohn とは謂はず *ihren Sohn* と謂ふ

6. 物主代名詞が名詞的に用ゐらるゝ折には物主代名
詞は定冠詞の語尾を有す

(單 數)

	男 性	女 性	中 性
Nom.	meiner,	meine,	meines,
Gen.	meines,	meiner,	meines,
Dat.	meinem,	meiner,	meinem,
Acc.	meinen,	meine,	meines.

(複 數)

	男, 女, 中, 三 性
Nom.	meine.
Gen.	meiner.
Dat.	meinen.
Acc.	meine.

例せば (Wem gehört der Hut, die Feder, das Buch?)
と謂ふ疑問に對して (Er ist *meiner*, — *meine*,
— *meines*) と謂ふ

7. 物主代名詞が名詞的に用ゐらるゝ場合には其物主
代名詞の前に冠詞を付し或は其上に亦た *ig* なる
語尾を付することを得然る時は形容詞の弱變化に
従ふ

例せば

	(單數)	(複數)
Nom.	Der meine, meinige,	Die meinen, meinigen,
Gen.	Des meinen, meinigen,	Der meinen, meinigen,
Dat.	Dem meinen, meinigen,	Den meinen, meinigen,
Acc.	Den meinen, meinigen,	Die meinen, meinigen.

(其三) 指示代名詞 (Hinweisende Fürwörter.)

1. 指示代名詞は恰も指を以て物を示す如く事物を指示する所の詞なり

例せば dieses Mädchen, dieses Kind (此の處女, 此小供)

2. 指示代名詞は下の如きのもなり即ち

- a. der, die, das;
- b. derjenige, diejenige, dasjenige;
- c. derselbe, dieselbe, dasselbe;
- d. dieser, diese, dieses;
- e. jener, jene, jenes;
- f. solcher, solche, solches;
- g. selbst.

3. 指示代名詞は („selbst“ を除きて) 名詞と結合して(形容詞的に)立ち或は獨立して(名詞的に)立つものなり

4. der, die, das は名詞と結合して全く定冠詞の如く變化す冠詞と指示代名詞 der, die, das どの區別は指示代名は強音を有し且つ獨立して名詞的になるものなり併し冠詞は強音を有せず亦獨立して名詞的になることなし

5. der, die, das なる指示代名詞が名詞と結合されずに獨立して名詞的になりたる時には一種の變化を有す下の如し

	(單數)			(複數)
	男性	女性	中性	男, 女, 中三性
Nom.	der,	die,	das;	die,
Gen.	dessen,	deren,	dessen;	deren, (derer),
Dat.	dem,	der,	dem;	denen,
Acc.	den,	die,	das;	die.

(注意) 複數の二格は普通の文法書には derer とあれども實は deren の方宜し例せば deren bedarf ich nicht (dieser Leute bedarf ich nicht の意) derer の方は „diejenigen, welche“ の代に用ゐらるゝものなり例せば Gedente derer, welche dir Gutes erwiesen haben. (Gedente derjenigen, welche dir Gutes erwiesen haben. の意)

6. Derjenige, diejenige, dasjenige 及び derselbe, dieselbe, dasselbe は der, die, das と jenig 或は selb より組立られたるものなり初の der, die, das の方は定冠詞の如く變化し終にある jenig 及び selb は形容詞の如く變化す

例せば

	(單數)			(複數)
	男性	女性	中性	男, 女, 中三性
Nom.	derjenige,	diejenige,	dasjenige,	diejenigen,
Gen.	desjenigen,	derjenigen,	desjenigen,	derjenigen,
Dat.	demjenigen,	derjenigen,	demjenigen,	denjenigen,
Acc.	denjenigen,	diejenige,	dasjenige.	diejenigen.
Nom.	derselbe,	dieselbe,	dasselbe,	dieselben,
Gen.	desjenigen,	derjenigen,	desjenigen,	derjenigen,
Dat.	demjenigen,	derjenigen,	demjenigen,	denjenigen,
Acc.	denjenigen,	dieselbe,	dasselbe.	dieselben.

7. Dieser, diese, dieses 及び jener, jene, jenes は定冠詞の如く變化す

	(單 數)			(複 數)
	男 性	女 性	中 性	
Nom.	dieser,	diese,	dieses,	diese,
Gen.	dieses,	dieser,	dieses,	dieser,
Dat.	diesem,	dieser,	diesem,	diesen,
Acc.	diesen,	diese,	dieses.	diese.
Nom.	jener,	jene,	jenes,	jene,
Gen.	jenes,	jener,	jenes,	jener,
Dat.	jenem,	jener,	jenem,	jenen,
Acc.	jenen,	jene,	jenes.	jene.

(注意) Dieser, diese, dieses は近きものを指し jener, jene, jenes は遠きものを指す

例せば Der Esel und der Hund sind Säugetiere; dieser (Hund を指す) bewacht das Haus; jener (Esel を指す) dient zum Lasttragen.

8. Solcher, solche, solches は冠詞を前に以たぬ折は冠詞の如く變化し „ein“ 或は „kein“ の如きものを前にもつ時は形容詞の混合變化の如く變化し „ein“ なる冠詞の前に置かるゝ折は毫も變化することなし

例せば a. Solcher Mann.
b. Ein solcher Mann; kein solcher Mann.
c. Solch ein Mann, solch eines Mannes.

9. Selbst は毫も變化することなし而して此 selbst は名詞或は人代名詞の意味を強めんが爲に名詞或は人代名詞と結合さるゝものなり

例せば Das habe ich selbst geschrieben.

(其 四) 關係代名詞 (Beziehende Fürwörter.)

1. 關係代名詞は他の文章中の名詞に關係する文章を導く詞なり故に關係代名詞は或事物と其事物に關係する文章との連絡をつなく詞なり

例せば Ich kenne den Mann nicht, welcher (本文中の der Mann に關係する文章を導かんが爲に茲に關係代名詞の welcher 用ゐられたり) dich besuchte.

2. 關係代名詞は次の如きものなり即ち

- a. wer, was;
- b. welcher, welche, welches;
- c. der, die, das;
- d. so.

3. 關係代名詞は其關係する他文章中の名詞と同姓同數に立つ

例せば Ich kenne den Mann nicht, welcher (前文章中の der Mann は單數にして且つ男性なり故に welcher も單數にして男性なり) dich besuchte.

4. 關係代名詞の變化は即ち下の如し

	男 性	女 性	中 性
1) Nom.	wer,		was,
Gen.	wessen,		wessen (wess),
Dat.	wem,		(dem)
Acc.	wen,		was.

(1. 注意) Wer と was とは „derjenige, welcher“ と „dasjenige, welches“ との單縮せられたるものなり

例せば berjenige, welcher nicht hören will, muß fühlen
の代りに Wer nicht hören will, muß fühlen と
謂ふ

(2. 注意) „Wer“ は人稱に用ゐる „was“ は事物に用ゐる

2) Welcher welche, welches は定冠詞の如く變化す
(疑問代名詞中の welcher の變化を看よ)

(注意) Welcher, welche, welches は二格に立つ時は必しも
名詞と共に結合して立つ二格に立ちながら獨立して名
詞と結合せざる時は關係代名詞の der, die, das の二格を
用ゐる

3) 關係代名詞の der, die, das は指示代名詞の der,
die, das の如く變化す併し複數の二格は derer と
は謂ふ deren と謂ふ

	(單 數)			(複 數)
Nom.	der,	die,	das	die
Gen.	dessen,	deren,	dessen	deren
Dat.	dem,	der,	dem	denen
Acc.	den,	die,	das.	die.

4) „So“ は變化を有せず而して只一格と四格と
に於て welcher, welche, welches; der, die, das の
代に用ゐらるゝ事あり併しながら其用らるゝ場
合實に稀なり

例せば Köschen, so (welches) der Mutter Frende, so
(welches) der Stolz des ganzen Dorfes war. . .

5) „Welcher“ 或は „der“ の前に或る前置詞 (Präposi-
tion) が結合する時には此代名詞が事物(人稱にあ
らざる)に關係する折に限り wo となり或は wo と
前置詞と結合したるもの (womit wodurch u. f. w.)

となる併し前置詞と結合する welcher, der が人名
名詞と關係する場合には此規則に依る事能はず

例せば der Mann, mit welchem (womit にはならず) er
sprach, war ein Franzose; der Ball, mit welchem
oder womit das Kind spielt, ist vom Leder.

(其 五) 疑問代名詞 (Fragende Fürwörter.)

1. 人稱或は事物を問はんが爲に獨乙語に於ては
wer; ? was? なる名詞的疑問代名詞と welcher,
welche, welches?; was für ein 或は was für einer
亦は was für 等なる形容詞的疑問代名詞とを用ゐ
Welcher? welche? welches? なる形容詞的疑問代名詞は
名詞を略して獨立して用ゐらるゝ事あり

2. Welcher と wer との變化下の如し

	(單 數)			(複 數)
	男 性	女 性	中 性	男, 女, 中三性
Nom.	welcher,	welche,	welches,	welche,
Gen.	welches,	welcher,	welches,	welcher,
Dat.	welchem,	welcher,	welchem,	welchen,
Acc.	welchen,	welche,	welches.	welche.

	男 性, 女 性	中 性	(複 數 缺)
Nom.	wer,	was,	
Gen.	wessen,	wessen (weß),	
Dat.	wem,	(缺),	
Acc.	wen,	was,	

3) Wer と was とに付ては既に關係代名詞の所に
て其性質を説明したるが如く疑問代名詞の wer,
was も同じく wer? は人稱を問ひ was? は事
物を問ふに用ふ

4. „Was für ein,“ (was für eine, was für ein) に於ては ein のみ變化するものなり而して名詞と結合しては不定冠詞 „ein“ の如く變化し名詞と結合せず獨立する時には定冠詞の如く變化す

例せば

Nom.	Was für ein Mann,	was für eine Frau,
Gen.	was für eines Mannes,	was für einer Frau,
Dat.	was für einem Manne,	was für einer Frau,
Acc.	was für einen Mann,	was für eine Frau.
Nom.	Was für ein Kind,	was für einer,
Gen.	was für eines Kindes,	was für eines, u. f. w.
Dat.	was für einem Kinde,	was für einem,
Acc.	was für ein Kind,	was für einen.

- (1. 注意) Was für ein の複数は was für にして was für einer, eine, eines の複数は was für welche なり

例せば

Nom.	Was für Kinder,	was für welche,
Gen.	was für Kinder,	was für welcher,
Dat.	was für Kindern,	was für welchen,
Acc.	was für Kinder,	was für welche.

- (2. 注意) 物質名の前に was für ein が來る時には只 was für となる

例せば Was für Wein? was für Obst?

- (3. 注意) „Welcher“ 及 „was für ein“ は驚愕的呼出に於て用ゐらるゝ事あり „welcher“ の代に welch ein を亦屢々用ゆ

例せば Was für ein Mann! Welcher Stolz! Welch eine Größe! Welch ein Leben!

(其 六) 不定代名詞 (Unbestimmte Fürwörter.)

1. 不定代名詞は不定の事物を代理する所の詞にして即ち下の如きものなり
 - a. Jemand, Niemand, man, Jedermann, Einer, Keiner, (此等は人稱を現す代名詞)
 - b. Etwas, Nichts. (此等は事物を現す代名詞)
2. Einer と Keiner とは名詞的として立つ時は只不定の代名詞なり亦 Einer と Keiner とが形容詞的として立つ時は數詞 (Zahlwörter) なり
3. Jemand, Niemand, man, Jedermann は只名詞的に立つものなり
4. Nichts と Etwas とは名詞的として立ち或は亦た形容詞的として立つ名詞的として立つ時は大文字にて書かれ形容的として立つ時は小文字にて書かる

例せば Gott hat die Welt aus Nichts erschaffen. Das ist nichts Gutes. Wer Etwas weiß, den hat man gern. Das ist etwas Neues. Keiner will es gethan haben, und doch muß Einer es gethan haben.

5. 不定代名詞の變化は即ち下の如し

- a. Jemand と Niemand とは普通の文法書に依れば二格にて es を取り三格, 四格に於て en を取る即ち

Nom.	Jemand,	Niemand,
Gen.	Jemandes,	Niemandes,
Dat.	Jemanden,	Niemanden,
Acc.	Jemanden,	Niemanden.

是なり併し三格四格に於ては en なる語尾を取らざる方宜し即ち

Dat. Jemand, Niemand,
Acc. Jemand, Niemand.

b. Jedermann は只二格に於て s を取る

例せば Jedermanns (Gen.).

c. man, Etwas, Nichts は通常毫も變化なし

(注意) 但し man は二格, 三格, 四格に於て eines, einem, einen となる故に亦 man の一格の代りに einer を用ゆる事あり

例せば Man spräche gern mit ihm, aber er versteht einen nicht.

d. Keiner, Einer は定冠詞の如く變化す

第 五 章

數 詞 (Numerale.)

數詞とは事物の數量を現す詞にして定りたる數量を現す事あり或は不定なる數量を現す事あり故に數詞を大別して二種に分つ第一を定數詞と謂ひ第二を不定數詞と謂ふ定數詞, 不定數詞の二種の中に亦た組立數詞と謂ふものあり此組立數詞は定數詞, 不定數詞中に於て共に講すべきものなれど此文法書にありては別となして講述すべし

(其 一) 定數詞 (Bestimmte Zahlwörter.)

定數詞は更に別れて二種となる第一を原數と謂ひ第二を順序數と謂ふ

1. 原數 (Die Grundzahlen.)

原數とは次の如きものを謂ふ即ち:

Ein	1	vierzehn	14	vierzig	40
zwei	2	funfzehn	15	u. f. w.	
drei	3	sechszehn	16	funfzig	50
vier	4	siebzehn	17	u. f. w.	
fünf	5	achtzehn	18	hundert	100
sechs	6	neunzehn	19	hundert und eins	101
sieben	7	zwanzig	20	hundert und zwei	102
acht	8	ein und zwanzig	21	u. f. w.	
neun	9	zwei und zwanzig	22	tausend	1000
zehn	10	u. f. w.		u. f. w.	(等)
elf	11	dreißig	30	Million.	1,000,000
zwölf	12	ein und dreißig	31	u. f. w.	
dreizehn	13	u. f. w.			

名詞或は他の數詞が eins の後に來る時には eins とは謂ふして ein と謂ふ

例せば Ein Pfund; ein und vierzig (41).

他の數詞との結合に於ては ein は毫も變化する事なし

例せば mit ein hundert und ein und dreißig (131)

Stimme; von eintausend einhundert und ein und achtzig (1181) Menschen etc.

ein は其他の場合に於ては變化す其變化の法に四種あり即ち

1) ein が名詞の前に立ち而して ein の前に冠詞, 代名詞の如き定詞なき時は ein は不定冠詞の如く變化す

例せば ein Mann, eine Frau, ein Kind.

(1. 注意) ein なる數詞が不定冠詞の如く變化する場合には附加言的形容詞は混合變化に従て變化す

例せば ein guter Mann, eine gute Frau, ein gutes Kind.

(2. 注意) 數詞の ein は不定冠詞の „ein“ よりは強音を有す是に由て不定冠詞の „ein“ より區別する事を得

2) ein なる數詞が冠詞或は冠詞の如く變化する定詞即ち der, dieser, jener etc. 等の後に現れる時は形容詞の弱變化に従て變化す

例せば der eine Mann, die eine Frau, das eine Kind; der eine, die eine, das eine.

3) „mein,“ „dein,“ „sein,“ „niester“ 等が ein の前に來る時は ein は形容詞の混合變化に従ふ

例せば mein einer Sohn, meine eine Tochter, mein eines Pferd; mein einer, meine eine, mein eines.

4) ein なる數詞が全く獨立して名詞的に立つ時には形容詞の強變化の如く變化す

例せば

	男性	女性	中性
Nom.	einer,	eine,	eines,
Gen.	eines,	einer,	eines,
Dat.	einem,	einer,	einem,
Acc.	einen,	eine,	eines.

Kein Mensch war da, auch nicht einer. Er teilt keinem Armen etwas mit, auch nicht einem. Einer meiner Freunde.

zwei 及び drei なる數詞は冠詞又は其他の定詞を有せざる時に限り變化するものなり其變化は下の如し:

Nom.	zwei Söhne,	drei Kinder,
Gen.	zweier Söhne,	dreier Kinder,
Dat.	zweien Söhnen,	dreien Kindern,
Acc.	zwei Söhne,	drei Kinder.

例せば Aus zweier oder dreier Zeugen Munde kommt die Wahrheit. Er hat zweien (dreien) Herren gebient.

2. 順序數 (die Ordnungszahlen.)

順序數は原數に t 或は ft なる語尾を付して作らるゝものなり 1—19 (一ヨリ十九マデ) は t を付し 20 (二十) 以上は ft を付す (erst, zweit, dritt, viert, zehnt; zwanzigst の如し).

例せば der, die, das erste, zweite, dritte (dritte の代りに), vierte, funfte, sechste, siebente, achte (achte の代りに), neunte etc., zwanzigste, hundertste, tausendste.

順序數は規則正しく形容詞の如く變化するものなり

(其二) 不定數詞 (Unbestimmte Zahlwörter.)

1. 不定數詞とは jeder, jeglicher, jedweder, alle, gesamt, sämtlich, ganz, einige, gleiche, manche, mehrere, viel, wenig, mehr, genug, etwas, ein paar, ein bißchen. の如き詞なり

2. 不定數詞は etwas, genug, nichts を取り除きて其他は皆な形容詞の如く變化す

1) All. — Aller, alle, alles が若し名詞と結合する或定詞 (mein, dein, sein, dieser, jener 等) の前に來るか或は獨立して立つ時には形容詞の強變化の如く變化す

例せば aller Kohl ist verkauft; alle Arbeit war vergeblich;
alle Menschen (複數) sind sterblich, (二格) aller
Menschen, (三格) allen Menschen etc. alle meine
Arbeit, alles dieses Getreide, alle jene Menschen etc.

代名詞の前に aller, alle, alles が来る時には all に收縮さるゝことを得此場合には毫も變化を有せず

例せば all mein Geld, all seine Arbeit, all dieses Volk,
all seine Reichthümer.

Aller, alle, alles は常に冠詞を有することなし而して如何なる場合に於ても形容詞の強變化の如く變化するものなり

例せば dieses oder das alles (茲の das は代名詞なり) bei diesem oder dem allem (茲の dem も代名詞なり)

2) Sämmtlich — sämmtlicher, sämmtliche, sämmtliches
及び der, die, das gesammte.

Gesammte の前には通常、冠詞或は定詞が付せらるゝものなり sämmtlich には冠詞、定詞を付せらるゝ事あり又た付せられざる事あり而して此 gesammelt と sämmtlich とは形容詞の如く變化す

例せば Sämmtliche Anwesende oder die sämmtlichen Anwesenden; die gesammte Familie.

3) Ganz* 及び halb. — ganz 及び halb は形容詞の如く變化す

例せば ein ganzes Haus, den ganzen Tag arbeiten; wir haben kaum den halben Weg zurückgelegt.

(注意) „Ganz“ 及び „halb“ は冠詞を有せざる中性の國名、都名の前に置かるゝ時は毫も變化を有することなし

例せば Ganz Frankreich befand sich in Gärung.

4) Jeder, jede, jedes (jeglicher, jedweder). — 此詞は形容詞の強變化の如く變化するものなり併しながら „ein“ なる不定冠詞と結合する折は形容詞の混合變化の如く變化するものなり (ein jeder etc.; (二格) eines jeden; (三格) einem jeden etc.)

5) Kein, keine, kein (名詞の前に立つか或は名詞的になりたる形容詞の前に立ちたる場合の), 及び keiner, keine, keines (名詞を伴はず獨立したる時の) は常に冠詞を有することなく全く „ein“ なる數詞の如く變化し複數に於ては形容詞の強變化の如く變化す

例せば Kein Mensch, oder Keiner kann ewig auf der Erde leben; er trinkt keinen Wein; er hat keine Kinder etc.

6) Einiger, einige, einiges 及び etliche は決して冠詞の如き定詞を前に置くことなく其變化は形容詞の強變化に従ひ通常は複數のみに用ゐらるゝ

例せば Einige Vögel können nicht fliegen; vor etlichen Jahren etc.; 亦た後に續く名詞なく獨立して名詞的に用ゐらるゝ事あり: Einige behaupten etc.; Etliche glauben etc.

(注意) 但し事物の分量を示す時は einiger, einige, einiges は單數に用ゐらるゝ

例せば einiger Wein, einiges Obst ist nicht gerathen, einige Zeit nachher.

7) Mancher, manche, manches, manche (複數) は決して冠詞を有することなく常に強く變化す亦た名詞を有することなく獨立して名詞的に用ゐらるゝ事あり

例せば Manche Menschen, oder Manche behaupten etc.
Wenn doch mancher Arme das hätte, was
mancher Reich wegwirft!

- 8) Viel, mehr, wenig.—此等の詞は形容詞の如く變化すと雖も一つの定詞をも前に有せず其意、分量を表はす時は變化する事なし

例せば Lerne nicht auf einmal Vieles, (種々なる種類
のものを一度に學ぶ可らずといふ意) sondern
viel (一物に付きて多く學べといふ意)

- 9) Genug; etwas, nichts は全く毫も變化する事なし

例せば Menschen genug; der Arme hat um etwas
Brod; ich habe nichts, weiß nichts davon.

(注意) 通常 „genug“ は名詞の後に置かれる

(其三) 組立數詞 (Zusammengesetzte Zahlwörter.)

定數詞と不定數詞との兩數詞より組立數詞がかたちづ
くられる即ち:

- 1) lei.—lei なる語尾を付け加へられたる數詞。lei
なる語尾を付け加へられたる數詞は毫も變化する
事なし

例せば Einerlei, zweierlei; allerlei, mancherlei.

- 2) fach 及び fältig.—fach 及び fältig なる語尾を付
け加へられたる數詞

例せば Zweifach, zehnfach; mannfach (mannigfach); zehnfältig; vielfältig, mannigfältig.

- 3) mal.—mal なる語尾を付け加へられたる數詞

例せば Einmal, zweimal; vielmal, manchmal.

- 4) tel.—tel なる語尾を付け加へられたる數詞

例せば Ein Drittel, ein Hundertstel.

(注意) zweitel ($\frac{1}{2}$) の代りに halb を多く用ひ而して
亦た halb と共に組立られたる數詞あり此數詞は變化を
有せず

例せば anderthalb ($1\frac{1}{2}$), dritthalb ($2\frac{1}{2}$), vierthalb ($3\frac{1}{2}$).

- 5) je 及び je.—je 及び je と數詞の組立られること
あり

例せば Je zwei, je drei; je zwei und zwei.

(組立數詞の例)

Wir haben hier auf Erden mancherlei zu
erdulden; wir haben mit vielfachen
Leiden zu kämpfen. Der eine Mensch
hat vor dem anderen manchmal dreimal
so viel zu erdulden. Manche seufzen ein
Drittel ihres Lebens unter schweren
Krankheiten. Mehrmaliges Kranksein
übt die Geduld.

無變化詞 (Inflexible Wörter.)

第 壹 章

副詞 (Adverbia.)

名詞の意義を一層精密に確定するものは形容詞なれど
副詞は動詞、形容詞の意義を一層精密に確定する詞なり

例せば (形容詞の例) Der Zeisig ist schön.

(副詞の例) Die Nachtigall singt schön.

I. 副詞に七種の別あり即ち：

1. 方法の副詞 (Adverbia der Weise.)
例せば so, dergestalt, schön u. f. w.
2. 程度の副詞 (Adverbia des Grades.)
例せば sehr, zu, kaum u. f. w.
3. 數量の副詞 (Adverbia der Quantität.)
例せば wenig, größtenteils, meistens u. f. w.
4. 場所の副詞 (Adverbia des Ortes.)
例せば hier, da, vorwärts u. f. w.
5. 時の副詞 (Adverbia der Zeit.)
例せば heute, morgen, gestern u. f. w.
6. 説話法の副詞 (Adverbia des Modus.)
例せば wahrlich, keineswegs, wohl, vielleicht, durchaus.
u. f. w.
7. 原因の副詞 (Adverbia des Grundes.)
例せば daher, demnach, warum u. f. w.

(其 一) 方法の副詞 (Adverbia der Weise.)

1. 方法の副詞は Wie? と謂ふ疑問に應答すべき詞にして即ち Wie schreibt er? Wie spricht er? の如きものに應答すべき詞なり
例せば Er schreibt schön, gut; er spricht richtig; er lernt fleißig. Ein fleißig lernender Schüler wird von dem Lehrer gelobt. Die Blume ist schön rot.
2. 方法の副詞は多分、形容詞或は分詞よりみちひかれる
例せば Dieser Schüler arbeitet fleißig; der Redner spricht laut; die schön blühende Blume.

3. 方法の副詞として定められたる詞は so, wie, anders, als, dergestalt 等なり
例せば Er spricht so; er schreibt anders.

(其 二) 程度の副詞 (Adverbia des Grades.)

1. 程度の副詞は Wie sehr? in welchem Grade? 等の疑問に應答すべき詞にして即ち Wie sehr ist es heute Ihnen warm? In welchem Grade lernt er immer? などの疑問に答ふべき詞なり
例せば Es ist heute mir zu warm. Er lernt immer ganz fleißig.
2. 程度の副詞は即ち下の如きものなり
sehr, äußerst, höchst, ungemein, ausnehmend, außerordentlich, ganz, gänzlich, völlig, gar, sogar, zu (allzu, garzu), genug, wenig, etwas, ziemlich, mehr, minder, höchstens, wenigstens, beinahe, fast, kaum, nur, weit, bei weitem, u. f. w.

(其 三) 數量の副詞 (Adverbia der Quantität.)

1. 數量の副詞は Wie stark? wie viel? 等の疑問に對して應答すべき詞にして即ち Wie viel muß ich bezahlen? Wie stark sind die Soldaten? などと問れたる疑問に答ふべき詞なり
例せば Du mußt viel bezahlen. Die Soldaten sind zehntausend Mann stark genug.
2. 數量の副詞は即ち下の如きものなり
viel, wenig, mehr, genug, etwas, ganz, überhaupt, teils, größtenteils, meistens, erstens, zweitens, zweimal, dreimal, einfach, zweifach u. f. w.

(其 四) 場所の副詞 (Adverbia des Ortes.)

1. 場所の副詞は Wo? woher? wohin? の疑問に回答すべき詞にして即ち Wo ist er? woher kommt er? 等の疑問に答ふべき詞なり

例せば Hier ist er. Er kommt daher. Er geht dahin.

2. 場所の副詞は即ち下の如きものなり

überall, allenthalben, irgendwo, nirgends; hier, da, dort; oben, unten, innen, außen, vorn, hinten; droben, drinnen, draußen, darauf, darüber, hierunter; außerhalb, oberhalb; diesseits, jenseits, rechts, links, unterwegs, daheim;

weit, fern, fort, weg, rings; daher, dahin, hierher; herab, heraus, hinab, hinauf; bergauf, bergab, feldein, stromauf, vorwärts, rückwärts, seitwärts, himmelwärts u. f. w.

(1. 注意) 前置詞として用ゐらるゝ an, auf, aus, bei durch, in, nach, vor, um, zu は場所の副詞として用ゐらるゝ事あり

(2. 注意) her (コチラへ) は説話者に近寄る方向を現し hin (アチラへ) は説話者より遠ざかる方向を現すものなり

(3. 注意) da, dort, her, hin, daher, dahin, wo, woher, wohin と前置詞と結合したる詞即ち darauf, herauf, hinauf, darein, darin, worauf の如きものは決して分離することなし

(4. 注意) umher は方向の変更を示し herum は圓形の運動を示す

例せば Er geht im Lande umher (彼は國中を遊歴する).
Er geht um den Baum herum (彼は樹木の周圍を廻る)

(5. 注意) darcin と worcin は運動を現し darin, worin は静止を現す

例せば

Lege das Buch darcin. (運動を現す)

Das Buch liegt darin. (静止を現す)

(其 五) 時の副詞 (Adverbia der Zeit.)

1. 時の副詞は Wann? seit wann? bis wann? wie lange? 等の疑問に對して應答する詞なり即ち下の如し

je, jemals, nie; dann, nun, jetzt, sonst, einst, ehemals, vordem, vorher, nachher, nächstens, schon, noch, bald, künftig, neulich, jüngst, längst, unlängst, anfangs; heute, gestern, morgen, abends, nachts, seitdem, seither, bisher; stets, immer, allezeit, lange; selten, oft, wieder, abermals, zuweilen, gemeiniglich u. f. w.

例せば Der arme Mann verdient wöchentlich nur 36 Groschen. Ich muß jährlich Rechnung ablegen.

(其 六) 説話法の副詞 (Adverbia des Modus.)

説話法の副詞とは應諾, 主張, 確證等の意味を有し或は亦た拒否, 推量, 疑惑, 疑問, 希望, 命令等の意味を有す
例せば Gewiß wird er kommen; er wird vielleicht sterben.

説話法の副詞は下の如し

1. (應諾, 主張, 確證の意味を有するもの): ja, doch, wahrlich, zwar, freilich, fürwahr, gewiß, wirklich, wahrhaftig, allerdings, sicherlich u. f. w.

2. (拒否の意味を有するもの): nein, nicht, keineswegs, u. f. w.
3. (推量, 疑惑の意味を有するもの): wahrscheinlich, vielleicht, etwa, wohl u. f. w.
4. (疑問の意味を有するもの): denn, wohl, nun, etwa, ob u. f. w.
5. (希望の意味を有するもの): doch, wenn doch, daß doch u. f. w.
6. (命令の意味を有するもの): durchaus, schlechterdings u. f. w.

(其七) 原因の副詞 (Adverbia des Grundes.)

1. 原因の副詞は warum? wozu? wodurch? 等の疑問に對して應答すべき詞なり而て其詞は即ち下の如し
daher, demnach, deshalb, dafür, dazu, warum, weswegen, wozu u. f. w.
例せば Darum hat er ihn geschlagen.
(1. 注意) 此副詞の多分は亦た接續詞として用ゐらるゝものなり
(2. 注意) 同形の副詞にして其用法に依りて其所屬を異にするものあり
例へば da は其用法に依りて時の副詞になることあり亦た場所の副詞になることあり
例せば Da stand eine Greisin ganz betrübt. (場所を現す)
Da sprach er lächelnd. (時を現す)

II. 副詞の比較變化 (Steigerung der Adverbia.)

副詞の比較變化は稍々形容詞の比較變化に類似すると雖も其異なる所は形容詞にありては最上級に於て der を付加されたれど副詞の最上級に於ては der を有せず其他亦副詞は最上級に於て am の外に aufs, zum, im 等の前置詞を前に付加され iten の外亦た it 或は itens の語尾を付加せらる

例せば dieser Knabe schreibt schöner, als jener Knabe.
dieser Schüler schreibt am schönsten.
Geben Sie mir gefälligst.

下に記する副詞を以て例を作れ

gütigst, höchstens, aufs beste, zum schönsten, im geringsten, u. f. w.

(1. 注意) 副詞が最上級に於て itens の語尾を有せば am なる前置詞は除かれるものなり

例せば längstens, ehestens, höchstens, bestens.

(2. 注意) 不規則なる比較變化を有するものは下の如きものなり而して下の詞は純粹の副詞にして比較變化を爲したるものなり*)

	原級	比較級	最上級
a.	halb,	eher,	am ehesten; 或は ehestens;
b.	gern,	lieber,	am liebsten; 或は liebstens;
c.	oft,	öfter,	am öftesten; 或は öftestens.

*) 副詞の大部分は形容詞より轉用されたるものにて其轉用されたるものは皆な比較變化を有す併し純粹の副詞にして比較變化を有するものは實に halb, gern, oft 等の副詞のみなり

第二章

前置詞 (Präpositionen.)

場所の關係、時の關係、方法の關係、原因の關係等を名詞(或は代名詞)と結合して表はす所の詞を前置詞と謂ふ一體前置詞といふものは場所、時、方法、原因等の關係を表はす詞なるが故に一名關係詞 (Verhältniswort) の稱あり然れども此前置詞は名詞或は代名詞と結合される場合に於て二三のものを除き一般に名詞(或は代名詞)の前に置かるゝものなるを以て通常關係詞とは謂はず前置詞 (Vorwort oder Präposition) と謂ふ

- 1) 前置詞が名詞(或は代名詞)と結合して場所の關係を表はしたるもの

例せば Bei Herrn Müller wohnt er jetzt.

- 2) 前置詞が名詞(或は代名詞)と結合して時の關係を表はしたるもの

例せば Nach dem Essen werde ich ausgehen.

- 3) 前置詞が名詞(或は代名詞)と結合して方法の關係を表はしたるもの

例せば Mit Netzen fängt man Fische.

- 4) 前置詞が名詞(或は代名詞)と結合して原因の關係を表はしたるもの

例せば Der Teuerung halber muß der Arme betteln.

前置詞の支配 (Das Regieren der Präpositionen.)

名詞(或は代名詞)が前置詞と結合する時には或る一定の格に變化せらるゝものなり是を前置詞の支配と謂ふ前置詞の支配に四種あり

- 1) 二格を支配する前置詞

例せば Unweit meines Hauses wohnt mein Freund.

- 2) 三格を支配する前置詞

例せば Der Schüler geht zur Schule.

- 3) 四格を支配する前置詞

例せば Mit dem Hute in der Hand kommt man durch das ganze Land.

- 4) 三格と四格とを支配する前置詞

例せば Zwischen dem Hause und dem Garten befindet sich ein großer Hof. Er trat zwischen die Kämpfenden und gebot Frieden.

(其 一) 二格を支配する前置詞

二詞を支配する前置詞を舉ぐれば即ち下の如し

(暗誦に便利を興えんが爲に下の文は詩文體と知るべし)

Unweit, mittels (ft) kraft und während, laut, vermöge, ungeachtet, oberhalb und unterhalb, innerhalb und außerhalb, diesseit, jenseit, halber, wegen, statt (anstatt), auch längs, zufolge, trotz	stehen mit dem Genitiv oder auf die Frage wessen? doch ist hier nicht zu vergessen, daß bei diesen letzten drei auch der Dativ richtig sei. (其他 nm.....willen も茲に屬す)
--	---

(注意) halber は常に名詞の後に立ち wegen と ungeachtet とは屢々名詞の後に立つ

例せば Des schlechten Wetters halber müssen wir zu Hause bleiben. Deines Fleisches wegen (oder wegen deines Fleisches) achtet man sich. Der Bemühungen ungenachtet (ungenachtet der Bemühungen) kommt er nicht zum Ziele.

(2. 注意) zufolge は名詞の前に立つ時には二格を支配し名詞の後に立つ時は三格を支配す

例せば - *Zufolge* eines Briefes muß ich heute verreisen.
Einem Briefe *zufolge* muß ich heute verreisen.

(3. 注意) 詩文中に *längs*, *zufolge*, *trotz* の用法記載しあれど初學者の爲に今茲に説かん *längs*, *zufolge*, *trotz* は二格と三格とを支配する前置詞なり

(4. 注意) *um*.....*willen* なる前置詞は其の支配すべき格に立つ名詞 (又は代名詞) を *um* と *willen* との間に置くものなり

例せば *um* Himmels *willen*; *um* Gottes *willen* (以上は名詞に就ての例なり代名詞に付きての例は人代名詞の(2. 注意)の部にあり参照すべし)

(其 二) 三格を支配する前置詞

三格を支配する前置詞を挙げれば即ち下の如し

(暗誦に便利を興えんが爲に下の文は詩文體と知るべし)

Schreib: „*Mit*, *nach*, *nächst*, *nebst*, *sammt*, *bei*, *seit*, *von*, *zuwider*;

Entgegen, *aufser*, *aus*, *ob*, *binnen*, *gegenüber*“
Nur immer mit dem *Wem*-Falle oder *Dativ* nieder.

(注意) *Gegenüber*, *entgegen*, *zuwider* は名詞の後に立つ

例せば Coblenz *gegenüber* liegt Ehrenbreitstein. Der Sünden ist dem Norden *entgegen*. Der Böse handelt den Geboten *zuwider*.

(其 三) 四格を支配する前置詞

四格を支配する前置詞を挙げれば下の如し

(暗誦に便利を興えんが爲に下の文は詩文體と知るべし)

Bei *durch*, *für*, *ohne*, *um*,
auch *fonder*, *gegen*, *wider*,
schreib stets den *Accusativ*
und nie den *Dativ* nieder.

(其 四) 三格と四格とを支配する前置詞

三格と四格とを支配する前置詞を挙げれば下の如し

(暗誦に便利を興えんが爲に下の文は詩文體と知るべし)

An, *auf*, *hinter*, *neben*, *in*;
Über, *unter*, *vor* und *zwischen*
stehen mit dem vierten Falle,
Wenn man fragt: „*Wohin?*“
Mit dem *Dativ* stehen sie so,
Daß man fraget: „*Wo?*“

此詩文に於て三格と四格との用法を陳述せり併し初學者の爲に其用法を説明すべし運動を現す折は四格に用ゐられ靜止を現す折は三格に用ゐらる

例せば

運動を現す場合
(Accusativ.)

1. Er klettert auf den Baum.
2. Er ging hinter das Haus.
3. Lege das Geld in den Kasten.
4. Setze dich neben mich.
5. Setze dich beim Gewitter nicht unter einen Baum.
6. Geh nicht unter die lärmende Menge.
7. Sie gingen vor's Thor.

u. f. w.

静止を現す場合
(Dativ.)

1. Du wirst morgen auf dem Berge sein.
2. Hinter unserem Hause ist ein schöner Garten.
3. Das Geld liegt in dem Schranke.
4. Mein Freund saß neben mir.
5. Unter dem Tische liegt der Hund.
6. Unter den Bürgern entstand große Zwietracht.
7. Vor dem Thore liegen die schönsten Landhäuser.

u. f. w.

(注意) 其他 auf が時の関係或は方法の関係を現す時には亦四格に用ゐられ其他の場合は三格に用ゐらるゝ

例せば (時の関係) Auf das Essen darf man sich keine heftige Bewegung machen. (食つた斗りで烈しき運動を爲すな)

(方法の関係) Auf Geratewohl sagen. (運に任せて謂ふ)

über が時の関係を現すと同時に (mehr als 何々より多く)と謂ふ意味を有する場合には亦た四格に用ゐらるゝ

例せば Er ist über drei Tage (三日間より多くと謂ふ意味) ausgeblieben.

(注意) die の三格と zu とが合體して zur となり der, das の三格と an, bei, in, von, zu (über, unter,

auf) とが合體して am, beim 等となり das の四格と an, auf, in, durch (um, für, gegen, unter, wider) とが合體して aus, aufs, ins u. f. w. とるな

第 三 章

接續詞 (Konjunktionen.)

1. 文章と文章とを連續させ或は文章と詞とを連續させ亦或は詞と詞とを連續させる詞を接續詞と謂ふ

例せば (文章と文章とを連續したる接續詞)

- 1) Weil er heute krank ist, kommt er nicht zu mir. (文章と詞とを連續したる接續詞)
- 2) Solche schönen Buchen, wie in diesem Walde stehen, habe ich sonst noch nicht gesehen.

(詞と詞とを連續したる接續詞)

- 3) das Holz der Birke taugt nicht zum Bauen, aber zum Brennen und Verkohlen ist es vorzüglich.
2. 接續詞の種類に二種あり即ち
 - a. 並立的接續詞 (Beiordnende Konjunktionen.)
 - b. 從屬的接續詞 (Unterordnende Konjunktionen.)

(其 一) 並立的接續詞 (Beiordnende Konjunktion.)

1. 並立的接續詞は獨立文章を交互に連續させる詞なり

例せば Ich gehe aus und er bleibt im Hause.

2. 並立的接續詞に種類より即ち下の如し

- 1) 排列的接續詞 (copulativ):
und, auch, zudem, außerdem, ingleichen, desgleichen, sowohl — als auch, nicht nur — sondern auch; weder noch.
- 2) 繼續的接續詞 (continuativ):
erst, dann, ferner, weiter, hernach, zuletzt, endlich; erstens, zweitens, drittens; zum ersten etc.
- 3) 分類的接續詞 (partitiv):
teils — teils; einerseits — andererseits.
- 4) 反對的接續詞 (adversativ):
aber, allein, doch, jedoch, dennoch, indessen, gleichwohl, vielmehr; sondern.
- 5) 類別的接續詞 (disjunctiv):
entweder — oder.
- 6) 場所的接續詞 (lokal):
da, daher, dahin.
- 7) 定時的接續詞 (temporal):
damals, dann, indessen; vorher, zuvor, eher, dann, darauf, hernach, seitdem.
- 8) 比較的接續詞 (comparativ):
so, also, eben so.
- 9) 比例的接續詞 (proportional):
desto, umso.
- 10) 制限的接續詞 (restrictiv):
so fern, in so weit.
- 11) 判決的接續詞 (conclusiv):
also, folglich, mithin, sonach, demnach; daher, darum deswegen, deshalb.

12) 原因的接續詞 (causal):

denn, nämlich.

13) 目的接續詞 (final):

dazu, darum, deswegen.

14) 約束的接續詞 (conditional):

denn, sonst.

15) 讓與的接續詞 (concessiv):

zwar, wohl.

純粹並立的接續詞は實に僅々にして und,* oder, allein, sondern, denn, aber, nämlich なり此接續詞が文章の初にある時は配語法 (Wortfolge) に毫も變動なく主言の次に直ちに動詞或は助動詞來るものなり

例せば Viele von unsern Bergen müssen einmal unter Wasser gestanden haben; denn sie sind ganz erfüllt von Muscheln und Seetier-Überresten.

純粹並立的接續詞を取り除き其他の並立的接續詞は皆な副詞より轉用されたるものにして若し文章の初に其接續詞がある時には動詞或は助動詞が主言の前に來る

例せば Böse Gesellschaft verdirbt gute Sitte, deshalb mußt du sie vermeiden.

*(1. 注意) und の後に現れる文章に於ては古來の習慣として動詞或は助動詞が主言の前に來ることあり

例せば Er ist seit drei Jahren weg, und hört und sieht man nichts von ihm.

(2. 注意) doch, jedoch, indessen, also の後に現れる文章に於ては亦配語法に變更なき場合あり即ち主言の後に直ちに動詞或は助動詞の來ることあり

例せば Heuschrecken haben viel Schaden angerichtet; doch unsere Gegend ist noch verschont geblieben; 或は
= doch ist unsere Gegend noch verschont geblieben.

並立的接續詞の例

1. Das Pferd dient zum Reiten; auch kann es zum Lasttragen gebraucht werden.
2. Die Katze vertilgt Mäuse; zudem dient sie manchen Menschen zum Vergnügen.
3. Die Bausteine bricht man zuerst aus der Erde; dann werden sie auf den Bauplatz geführt; hernach werden sie behauen, und endlich zusammengesügt und mit Kalk verbunden.
4. Entweder muß guter Samen gesät werden, oder man muß auf eine gute Ernte verzichten.
5. Er ist nicht unweise, sondern er benimmt sich nur so.
6. Die nördlichen Gewässer dünnen weniger aus; daher bringen die Nordwinde selten Regen.
7. Die Nordwinde wehen über kalte Meere; darum bringen sie uns Kälte.
8. Alles Irdische ist teilbar; folglich kann auch nichts Irdisches unzerstörbar sein.
9. Oft beißt der Zahn die Zunge; doch bleiben sie gute Nachbarn.
10. Berg und Thal wechseln auf der Erdoberfläche; ebenso ist es auf dem Meeresgrund.

(其 二) 從屬的接續詞 (Unterordnende Konjunktionen.)

1. 從屬的接續詞は複文章* (Nebensatz) を本文章 (Hauptsatz) に連續させる詞なり

例せば Gott hat alles wohl gemacht, wenn gleich die Menschen es nicht immer gemüßsam anerkennen.

2. 從屬的接續詞に種類あり即ち下の如し

- 1) 場所的接續詞 (lokal):

wo, woher, wohin.

- 2) 定時的接續詞 (temporal):

als, da, wie, während, indem, indessen, bis; nachdem, seitdem, seit; ehe, bevor.

- 3) 比較的接續詞 (comparativ):

wie, gleichwie, so wie, als.

- 4) 比例的接續詞 (proportional):

je (—je, desto, um so); je nachdem.

(注意) je—desto は je mehr—desto mehr となるものにして je と desto との後には必しも比較級の形容詞來るものと知るべし

- 5) 制限的接續詞 (restrictiv):

in wie fern, wiefern, sofern.

- 6) 判決的接續詞 (conclusiv):

sodas, weswegen, weshalb.

- 7) 原因的接續詞 (causal):

weil, da.

* (註) 或る文章に從屬する文章を複文章と謂ふ

8) 目的接續詞 (final):

auf daß, damit, um — zu.

9) 約束的接續詞 (conditional):

wenn, falls, wofern, wo nicht, wenn anders, außer wenn.

10) 讓與的接續詞 (concessiv):

ob, obgleich, obwohl, obfchon, wiewohl, wenngleich, ungeachtet.

11) 方法的接續詞:

indem, so daß, alsob, als wenn, wie wenn.

其他關係代名詞は本文章と複文章とを連続させるものにして従屬的接續詞と同じ働をなす

例せば der Mensch, welcher auf der Erde lebt, muß einmal sterben.

(1. 注意) 本文章の後に複文章來る時には本文章の配語法毫も變更する事なしと雖も若し本文章の前に複文章來る時には本文章の動詞或は助動詞は主言の前に來るものと知るべし

例せば Ich hatte geschrieben (本文章), als er mich besuchte (複文章), の時には變更なしと雖も併し Als er mich besuchte (複文章), hatte ich geschrieben (本文章). の時には主言と助動詞との位置が置きかへられる

(2. 注意) 従屬的接續詞を文章の初に有する文章即ち複文章は其動詞或は助動詞を必しも其文章の終尾に置くものとす

例せば Als er mich besuchte.

従屬的接續詞の例

1. Manches Kind ist davon krank geworden, daß es unreifes Obst gegessen hat.
2. Man weiß die Mondveränderungen daher genau, weil man sie lange beobachtet hat.
3. Man ist, damit man lebe.
4. Wenn Die Birne zeitig ist, so fällt sie ab.
5. Obfchon die Haushühner Flügel haben, schwingen sie sich doch selten empor.
6. Der Schnellfchreiber muß so schnell schreiben, als ein Redner spricht.
7. Während wir unsere Arbeiten machten, habt ihr gespielt.
8. Sobald ich seine Stimme hörte, erkannte ich ihn wieder.
9. Ehe man handelt, soll man denken.
10. Wo du nicht gefäet hast, kannst du auch nicht ernten.
11. Nachdem Paulus sich bekehrt hatte, war er der eifrigste Verkünder des Evangeliums.
12. Ein Feuer, welchem der Zutritt der Luft fehlt, kann nicht brennen.
13. Wer zufrieden ist, (der) ist glücklich.
14. Ob dieser Kranke geneset, ist sehr zweifelhaft.
15. Seitdem ich nichts mehr von der Sache gehört habe, bin ich ruhiger geworden.

第四章

間投詞 (Interjektionen.)

1. 間投詞とは喜怒哀樂其他苟も吾人に感情を起さしめる所の情に就て吾人が我れ知らず發する所の音聲を謂ふものにして一名 Empfindungslaut と謂ふ Empfindung とは感覺といふ義にて Laut とは音と謂ふ義なり間投詞は感覺を現す音聲なるを以て此稱あり間投詞は文章の初に置れることあり亦終に置れることあり亦或は中間に置れることあり此中間に置れるといふことより間投詞 (Interjektionen oder Zwischenwörter) の稱あり
2. 間投詞に種類あり即ち下の如し
 - 1) 喜怒哀樂等を現す間投詞
例せば Ach! o! ei! pfui! weh! ha! leider! hoho! oho! poh! u. f. w.
 - 2) 總ての音響或は動物の音聲を現す間投詞
例せば bang! klipp klapp! tick tack! husch! knacks! piff paff puff! miau! quak quak! etc. 其他笑聲を模擬するもの hahaha! hih!
 - 3) 他人に注意を與へ報知の意を與へる間投詞
he! heba! holla! sch! it! pit! 其他動物を恐怖させ或は馴らし亦是追ひ或は指揮するに用ゆる音聲は此の間投詞の中に屬するものと知るべし
(1. 注意) 間投詞の後には必ず叫喚符 (!) が立つものなり

(2. 注意) 他の詞も獨立して間投詞的に用ゐらるゝものあり或は亦た眞の間投詞と結合して其意味を強める爲に他の詞を用ゆることあり

例せば (他の詞の獨立して間投詞的になりたるもの)
brav! auf! Heil! frisch!

(他の詞にして眞の間投詞と結合して其間投詞の意味を強めたるもの)

o weh! o Gott! o leider! Ach um Gottes willen!

附 録 (Anhang.)

問 題 (Aufgaben.)

[第一章] 總論中に於ける問題

(一頁より六頁を熟讀して應答すべし)

(其一) 下の言語は幾莫の綴より成立するや:

Leib, Rad, Rat, Saat, Pfad, Fahrt, Klang, Treppe,
Kuppel, Widder, Ausland, Roggen, Stammsilben,
Verdoppelung, Milaute, Bezeichnung, Gewissenhaftig-
keit, Antihandindenhofenhaltenverein.

(其二) 下の言語を熟讀して初音, 中音, 止音を擧げよ:

Alter, man, Mamma, Kind, Wort, Vater, Sklave,
nächst, Haus, Traube, Bitte, Schritt, Palast, empfan-
gen, Trupp, Grenze, regnen, Berg, Erde, Begriff,
Treue, Zucht, Erziehung, Erz.

(其三) 下の言語を原綴, 前綴, 後綴に分解せよ:

verstoßen, vergeben, ermessen, begraben, begnügen,
erziehen, gewähren, gewinnen, begrafen, zerbrechen,
zerlegen, empfangen, empfehlen, empfinden, entbinden,
entbrennen, entwöhnen, entzündet, entzweien.

(其四) 下の言語を文書綴或は談話綴に分解せよ:

scheiden, scheinen, schenken, Schenker, scherzen, wenden,
Kinder, wirren, wogen, Zahler, zähmen, züchten.

(其五) 下の言語を熟讀して單言語と複合言語とを區別せよ:

Mann, Frau, Kind, Hausherr, Grobschmied, Gilbote,
Königssohn, Mannesmut, Menschenleben, Tierreich.

(其六) 下の詞を熟讀して其詞の所屬を詳にすへし:

Hund, ich, zwei, tröstlich, lernen, am Grabe, wöchent-
lich, ha, und.

[第 貳 章] 名詞全體に於ての問題

(六頁より二五頁を熟讀して應答すべし)

(其一) 下に列記する名詞を熟讀なし種族名, 集合名, 物質名を挙げよ:

Butter, Gewölk, Milch, Mensch, Tier, Volk, Stadt,
Vogel, Geschwister, Gebirge, Lied, Geist, Tag, Heer,
Vieh, Bier, Eisen, Wald.

(其二) 下の名詞は如何なる種類に屬するや:

Buch, Bauer, Gärtner, Tokyo, Wörterbuch, Schönheit,

Gold, Geschrei, Paris, Sokrates, Jugend, Sumida,
Mehl, Taube, Zufriedenheit.

(其三) 下に列記せる名詞の性を定めよ:

Wirbel, Schwindel, Wandel, Grabstichel, Hebel, Hobel,
Griffel, Scheitel, Kandel, Helfer, Bürger, Glimmer,
Klinker, Zwinger, Heber, Verweiser, Stößer, Dämpfer,
Brocken, Scherben, Bissen, Braten, Hering, Schilling,
Büchling, Schierling, Silberling, Königin, Schülerin,
Malerei, Kinderei, Nahrung, Waldung, Zeitung,
Freiheit, Ewigkeit, Freundschaft, Bürgerschaft,
Blümchen, Hündlein, Eigentum, Altertum, Schicksal,
Lafsal.

(其四) 1) 名詞の種類を舉げて其に例を附せよ

2) 無形名詞とは如何なるものぞ

3) 名詞の性に三種あり之を獨語及び羅句語にて記せよ

4) 多くの名詞は其性を異にするを以て其意味を異にするものあり其例を挙げよ

5) 名詞の單數, 複數に於て立つ場合を説明すべし

6) 單數を有せざる名詞を挙げよ

7) 複數を有せざる名詞を挙げよ

8) 名詞の格に四箇あり羅句語にて之を記せよ

- 9) 單數の第一格に名詞が來る時には如何なる變化を有するや
- 10) 男性, 女性, 中性の冠詞を變化せよ
- 11) 定冠詞と不定冠詞とは如何なるものぞ
- 12) 固有名と名質名とは如何なる場合に冠詞を有するや (附, 其例を擧げよ)
- 13) 下の文章を正せよ:
- Der Löwe, der Tiger, der Luchs und der Wolf sind reißende Tiere. Die Mutter und Schwestern sind ausgegangen.
- 14) 名詞に幾種の變化ありや
- 15) 強變化の三式とは如何なるものぞ

(其五) 下の名詞を定冠詞或は不定冠詞を附して變化せよ:

der Käse, der Schlüssel, der Garten, das Siegel, das Feuer, das Wasser, das Kloster, das Gebirge, das Gebäude, die Mutter, die Tochter, das Mädchen, Das Kindlein.

(其六) 下の名詞は第二式強變化に従ふ女性名詞なり其變化を記せよ:

Bank, Brunst, Flucht, Gunst, Klust, Kub, Einkunft, Kunst, Laus, Lust, Luft, Macht, Magd, Maus,

Nacht, Naht, Not, Nuß, Sau, Schnur, Schwulst, Stadt, Vernunft, Wand, Wucht, Wurst, Zucht, Zunft.

(其七) 下の名詞を變化せよ:

Die Kenntnis, das Hindernis, das Schicksal, der Monat, der König, der Jüngling, der Fährich, der Abt, der General, der Patron, das Epigramm.

(其八) 下の中性名詞は第三式強變化に従ふものなり下の名詞の複數第一格, 第四格を記せよ:

Nas, Amt, Bad, Band, Bild, Blatt, Brett, Buch, Dach, Daus, Ding, Dorf, Ei, Fach, Faß, Feld, Gehalt, Geld, Gemach, Gemüt, Geschlecht, Gesicht, Gespenst, Gewand, Glas, Glied, Grab, Gras, Gut, Haupt, Haus, Holz, Horn, Hospital, Huhn, Kalb, Kind, Kleid, Korn, Kraut, Lamm, Land, Licht, Lied, Loch, Mahl, Mal, Maul, Mensch (賤女, 遊女), Nest, Pfand, Rad, Regiment, Reis, Rind, Schild, Schloß, Schwert, Stift, Tal, Tuch, Volk, Wams, Weib, Wort.

(其九) 下の男性名詞は弱變化に従ふものなり其變化を記せよ:

Nar (罕に強變化に従ふ), Ahn, Affe, Bär, Barde, Barbar, Bauer, Bediente, Bote, Bube, Buchstabe, Buhle, Bürge, Burich(e), Christ, Dolmetsch, Drache,

Elefant, Elf(妖神), Erbe, Falke, Farre, Fels, Ferge, Fint, Fürst, Gatte, Geck, Gefährte, Gehilfe, Genosse, Gesell, Gespieler, Göke, Graf, Greif, Hagstolz, Hase, Heide, Held, Herr, Hirse, Hirt, Husar, Jube, Junge, Kempe, Knabe, Knappe, Kunde, Laie, Leopard, Leu (或は Löwe), Lump, Matrose, Mensch, Mohr, Mond, Nachbar, Nachkomme, Narr, Nefse, Nerv, Ochse, Pate, Pfaffe, Pfau, Prinz, Rabe, Rappe, Recke, Riese, Sasse, Schenk, Scherge, Schöffe (或は Schöppe), Schultheiß, Schulze, Schurke, Schütze, Senne, Sklave, Soldat, Spak, Sprosse, Star, Steinmetz, Thor, Truchseß, Untertan, Vagabund, Vetter, Vetter, Vorfahr, Zeuge.

- (其十) 1) 弱變化の語尾を挙げよ
 2) 混合變化の語尾を挙げよ
 3) das Herz は何の變化に屬するや(附. 其變化を記せよ)
 4) 混合變化に従ぬ名詞は何性の名詞なるや亦弱變化に従ぬ名詞は何性の名詞なるや
 5) 如何なる變化に屬する名詞が複數に於て變母音を有せざるや
- (其十一) 1) von なる前置詞或は二格に立つ「都」「村」等の言葉を付して其二格を知らしめる固有名は如何なる語尾を有するや

- 2) 如何なる場合に於て人名的固有名を複數に於て用ふるや
 3) der Herr なる言語が人名的固有名の前にある時には其固有名の變化如何

[第三章] 形容詞全體に於ての問題

(二五頁より三八頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 形容詞とは如何なるものぞ
 2) 名詞と結合する際客言的形容詞は如何なる動詞を要するや其動詞を挙げよ
 3) 客言的のみに用ひらるゝ形容詞を列記せよ
 4) 附加言的のみに用ひらるゝ形容詞を列記せよ
 5) 形容詞には三變化あり其名稱を記せよ
 6) 形容詞が強變化に従ふ場合は如何なる時ぞ
- (其二) 下の形容詞を名詞と共に變化すべし
 schön—Baum (男), schön—Tanne (女), schön—Haus (中), gut—Mann (男), fleißig—Schüler (男), hübsch—Mädchen (中), etwas gut—Wein (男), allerlei gut—Speise (女).
- (其三) 下の形容詞を名詞と共に變化すべし
 der dreist—Mensch, diese gehorsam—Frau, jene lieblich—Käse, solcher schreckhaft—Kerl.

(其四) 下の形容詞或は分詞を名詞と共に變化すべし

unser tapfer—Soldat, sein lieb—Vater, meine lieb—Mutter, ein müglich—Buch, ein lobend—Kind, eine geliebt—Tochter.

(其五) 1) du fleißig—Kind を變化せよ

2) 強變化の形容詞が男性の單數二格に於て en なる語尾を取るは如何なる場合ぞ

3) 如何なる場合に於て形容詞は弱變化に従ふや

4) 如何なる場合に於て形容詞は混合變化に従ふや

(其六) 1) 形容詞の比較變化とは如何なるものぞ

2) 比較變化に三種あり其名稱を記せよ

3) 原級に於て事物を比較する事あり其場合を問ふ

4) 形容詞が比較級、最上級に於て立つ時は如何なる變化の語尾を有するや

5) 比較級に於て r を取り最上級に於て est を取る形容詞は如何なる語尾を有する形容詞なるや

6) 下の形容詞の比較變化を爲せよ

z. B. gut, viel, wenig, hoch, nah.

7) 比較變化に於て變母音を有せざる形容詞を挙げよ

8) 形容詞中比較變化を有せざるものを挙げよ

9) 無關係的形容詞とは如何なるものぞ

10) 關係形容詞とは如何なるものぞ

11) 二格を支配する形容詞を挙げよ

12) 三格を支配する形容詞を挙げよ

13) 四格を支配する形容詞を挙げよ

14) 前置詞を要する形容詞を挙げよ

15) zu を伴ふ動詞を要する形容詞は如何なる性質を表はす形容詞なるや

(其七) 下の文章を熟讀して括弧内にある名詞の格を正せよ

Der Kranke ist (die Arznei) bedürftig. Mein Bruder ist (die englische Sprache) beflissen. Wir alle sind (die gegenseitige Hilfe) benötigt. Sei (die empfangenen Wohlthaten) eingedenk. Vor Sorgen wird mancher (das Leben) nicht froh. Jeder muß (seine Muttersprache) mächtig sein. Der Sohn ist (sein Vater) ähnlich. Sei (dein Wohlthäter) dankbar. Was (der Gesunde) zuträglich ist, kann (der Kranke) nachteilig sein. Der Maulwurf ist (die Gärten) zwar schädlich, aber auch zugleich müglich. Der Staub liegt (ein Finger) dick auf diesem alten Schranke. Ein Kubikfuß ist (ein Fuß) hoch, (ein Fuß) lang und (ein Fuß) breit.

〔第四章〕 動詞全體に於ての問題

(三八頁より八〇頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 動詞とは如何なる詞ぞや
 2) 動詞の種類を綿密に擧げ之に例を附せよ
 3) 主言動詞と補足言動詞とを區別し之に例を附せよ
 4) 純粹再歸動詞と假設的再歸動詞とを區別し之に例を附せよ
 5) 時の助動詞と説話法の助動詞とを枚擧し二三の例を付記せよ
- (其二) 1) 動詞の變化とは如何なるものぞ
 2) 人稱及び數の關係を表す動詞の變化を記せよ
 3) 動詞の時とは如何なるものぞ
 4) 動詞の時を綿密に區別し一々例を附せよ
 5) 動詞の時に用法あり其重なる用法を記せよ
- (其三) 1) 動詞の説話法とは如何なるものぞ
 2) 動詞の説話法を區別し一々例を附せよ
 3) 動詞的副説話法を分類し一々例を付せよ
 4) 過去分詞に於て *ge* なる前綴を取らざる動詞を綿密に列記すべし

5) 下の (a) は (b) に等し其理由を記せよ

- (a). Er hat den Vater begleiten dürfen.
 (b). Er hat den Vater begleiten gedurft.

- (其四) 1) 組立動詞とは如何なるものぞ
 2) 分離動詞と非分離動詞とは如何なるものぞ
 3) 分離せざる組立動詞とは如何なるものぞ一二の例を擧げよ
 4) 或時は分離し又或時は非分離となる組立動詞を擧げよ
 5) 動詞の單獨變化とは如何
 6) 動詞の組立變化とは如何
 7) *haben* 及び *sein* なる助動詞の用法を記せ
 8) *haben*, *sein*, *werden* の大過去一人稱を記せ
- (其五) 1) 動詞の變化に三種あり獨逸語にて之を記せよ
 2) 強變化動詞に幾種の變化あるや
 3) 下の動詞を現在, 半過去, 過去分詞に變化せよ
 (*ich*) *trinken*, (*ich*) *befehlen*, (*ich*) *schwimmen*, (*ich*) *essen*, (*ich*) *schlagen*, (*ich*) *fangen*, (*ich*) *reiten*, (*ich*) *bleiben*, (*ich*) *heissen*, (*ich*) *schließen*, (*ich*) *fangen*, (*ich*) *schwören*, (*ich*) *schinden*.
- (其六) 1) 動詞の弱變化とは如何なる變化か一二の例を擧げて説明せよ

- 2) 不規則變化に従ふ動詞を枚擧すべし
- 3) 下の動詞を現在, 半過去, 過去分詞に變化せよ
(ich) arbeiten, (ich) zeichnen, (ich) lernen, (ich) können, (ich) senden.

- (其七) 1) 動詞の加働式及受働式とは如何なるものぞ二三の例を擧げて説明せよ
- 2) loben を加働式に變化せよ
 - 3) loben を受働式に變化せよ

- (其八) 1) 四格の補足言を要する動詞を擧げよ
- 2) 四格と三格との兩補足言を要する他動詞を擧げよ
 - 3) 四格と二格との兩補足言を要する他動詞を擧げよ
 - 4) 四格に立つ兩個の補足言を要する他動詞を擧げよ
 - 5) 四格と三格との兩補足言を要する再歸動詞に付き例を擧げよ
 - 6) 四格と二格との兩補足言を要する再歸動詞を擧げよ
 - 7) 三格の補足言を要する自動詞を擧げよ
 - 8) 二格の補足言を要する自動詞に付て例を擧げ一格の補足言を要する自動詞を枚擧せよ

- (其九) 下の文章を熟讀して括弧内の名詞或は代名詞の格を正せよ但し文章中の動詞は皆三格を支配するものとす

(D. Reisende) ist ein großes Unglück begegnet. Du hast (ich) treulich beigestanden. Wir danken (du) für deine Hilfe. Er dient (wir) mit Freuden. Es fehlt (du) am Eifer. Der Vater fluchte (d. misratene Sohn). Ein Unglück folgt (d. andere). Wie gefällt (ihr) dies Spiel? Die Kinder sollen (ihre Eltern) gehorchen. Das Wasser mangelte (wir). Wir naheten (die Stadt). Was (d. eine) nützt, schadet oft (d. andere). Schmeichle (niemand). Traue (keiner), der (du) schmeichelt. Der Beharrliche tröst (d. Unglück). Das Kind wich ängstlich (d. Fragen) aus. Wir winkten (d. Fährmann), uns überzusetzen. Auch (d. Mächtige) ziemt Bescheidenheit.

- (其十) 下の文章を熟讀して括弧内の名詞或は代名詞の格を正せよ但し文章中の動詞は皆二格を支配するものとす

Wir harrten vergeblich (deine Ankunft). Jeder warte (sein Amt). Nimm (jeder Umstand) sorglich wahr. (dieser Umstand) gedachte er nicht. Wir bedürfen (euer Rat). (d. Silber) achtete man zum Zeiten Salomo. So laufen wir nach dem, was vor

uns flieht, und achten nicht (d. Weg), den wir treten.
Er gebent (d. Verbot) seines Vaters. Gebent, o
König, (dein edles Wort).

(其十一) 下の文章を熟讀して括弧内の名詞或は代名詞
の格を正せよ但し文章中の動詞は四格(事物的)
と三格(人稱的)とを支配するものとす

Der Herr schenkte (der Sklave) die Freiheit. Der
Händler bot (der Bauer) dreihundert Mark. Er
borgte (wir) Geld gegen hohe Zinsen. Warum willst
du (ich) das Buch nicht leihen? Ich bringe (ihr)
gute Nachricht. Ich gönne (er) seine Freude. Er
klagte (ich) seine Not. Die Feinde ließen (die
unglücklichen Einwohner) kaum das nackte Leben.
Der Weinberg liefert (wir) reichen Ertrag. Er hat
(wir) brieflich seine Ankunft gemeldet. Der Arzt
wollte (der Kranke) nicht alle Hoffnung nehmen. Ich
würde (er) die Bitte gern gewähren. Er hat sein
Leben (der Dienst) des Vaterlandes gewidmet. Der
Verleumder sucht (wir) die Ehre zu rauben.

(其十二) 下の文章を熟讀して括弧内の代名詞の格を正
せよ但し文章中の動詞は四格(事物的)と三格
(再歸代名詞的)とを支配するものとす

Ich traute (ich) mehr zu, als ich leisten konnte. Du
mahest (du) ohne Grund den Vorzug an. Sie bilbet

(sie) sehr viel ein. Ich habe (ich) bei dem Verkauf
gewisse Rechte ausbedungen. Du hast (du) ein großes
Werk vorgenommen. Den unendlichen Raum und
die ewige Zeit kann man (sich) nicht vorstellen.

(其十三) 下の文章を熟讀して括弧内の名詞の格を正せ
よ但し文章中の動詞は四格(人稱的)と二格(事
物的)とを支配するものとす

Man klagt die Frau (der Diebstahl) an. Er be-
schuldigte mich (die Doppelzüngigkeit). Man bezich-
tigte den Beamten (die Untreue) und enthob ihn
(sein Amt). Der Tod des Sohnes hat ihn (seine
besten Hoffnungen) beraubt. Ich kann dich (deine
Verpflichtungen) nicht entbinden. Der Richter hat
den Verbrecher (seine Schuld) überführt. Deine
Angaben überheben uns (die Mühe) weiteren Nach-
forschens. Man würdigte mich kaum (ein Blick).
Wir haben die lässige Magt (ihr Dienst) entlassen.
Er versicherte uns (seine vollständige Ergebenheit).

(其十四) 下の文章を熟讀して括弧内の名詞の格を正す
べし但文章中の動詞は四格(再歸代名詞的)と
二格(事物的)とを支配するものとす

Die Frau nahm sich (der verlassene Knabe) an. Die
Japaner bedienen sich beim Essen (zwei Stäbchen)
statt der Gabel. Kinder sollen sich (die Ordnung)

befleißigen. Der Feind hat sich (die Stadt) bemächtigt. Unser Nachbar hat sich (sein Besitz) entäußert. Der Kranke enthielt sich (die Speise). Wir mußten uns (jede Hoffnung) ent schlagen. Ich entfinne mich (der Vorfall) nicht mehr. Erbarme dich (der Notleidende). Er erinnerte sich (jeder Umstand). (Solche That) hätte sich nicht jeder erkühnt. Wir konnten uns (die Mücken) kaum erwehren. Der Glückliche freut sich (die Gegenwart), der Leidende getröstet sich (die Zukunft). Der Bescheidene rühmt sich nicht (seine Leistungen). Viele schämen sich (ihre Armut). Wir haben uns (die kleine Mühe) gern unterwunden. Er versah sich (keine Hilfe). Verwundert euch (das) nicht. Die Frau weigerte sich (keine Arbeit).

〔第五章〕 代名詞全體に於ての問題

(八〇頁より九六頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 代名詞とは如何なるものぞ
 2) 代名詞の種類を記し之に例を附せよ
 3) 人代名詞一般に付き綿密に説明せよ
 4) 物主代名詞とは如何なるものぞ
 5) 下の物主代名詞を變化せよ
 mein (男), unser (男); meine (女), eure (女); sein

(中), ihr (中); meiner (男), meine (女), meines (中);
 der meine, die meinige, das meine.

- (其二) 1) 指示代名詞とは如何なるものぞ
 2) 名詞と結合されずに獨立して名詞的となりたる指示代名詞 der, die, das を變化せよ
 3) 下の指示代名詞を變化せよ
 derjenige, diejenige, dasjenige; derselbe, dieselbe, dasselbe; jener, jene, jenes; dieser, diese, dieses.
 4) 下の指示代名詞を名詞と共に變化せよ
 solcher Mann, solche Frau, solches Buch; solch ein Schüler, solch eine Kuh, solch ein Kind; ein solcher Soldat, eine solche Gattin, ein solches Haus.
- (其三) 1) 關係代名詞とは如何なるものぞ
 2) 關係代名詞 wer, was を變化せよ
 3) 下の關係代名詞を變化せよ
 der, die, das, welcher, welche welches.
 4) 關係代名詞 io の用法を問ふ
- (其四) 1) 疑問代名詞とは如何なるものぞ
 2) 下の疑問代名詞を名詞と共に變化せよ
 was für ein Mann, was für eine Frau, was für ein Kind.
 3) was für einer, was für eine, was für eines を變化せよ

- (其五) 1) 不定代名詞とは如何なるものぞ
 2) 不定代名詞中變化を有せざるものを挙げよ
 3) Jemand と niemand とを變化せよ
 4) 下の不定代名詞を變化せよ
 Jedermann, man, keiner, einer.

[第六章] 數詞全體に於ての問題

(九六頁より一〇三頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 數詞とは如何なるものぞ
 2) 一より百までを獨逸語にて唱へよ
 3) 下の數を獨逸語にて謂ふべし
 1.891 2.238 58.727 71.008 111.111
 281.999 718.356 998.777.
 4) 下の數詞を名詞と共に變化せよ
 zwei Leute, drei Frauen, ein Mann, der eine Mann:
 5) einer, eine, eines を變化せよ
- (其二) 1) 第五, 第六, 第廿, 第百 を獨逸語にて謂ふべし
 2) der dritte, der zehnte, mein erstes Kind, meine zweite Tochter を變化せよ

- (其三) 1) 不定數詞中變化を有せざるものを挙げよ
 2) 下の不定數詞を名詞と共に變化せよ
 alle meine Arbeit, all mein Geld, all dieses Volk,
 dieses alles Getreide.
- (其四) 1) 下の詞を變化せよ
 das sämtliche Herr, sämtliche Anwesenbe, die
 gesammte Familie, ganz Frankreich, jeder Mensch,
 ein jeder Schüler, kein Papier, einige Mädchen,
 etliche Kindlein, einiger Wein, mancher Arme,
 manche Leute, viele Kinder, die ganze Familie,
 etwas Brot.
- (其五) 1) 不定數詞中冠詞或は定詞を其前に附すること
 出來ざるものを挙げよ
 2) einige は如何なる時に單數に用ゐらるゝや
 3) 組立數詞とは如何なるものぞ
 4) viel は如何なる場合に於て變化を有せざるや
 5) ganz は如何なる場合に變化を有せざるや

[第七章] 副詞全體に於ての問題

(一〇三頁より一〇九頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 副詞とは如何なるものぞ
 2) 副詞の種類を挙げよ

- 3) 方法の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 4) 程度の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 5) 數量の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 6) 場所の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 7) 時の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 8) 説話法の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 9) 原因の副詞を枚舉し一二の例を記せよ
- 10) halb, gern の比較變化を記せよ
- 11) 純粹の副詞にして比較變化を有するものを枚舉せよ

[第八章] 前置詞全體に於ての問題

(一一〇頁より一一五頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 前置詞とは如何なるものぞ
- 2) 二格を支配する前置詞を枚舉せよ
 - 3) 三格を支配する前置詞を枚舉せよ
 - 4) 四格を支配する前置詞を枚舉せよ
 - 5) 二格と三格とを支配する前置詞を枚舉せよ
 - 6) 三格と四格とを支配する前置詞を枚舉せよ
- (其二) 下に例記する文章中に於て括弧内の名詞或は代名詞の格を正せよ

Ein sanfter Hügel erhebt sich unweit (d. Fluß).
 Längs (d. Weg) floß ein Bächlein. Der Betrüger
 erwarb sich mittels (mittelfst, vermittelst) (ein gefälschter
 Brief) unser Vertrauen. Gestern zogen die Truppen
 kraft (d. Vertrag) aus der Stadt. Laut (kaiserlicher
 Befehl) verließen die Truppen die Stadt. Wir waren
 besorgt wegen (dein Ausbleiben). Mach dir wegen
 (ich) keine Sorge. (Dein Rat) zufolge schoben wir
 die Reise auf. Zufolge (sein Vorschlag) schoben wir
 die Reise auf. Um (der Friede) willen gab ich nach.
 Vermöge (seine bedeutenden Mittel) konnte er auch
 während (der Krieg) seine Unternehmungen fortsetzen.
 Ungeachtet (d. Befehl) blieben die Truppen oberhalb
 (d. Hof) stehen. Unterhalb (d. Stadt) ließ sich der
 Damm (alle Anstrengungen) ungeachtet nicht halten.
 Trotz (d. gewaltige Sturm) wagten wir uns auf die
 See. Auch innerhalb (d. Stadt) mußten einige Häuser
 geräumt werden. Das Haus des Einsiedlers stand
 inmitten (eine wilde Einöde). Seine Besitzungen
 dehnen sich diesseit und jenseit (d. Gebirge) aus.
 Du machst (deine Zerstretheit) halben keine Fort-
 schritte. (Ich) halben magst du gehen. Er kam
 statt (sein Vater).

- (其三) 下に列記する文章中に於て括弧内の名詞或は代名詞の格を正せよ

Nach (ein ermüdender Marsch) holten wir bei (d.

Stadt) unsere Freunde ein. Der Ausbruch der Feindseligkeit wurde von (wir alle) seit (Monate) erwartet. Das ganze Dorf samt (d. Herrenhaus) wurde binnen (kurz) ein Raub der Flammen. (Der ausdrückliche Befehl) zuwider, waren die Truppen aus (d. Lager) gegangen; sie wurden nebst (alle Offiziere) gefangen. (Alle unsere Erwartungen) entgegen fiel Regenwetter ein. Nach (lange Abwesenheit) sahen wir die Heimat wieder. (D. Haus) zunächst steht eine alte Linde. Der Tapferkeit der Truppen haben wir nächst (d. Einsicht und d. rasche Mut) des Führers den Sieg zu danken. Aus (reiner Übermut) hatte er sich von (seine Freunde) getrennt. Aus (d. Stadt) führt dich ein schattiger Fußsteig binnen (wenige Minuten) zum Gipfel des Berges. (D. Zeugen) gegenüber wagte er nicht seine Schuld zu leugnen.

(其四) 下に列記する文章中に於て括弧内の名詞或は代名詞の格を正せよ

Wir waren durch (viele Geschäfte) abgehalten, früher etwas für (du) zu thun. Ohne (deine Sorge) um (ich) würde ich dieser Gefahr nicht entgangen sein. Wer nicht für (ich) ist, ist wider (ich). Bayard nannte man den Ritter sonder (Furcht) und sonder (Tadel). Er ist stets freundlich gegen (ich) gewesen. Bis (dieser Augenblick) habe ich gewartet.

(其五) 下の文章中括弧内のものの格を正すべし

Der Mensch ist oft blind gegen (d. zahllosen Wunder), die er um (er) sieht. Während (d. ganze Tag) habe ich mich um (du) geängstigt. Gegen (d. Rat) mancher guten Freunde machte er sich noch in (späte Abendzeit) auf (der Weg). Innerhalb (zwei Monate) hoffte er nebst (seine Familie) zu (seine alte Heimatstätte) zurückgekehrt zu sein. (Alle Warnungen) ungeachtet versuchte er mittelst (dieses gebrechliche Fahrzeug) durch (d. tosenden Bogen) zu fahren. Er kämpfte mit (jugendliche Kraft) wider (d. Strom und d. Wind); zunächst (d. kleine Werber) wurde das Boot von (d. Schollen) zerdrückt; binnen (kurz) war jede Spur verschwunden. Wir schauderten ob (d. gräßliche Schauspiel). Laut (eine polizeiliche Bekanntmachung) muß innerhalb (zwei Tage) das Haus geräumt werden. (Ein Gerücht) zufolge ist die Königin nebst (ihr Hofstaat) angekommen. Die Bäume längs (d. Ufer) sind fortgerissen. Mit (gutes Recht) haben weise Männer die große, schöne Natur mit (ihre Sterne, Berge, Blumen und vielerlei Tiere) auch ein großes Buch Gottes für (d. Menschen) genannt, das nur statt (d. Buchstaben), worinnen die heilige Schrift verfaßt ist, in lauter Gestalten geschrieben sei. Auf (jedes Blatt) dieses großen Natur-

buches steht auch von (die Liebe) Gottes zu (die Menschen) und zu (alle seine Geschöpfe) geschrieben.

(其六) 下の文章中括弧内のものの格を正すべし

Das Haus liegt an (d. Ufer) des Flusses. Wir gingen an (d. schöne Ufer) des Flusses spazieren. Wir stiegen aus (d. Boot) an (d. Land). Der Knabe ist auf (d. Baum) gestiegen. Er sitzt oben auf (d. Baum). Auf (unsere Scheune) nistet ein Storch. Der Vogel setzt sich auf (d. Dach). Tritt hinter (ich). Hinter (d. Garten) breiten sich fruchtbare Felder aus. Ich saß neben (dein Freund). Sie begruben ihn neben (seine Frau). Lege das Buch neben (du). Der Apfel fiel neben (ich) zur Erde nieder. Der Hirsch flüchtete in (d. Wald). Der Hirsch wurde in (d. Wald) aufgeschreckt. Er stürzt in (d. dichte Schar) der Feinde. Der Pfeil flog über (d. Haus). Der Adler kreist über (d. Felsen). Über (d. Gemälde) war ein Vorhang gebreitet. Über (d. Gemälde) hing ein Schleier. Geräumige Keller liegen unter (d. Haus). Die Schacht des Bergwerks ziehen sich weit unter (d. Stadt). Wir legten eine Decke unter (d. Füße). Das Erdreich erzitterte unter (unsere Füße). Ein Musikkorps ritt vor (d. Truppen). Zehn Jahre lagen die Griechen vor (d. feste Stadt). Die Feinde rückten mit Heeresmacht vor (d. Stadt).

Die Knaben sind hinausgegangen vor (d. Thor). Die Knaben sind draußen vor (d. Thor). Man warf kleine Münzen unter (d. Menge). Der Dieb verlor sich unter (d. Menge). Zwischen (unser Garten und d. Feld) fließt ein Bächlein. Er drängte sich zwischen (ich und du). Ich habe auf (d. Straße) lange auf (du) gewartet. Auf (das bloße Gerücht) kannst du ihn nicht verurteilen. Auf (dieser Weg) wirst du nie etwas erreichen. Auf (diese Weise) wirst du nie etwas erreichen. Auf (dein Wort) allein kommt es an. Er stützt sich auf (unwiderlegliche Beweise). Er geriet auf (der Einfall), in (kürzeste Frist) und unter (jede Bedingung) seine Liegenschaften zu verkaufen. Er besteht auf (seine Forderung), beruft sich auf (dein Zeugnis) und rechnet auf (deine Unterstützung). Er kam auf (d. Minute). Auf (diese Antwort) war ich nicht gefaßt. Ich habe den ganzen Tag über (diese Sache) nachgedacht. In'sgeheim sandte er Boten aus, um Erkundigungen über (der Feind) einzuziehen. Über (d. Hälfte) der Schiffe hat den Hafen verlassen. Die Arbeit gelang über (alle Erwartungen) gut. Über (das Angenehme) muß man nicht (das Notwendige) vergessen. Wir sprachen über (der Krieg). Er ist schon über (ein Jahr) fort.

〔第九章〕 接續詞全體に於ての問題

(一一五頁より一二一頁を熟讀して應答すべし)

- (其一) 1) 接續詞とは如何なるものぞ
 2) 接續詞の種類を挙げよ
 3) 並立的接續詞を區別せよ
 4) 從屬的接續詞を區別せよ
 5) 純粹並立的接續詞を枚舉せよ

(其二) 下の文章中の接續詞を熟視し其接續詞の所屬を示せよ

Der Vater war in der Fremde, und die Mutter war zu Hause. Ich werde dich morgen besuchen, oder du kannst auch zu mir kommen. Da Xerxes ein ungeheures Heer zusammengebracht hatte, hoffte er die Griechen leicht zu überwinden; allein bald mußte er einsehen, daß er sich in seinen Erwartungen getäuscht hatte. Wir dürfen nicht nur die Umsicht des Feldherrn loben, sondern wir müssen auch die Tapferkeit der Truppen anerkennen, welche die Beschwerden standhaft ertrugen und den Gefahren mutig entgegen gingen. Ich warne dich, daß du ihm traust; denn ich will dir wohl. Die Ernte ist reif, aber es fehlen die Schnitter. Die Soldat war festlich geschmückt; man erwartete nämlich die Ankunft des Fürsten. Die

Sonne scheint; doch ist es ziemlich kalt, da der Wind aus Osten kommt. Seit mehreren Jahren hat man von dem Schiffe nicht mehr gehört; also muß man wohl annehmen, daß es untergegangen ist. Das Korn stand prächtig und ließ reichen Ertrag erwarten; indessen hat ein Hagelschlag die ganze Ernte vernichtet.

〔第十章〕 間投詞全體に於ての問題

(一二二頁より一二三頁を熟讀して應答すべし)

- 1) 間投詞とは如何なるものぞ
 2) 間投詞を一名 Empfindungslaut と謂ふ其所以を問ふ
 3) 喜怒哀樂等を現す間投詞を挙げよ
 4) 他の詞にして間投詞的になりたるものを挙げよ
 5) 間投詞の後には如何なる記號を附すや

所有
版權

明治三十三年九月八日
明治三十二年十一月四日
明治三十一年十一月一日
明治三十年九月十一日
印刷

印刷所

東京市京橋區築地二丁目十七番地
株式會社 東京築地活版製造所

發行所

大阪市東區心齋橋筋博勞町
株式會社 丸善大阪支社

發行所

東京市日本橋區通三丁目十四番地
丸善株式會社書店

印刷者

東京市京橋區築地三丁目十五番地
野村宗十郎

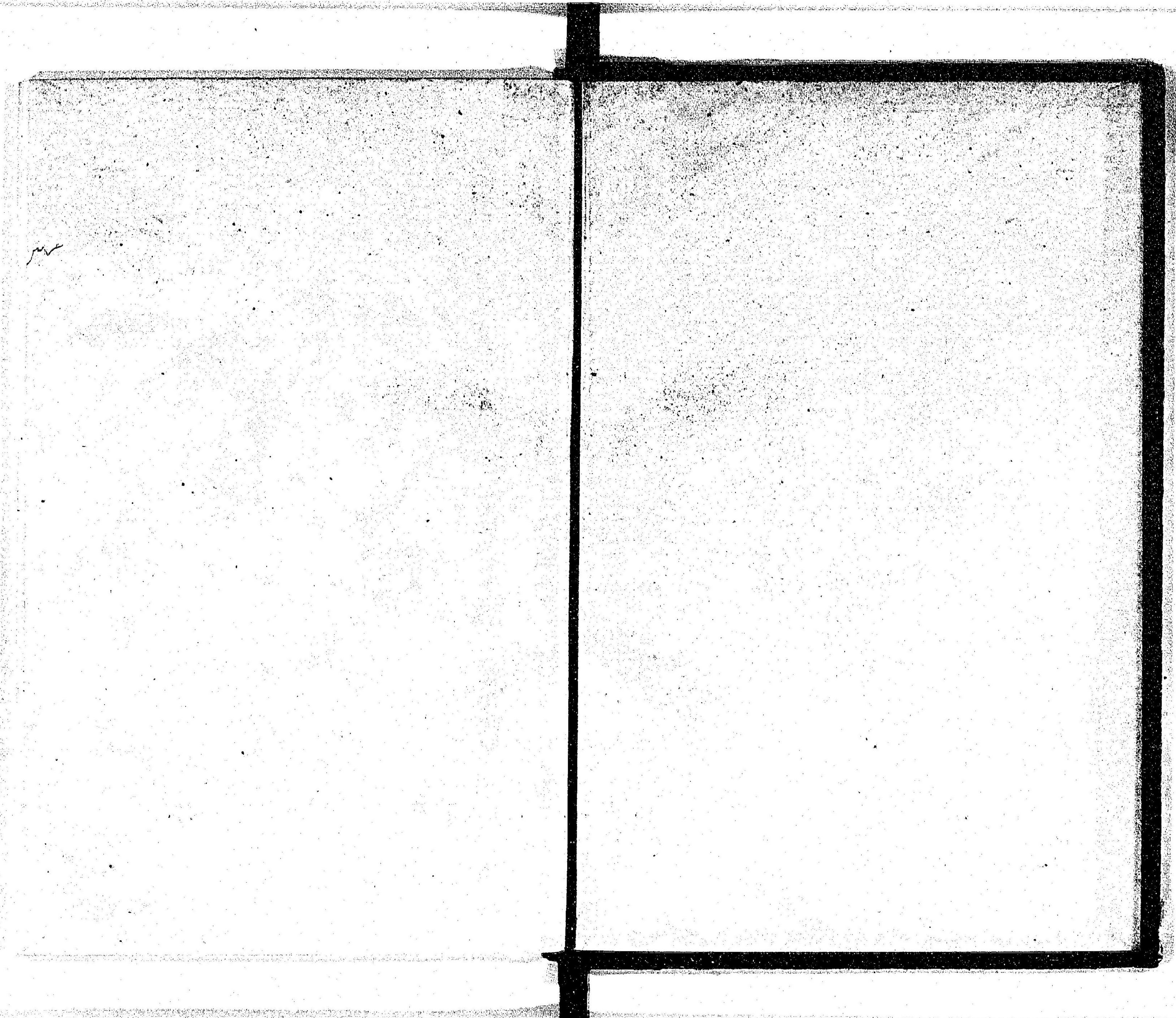
發行者

東京市日本橋區通三丁目十四番地
小柳津要人

編輯者

宮城縣仙臺市片平町十五番地
三谷金女三







084479-000-6

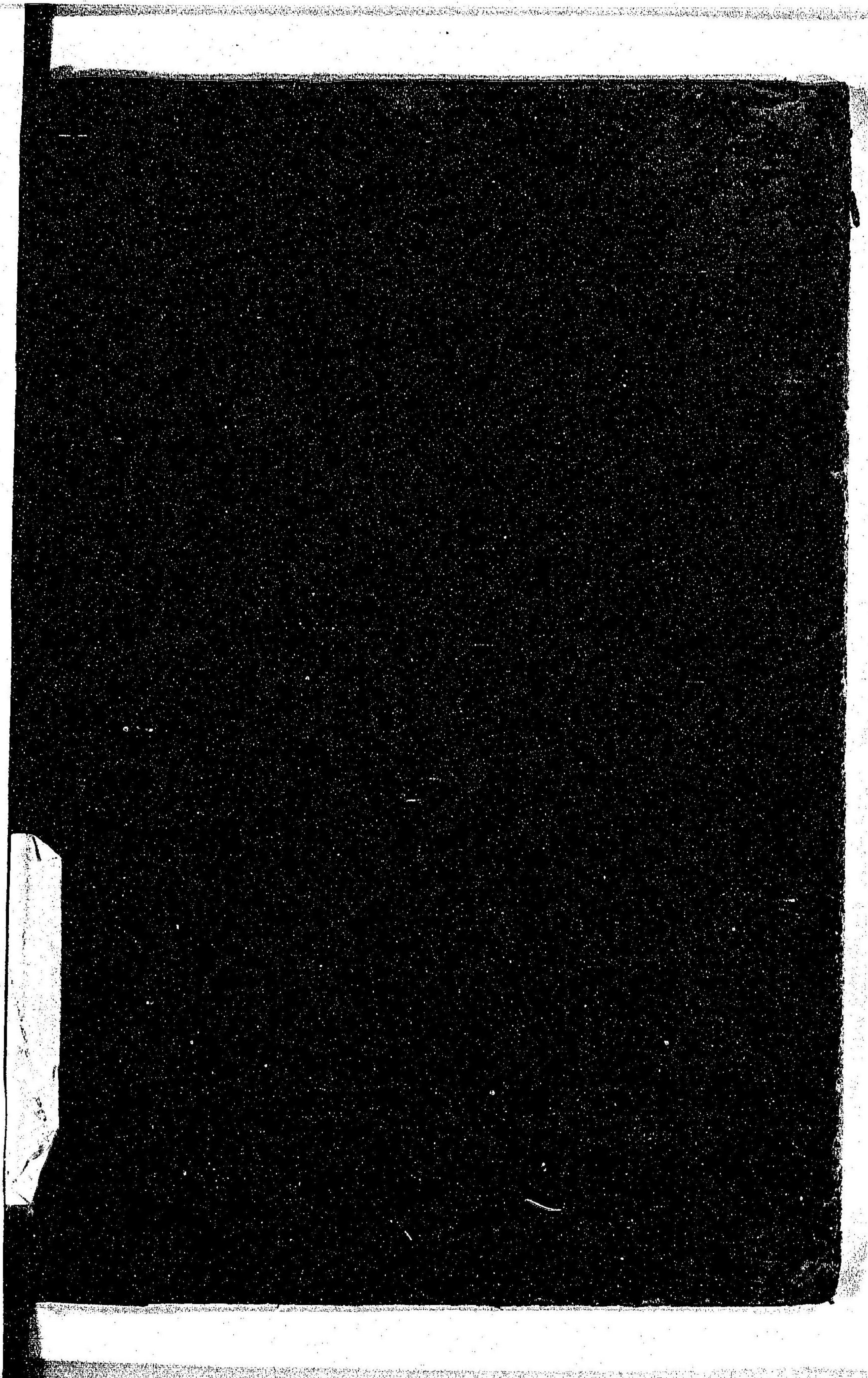
130-32(洋)

独逸文典 卷1

三谷 金女三/著

M32

DAI-0115



130

32

